

岩手県総合計画審議会

令和7年度第5回県民の幸福感に関する分析部会

日時：令和7年8月6日(水) 9:30～11:30

場所：エスポワールいわて 3階 特別ホール

次 第

1 開 会

2 議 題

- (1) 第4回部会の補足説明について
- (2) 令和7年度「幸福について考えるワークショップ」における意見等について
- (3) 令和7年度「県民の幸福感に関する分析部会」年次レポート（素案）について
- (4) その他

3 閉 会

配付資料一覧

○資料 1	第 4 回分析部会関係補足資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
○資料 2	令和 7 年度「幸福について考えるワークショップ」における意見等・・	5
○資料 3	令和 7 年度年次レポート（素案）・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
○資料 3-2	令和 7 年度年次レポート（素案）【概要版】・・・・・・・・・・	117

(第 4 回分析部会関係補足資料)

1 社会生活基本調査の回収率等について

(1) 回収率

総務省統計局が所管する調査であり、全国平均の回収率は公表資料で確認できたが、本県分としての回収率は把握していない。

なお、令和 3 年の調査は、県内約 1,600 世帯の世帯員約 3,600 人（10 歳以上）を対象に実施した。（全国では約 9 万 1 千世帯、約 19 万人）

ア 回収率（全国） 単位：％

	H23調査	H28調査	R 3 調査
回収率	96.2	95	91.9
うち当初抽出世帯	82.7	78.4	71.8

※ 1 当初抽出世帯が回答しない場合、別途調査対象世帯を選定している。

※ 2 回答者世帯に対し、1 世帯当たり 800 円程度の謝礼の品を贈呈している。

イ 調査方法

調査員が調査区内の世帯を訪問し、調査対象世帯の候補リストを作成、都道府県は当該候補リストの中から調査対象世帯を選定している。

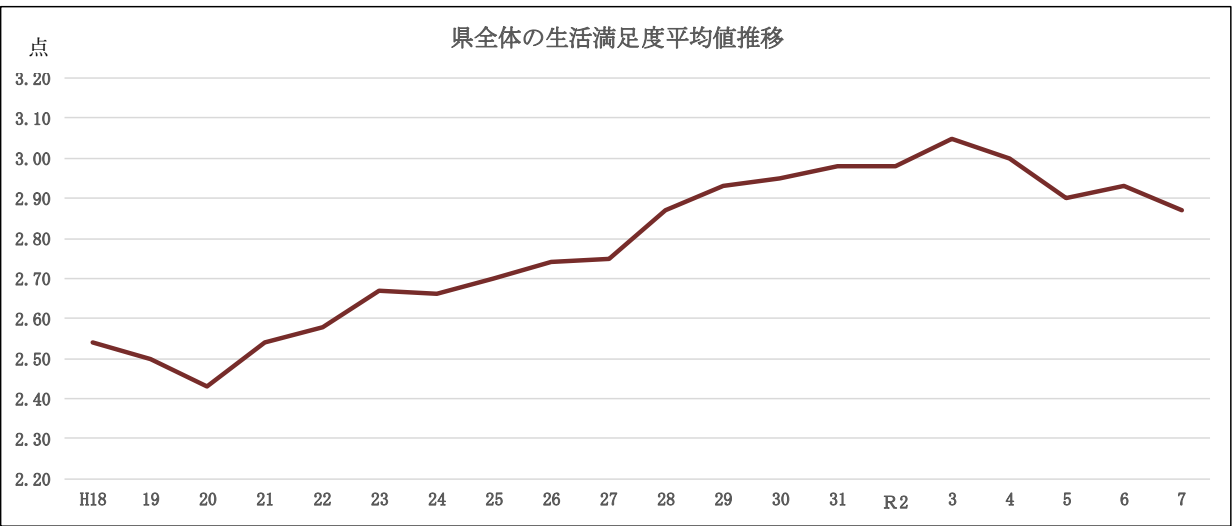
また、調査票の回収は、原則として、調査員又はオンラインによる方法を採用している。

(2) 回答者の属性について

総務省公表資料及び当課保管資料でも確認することはできなかった。

2 県民意識調査に関する満足度について

(1) 県全体の推移



県全体の満足度平均値

調査年	H18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	R 2	3	4	5	6	7
全県	2.54	2.50	2.43	2.54	2.58	2.67	2.66	2.70	2.74	2.75	2.87	2.93	2.95	2.98	2.98	3.05	3.00	2.90	2.93	2.87

※ 当該値は、「満足」を 5 点、「やや満足」を 4 点、～中略～「不満」を 1 点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数で除し、県全体の平均値として数値化したもの。

令和7年度「幸福について考えるワークショップ」における意見等について

1 開催目的

いわて県民計画（2019～2028）の推進に向け、県民に「幸福」について考える機会を提供するとともに、ワークショップを通じて県民の幸福感に関する意識を把握し、政策評価等に活用する。

2 対象とした分野別実感

- ① 地域の安全
- ② 必要な収入や所得

3 ワークショップの開催状況等

（1）ワークショップの開催状況

	開催日	開催地域	参集者	
			人数	備考
第1回	6月18日 (水)	県北 (普代村)	19名 (男性11名、 女性8名)	役場職員等
第2回	6月21日 (土)	沿岸 (山田町)	11名 (男性1名、 女性10名)	勤労者、主婦
第3回	6月23日 (月)	県央 (岩手町)	15名 (男性7名、 女性8名)	地域おこし協力隊、団体職員、主婦、農業
第4回	6月26日 (木)	沿岸 (釜石市)	19名 (男性4名、 女性15名)	有償ボランティアの会 会員
第5回	7月3日 (木)	県北 (洋野町)	12名 (男性2名、 女性10名)	高校生、地域おこし協力隊、農業、会社員
第6回	7月5日 (土)	県南 (花巻市)	9名 (男性4名、 女性5名)	団体職員、フリーター、大学生、高校生
第7回	7月9日 (水)	県央 (盛岡市)	18名 (男性15名、 女性3名)	中学生、高校生、地域おこし協力隊、塾講師、盛岡市議

※ 第8回以降の開催は調整中

(2) ワークショップにおいて出された意見等

① 地域の安全

	普段感じていること	考えられる解決策・自分ができること
第1回 普代村	☐ 獣害・道路環境に関する不安 - クマやシカなどの獣害が増加。箱罠などで対応しているが、人的被害の懸念あり (30代：男性) - 中心地以外の道路が暗く、外灯が少ないため夜道が危険 (20代：女性) - 歩道の草刈りや倒木処理など環境整備が不十分で、獣害を誘引する可能性がある (30代：男性) - 歩道が狭く、子どもや高齢者の通行に危険が伴う (20代：男性) ☐ 交通・マナーに関する課題 - 高齢者による危険な運転が目立つ (20代：女性) - まちなかで路上駐車が多く、交通の妨げになっている (20代：男性) - 道路脇にゴミのポイ捨てが多く、景観や衛生面に問題 (30代：女性) ☐ 医療体制への不安 - 地域の医療機関が少なく、特に産科が不足。普通出産以外は二戸病院へ (30代：女性) - 通院先が村外で、八戸まで通う人もいる。近隣に病院がないことが不安・不便 (30代：女性) ☐ 災害対応・地域防災 - 震災以降は大きな被害はないが、消防団の加入者が減少しており、有事対応に不安 (20代：男性) ☐ 治安・地域のつながり - 犯罪はなく、駐在さんも「安全な村」と評価 (30代：男性) - 治安は良好。酒癖の悪い人はいるが、変質者などの心配はない (20代：男性) - 家の施錠をしない住民が多く、安全な地域であることの証 (20代：男性) - 顔が見える関係性が強く、地域内で助け合いができています (30代：女性)	☐ 地域の安全と防犯 - 地域全体で防犯意識を高める啓発活動が必要 (30代：男性) - 防犯は地域や役場だけでなく、連携して取り組むことが重要 (30代：女性) ☐ 高齢者支援と見守り体制 - 独居高齢者の増加に伴い、安心して暮らせる見守りの仕組みが求められている (30代：男性) - 高齢者の免許返納後の生活支援策が不十分で、返納が進まない懸念がある (30代：女性) ☐ 生活支援と福祉連携 - 通院支援など、日常生活のサポートが必要 (20代：女性) - 社会福祉協議会や他団体との情報共有・連携のための話し合いの場が求められている (30代：女性) ☐ 有事対応と職員体制 - 村外在住の職員が増えており、災害など有事の際の対応体制を見直す必要がある (20代：男性)
第2回 山田町	☐ 野生動物の出没による不安 - クマやシカが地域でも見られるようになり、特に子どもの通学時に不安を感じている (30代：女性) ☐ 交通安全への懸念 - 狭い道路でもスピードを出す車があり、交通量も増加。ゾーン30の設置を希望 (30代：女性) - R45号豊間根付近ではカーブが多く、スピードを出す車が多い。通勤時に煽られることもあり、取締強化を求める (20代：女性) ☐ 治安・防犯への不安 - 不審者や声かけ事案が増えている印象があり、地域の安全に不安を感じている (40代：女性) ☐ 夜間の安全確保 - 町中から離れると外灯が少なく、中高生の部活帰りが遅くなるため心配。学校から町に要望済み (40代：女性) ☐ 災害リスクへの懸念	☐ 情報収集・発信 - インフォ山田への登録により、災害情報や地域イベントなどをスマホで受け取れるようにする (30代：男性) ☐ 地域の安全・環境整備 - 学校と地域が連携して街灯設置を求める声を上げる (40代：女性) - 楽しみながら参加できる防災訓練を通じて、防災意識を高める (50代：女性) ☐ 近隣とのつながり - 隣近所への挨拶や声かけを

	普段感じていること	考えられる解決策・自分ができること
	・ソーラーパネルの増加により、大雨時の土砂災害が心配 (30代：男性) ・防波堤ができたことで海が見えなくなり、津波などの不安がある (70代：女性) ・浸水地域に住んでいるが、引っ越しの余裕がなく不安を抱えている (50代：女性) ・沿岸部で山火事が続いており、災害ごとの避難方法が分からず不安 (40代：女性) ☐ 地域の防災活動 ・自治会で独自の避難訓練を実施しており、できるだけ参加している (30代：男性) ☐ 子どもの安全対策 ・スクールガードの活動に感謝している (30代：女性)	積極的に行う (20代：女性) ・近所に気軽に集まれる場所がほしい徒歩圏内が理想 (70代：女性) ☐ 地域参加・世代間交流 ・地域 (市町村・県域など) に関わる機会を増やす (30代：男性) ・若い世代が参加したくなる企画の調査や、世代を越えた対話の場の継続 (20代：女性) ☐ デジタル活用・学びの場 ・SNSの活用を広げるとともに、高齢者向けの勉強会を開催 (20代：女性)
第3回 岩手町	☐ 野生動物・自然環境に関する課題 ・クマ・シカ・サルの出現と作物被害、通学路の安全確保が課題 (30代：女性) ・空き家が動物の住処となり、危険が増加していると感じる (40代：男性) ・空き家の放置が犯罪の温床になる懸念 (30代：男性) ・崩れた路肩や倒木への対応が遅い (30代：男性) ☐ 通学路・道路環境の安全性 ・通学路に歩道がない箇所があり、スピードを出す車が多く危険 (40代：女性) ・冬道では除雪された雪が歩道に残り、車道を歩いてしまうことがある (90代：女性) ・道路環境整備への参加者が減り、危険箇所が増えていると感じる (60代：男性) ・川口駅からの線路沿いに外灯がなく、夜間は暗くて不安 (30代：男性) ☐ 生活環境・地域コミュニティ ・一人暮らしで夜間に不安を感じる (70代：女性) ・住民交流の希薄化により、情報共有の仕組みが減少。PTAは機能している様子 (40代：女性) ・地域コミュニティの維持が難しくなり、安心安全の基盤が崩れ始めている (30代：男性) ・人口減少により、通院・救急搬送・買い物など生活インフラや支援の仕組みが失われている (50代：女性) ・子どもが気軽に遊べる場所が減っている (30代：女性) ☐ 防災・気候変動への意識 ・過去に大きな自然災害はなく、防災意識が低い (15年前の浸水程度) (50代：女性) ・首都圏からの移住者が、想定外の暑さに驚いている (20代：男性) ☐ 高齢者支援・治安 ・高齢者見守りシステム「あいネット」を活用している地域もあ	☐ 地域のつながり・交流 ・ご近所での声掛けをしていく (60代：男性) ・世代交流を通じて、お互いに気に掛け合う関係づくりをしていく (50代：女性) ・協力隊としても、積極的に地域に出向き、話をする (40代：男性) ・近所に気軽に集まれる場所づくり。郷土料理を教えたい (90代：女性) ☐ 空き家対策・制度整備 ・空き家の解体など行政ができる法整備が必要。普段のつながりから、地域で空き家になる前の関係づくりもしていく必要がある (30代：男性) ・空き家解体への補助制度がほしい (30代：男性) ☐ 除雪・環境整備 ・地域でできる範囲の除雪をする (20代：男性) ☐ 交通安全・啓発 ・交通事故は起きていないが、交通安全の意識啓発は必要。たまたま事故が起きていないだけ。 (40代：女性)

	普段感じていること	考えられる解決策・自分ができること
	り、地域内での話し合いが行われている (60代：女性) ・治安は良好と感じており、過去2年間は交通事故もない (30代：男性)	
第4回 釜石市	☐ 野生動物の出没 ・もともとシカが多い地域だが、近年は熊や猿が住宅地付近に出没しており、住民の安全が脅かされている (60代：女性) ☐ 訪問販売・詐欺への不安 ・廃品回収業者や訪問販売が増加しており、詐欺被害への懸念がある。ただし、地域活動の中でどこまで関与できるか悩んでいる (50代：女性) ☐ 夜間の移動の不安 ・駅やイオン周辺以外は外灯が少なく、午後6時以降は公共バスの運行がなくなるため、徒歩での移動が怖い (20代：女性) ☐ 交通マナー・インフラ ・スピードを出す車や横断歩道付近でのマナーの悪化を感じる (60代：男性) ・信号や標識が不足しており、通学路の安全確保が課題。スクールガードの担い手不足も深刻 (70代：男性) ・道路がでこぼこで、免許がない高齢者にとって徒歩移動が困難 (70代：女性) ・無灯火やスマホを見ながら運転する自転車が増えており、罰則の周知が不十分 (40代：男性) ☐ 災害対応・地域防災 ・土砂災害地域が多く、震災経験もある釜石では、日頃の交流が災害時の対応につながると考え、自主避難訓練を実施している (60代：女性) ・ハザードマップなどの防災情報が住民に届いているか不安 (20代：女性) ・消防団員の確保が困難で、団員になっても日中に地域にいるのは高齢者が中心という現実 (70代：男性) ☐ 医療・救急体制 ・医療機関の減少により、総合病院はあるものの診療科が少なく、緊急時の不安がある (50代：女性) ・救急車が物理的な距離や台数の問題で間に合わないこともある (60代：男性) ☐ ゴミ出しと個人情報 ・ゴミ袋に氏名を記載するルールが、個人情報の流出につながるのではないかという懸念 (40代：女性)	☐ 高齢者支援と情報発信 ・高齢者の免許返納に伴う支援が求められており、当倶楽部の活動はその一環。利用者を増やすため、積極的な情報発信が必要 (60代：女性) ☐ 地域のつながりづくり ・「お互い様」の精神で、気にかけて合う雰囲気づくりを目指す (40代：女性) ・世代を越えた交流の場をつくり、地域の絆を深める (40代：男性) ・若い世代も含め、地域の人々と積極的に交流していく (20代：女性) ☐ 安全・防災活動の継続と強化 ・体力が続く限りスクールガードを続け、後継者の発掘にも努める (70代：男性) ・交通安全教室など、注意喚起の取り組みを企画する (50代：女性) ・消防団員として、同年代や後輩を誘い、地域防災力を高める (40代：男性) ☐ 会員のスキルアップと連携 ・倶楽部会員のスキルアップを図る事業を企画し、市社会福祉協議会と連携して取り組む (60代：女性)
第5回 洋野町	☐ 交通・道路環境の課題 ・学校付近の横断歩道：木々とカーブにより車の視認性が悪く、歩行者用信号もないため危険 (10代：女性) ・外灯の不足：部活帰りなど夜間の歩行に不安を感じる (10代：女性)。運転者も外灯の必要性を感じており、カーブや十字路などに反射材の設置を望む (40代：女性) ・道路の狭さと見通しの悪さ：木々に囲まれた道路で標識が隠れている箇所もあり、交通量が少ない分、荒い運転が目立つ (30代：女性) ☐ 空き家・土地の管理	☐ 地域の見守り・交流の促進 ・ご近所での声掛けを通じて、日常的な見守りや安心感のある雰囲気づくりを進めたい (70代：女性) ☐ 交通安全対策の強化 ・横断歩道に信号機の設置を求め、注意喚起の看板も設置してほしい (40代：男性)

	普段感じていること	考えられる解決策・自分ができること
	・空き家の増加：倒壊の危険や獣の住みつきによる防犯面の不安があり、地域で草刈りなどの仕組みが求められている（40代：男性） ・耕作放棄地の荒廃：手入れされないことで不法投棄が増え、景観や衛生面に悪影響（60代：男性） ☐ 医療・高齢者の生活 ・医療機関の遠さ：ドクターヘリの到着にも時間がかかり、高齢者の通院が困難（60代：女性） ・町内会の脱退増加：高齢者の町内会離れにより、回覧板などの情報が届きにくく、地域交流が希薄化（70代：女性） ・独居・高齢者世帯の増加：日常生活の安定が難しくなっている（60代：男性） ・老後の不安：「このままここで暮らしていけるのか」と将来への不安（50代：女性） ☐ 環境・災害リスク ・ソーラー発電による山の伐採：保水力の低下により、土砂災害や農業用水の確保に影響が出ている（50代：女性） ・高校の立地：土砂災害区域にあり、災害時の安全性に不安（10代：女性） ☐ 地域の助け合い ・大雪時の除雪支援：地域住民による助け合いがある（70代：女性）	・学校付近の横断歩道近くにある木が視界を遮るため、伐採してもらいたい（10代：女性） ☐ 危険箇所の点検と情報共有 ・地域の道路などの危険箇所を点検し、学校や集落で情報共有したうえで、役場などに報告して対応を検討してもらいたい（30代：女性） ☐ 空き家の活用による居場所づくり ・空き家を活用して、地域の人が集える居場所をつくりたい（50代：女性）
第6回 花巻市	☐ 通学路・交通環境の課題 ・通学路に陥没や草が生えていて、自転車が車道を走る状況（10代：女性） ・通学路に「変な人」が立っていることがある（10代：女性） ・小学校近くではスクールガードによる見守りがある（40代：女性） ・農免道路や田んぼ道はカーブが多く、スピードを出す車が多い。高齢者の服装が暗く、発見が遅れる（20代：女性） ・運転者・歩行者・自転車利用者の交通ルール違反が多い（30代：男性） ☐ 夜間の安全・外灯不足 ・湯本地域では外灯が少なく、車・自転車・徒歩すべてが危険（40代：女性） ・外灯が少ない場所で不法投棄が多発（30代：男性） ・農道などにも外灯設置を希望する声（20代：女性） ☐ 獣害・治安に関する意識 ・獣害のニュースは増えているが、身近に感じられない（20代：女性） ・治安は良好との認識。施錠忘れでも安心して暮らせるが、最近是人より熊が怖い（40代：女性） ☐ 空き家・地域の雰囲気 ・ハナレヤでは空き家を活用中。空き家・空き店舗の増加は町の雰囲気や防犯に影響（30代：男性） ☐ 防災・災害への備え ・自然災害が少ないため、地域の状況を知らない（20代：男性） ・地域で防災訓練が行われておらず、防災意識が低いと感じる（30代：男性）	☐ 地域コミュニティ・交流のあり方 ・監視ではなく、互いに気にかけて合う地域コミュニティが理想。相談や情報共有によって詐欺被害の抑止につながる（40代：女性） ・世代に括らない交流の場が必要（20代：女性） ・近所付き合いはまず挨拶から始めたい（30代：男性） ☐ 交通安全・教育の必要性 ・大迫地域では高速道路と一般道路のスピード差が少なく、信号も少ないため、子ども向け交通安全教室が重要（30代：男性） ・運転者・歩行者ともにマナー向上が必要（20代：女性） ☐ 道路整備に関する要望 ・道路の整備をしてほしい（10代：女性）

	普段感じていること	考えられる解決策・自分ができること
	代：男性) ・降雪量は減っているが、除雪後の雪が歩道を塞ぐことがある (20代：女性) ☐ 地域活動・世代交流 ・親が地域活動に参加しているため、自分は参加しない (20代：女性) ・高齢者・子ども・若者の世代交流の機会が少ない。無関心な人も見られる (20代：女性)	
第7回 盛岡市	☐ 交通・通行に関する課題 ・自転車通行ルールを守らない人がいて、同じレーンで双方向通行になり危険 (10代：男性) ・高齢者の自転車がふらついて危険。押して歩く場合も狭い道路では幅を取り、追い越し時に不安 (10代：男性) ・自転車専用道路の必要性。通学時間帯は生徒優先にするなどの対応が必要。通学路でもスピードを出す車がいて心配 (30代：男性) ☐ 視界・環境の安全性 ・民家から木の枝が道路にはみ出したり、カーブ付近の草丈が高く視界が悪い箇所がある (10代：男性) ・大慈寺の道路沿いのフェンスは、夏に植物が生い茂り見通しが悪くなる (10代：男性) ☐ 夜間の安全 ・住宅街でも外灯が少なく、帰りが遅くなると暗くて怖い (10代：女性) ・飯岡地区は外灯が少ない (10代：男性) ☐ 交通量・車両の危険 ・交通量が多く、特に右折車が多くて危険 (10代：男性) ・学校統廃合により送迎が増え、学校周辺で交通渋滞や路上駐車が発生し、危険性が高まっている (40代：男性) ☐ 地域の治安・自然の脅威 ・エリアによっては万引き事件があったと聞いた (10代：男性) ・保育園近くに熊が出たことがあり、町中でもそうした危険があると感じた (10代：女性) ☐ 地域の見守り活動 ・PTA や町内会がスクールガードとして子どもたちの見守りをしている (50代：女性) ☐ 安心できる場所・行動 ・盛岡駅周辺は人も店も多くて安心感がある (10代：女性) ・校則で禁止されているため、ゲームセンターには行かない (10代：男性)	☐ 地域・行政への対応と情報共有 ・外灯や道路状況は地域または行政が対応すべきとの認識。学校を通じてでも住民の声を伝えてほしい (40代：女性) ・民家からはみ出る樹木などの危険箇所は、地域で対応する意識がある (40代：男性) ☐ 自転車マナー・交通安全教育 ・罰則もあるため、学校で自転車マナー教室を実施すべき (10代：男性) ☐ 野生動物への対応 ・クマが出たら盛岡市動物公園 ZOOMO の園長を呼ぶ (10代：男性) ☐ 情報リテラシー教育 ・子どもたちの様子を見ながら、情報リテラシーを教えたい (30代：男性)

② 必要な収入や所得

	普段感じていること	考えられる解決策・自分ができること
第1回 普代村	☐ 雇用と働き方 ・選ばなければ仕事はあるが、若者が地元で働きたいと思うかは疑問（30代：男性） ・自宅から通勤し、現在の収入で生活できている（20代：女性） ・欲を出さなければ生活できる（20代：男性） ・地域に関わるあらゆることが仕事であり、働き方改革とのバランスが難しい（30代：女性） ☐ 第一次産業の課題 ・漁業への国の補助が少なく、全体的に元気がない。農業は手厚いが、漁業は支援が少ないと感じる。1千万円以上の経営体はあるが、産業全体の底上げが必要（30代：男性） ☐ 人口減少と税収 ・理想の平均手取りは30万円。将来を考えると不安（20代：男性） ☐ 地域ブランドと差別化 ・村や特産品のブランディング・付加価値が必要。差別化しないと選ばれない（30代：女性） ☐ ネット社会とスキル習得 ・どこにいてもできる仕事はあるが、ノウハウを学ぶ機会が少ない（20代：女性） ☐ 若者の流出と地域の諦め ・若者が村を離れ、大人は諦めている（20代：男性）	☐ 産業・環境・未来への対応 ・環境の変化が農業・漁業などの産業に影響している。未来を見据えた施策の検討と取り組みが必要（30代：男性） ☐ 地域財源の強化 ・ふるさと納税の増加を目指す（20代：男性） ☐ 行政の役割と雇用創出 ・行政として雇用創出に向けた取り組みをさらに強化すべき（30代：男性） ☐ 地元定住支援 ・収入を求めて村外で働く人が増えても、地元に住み続けられるような支援策を検討する必要がある（30代：女性） ☐ 新しい仕事づくり・起業支援 ・起業支援や起業後の相談対応など、新しい仕事づくりに取り組む（20代：男性） ☐ 福祉職の環境整備と社会理解 ・保育士や介護士などの経済面を含む環境整備が必要。当事者だけでなく社会全体での理解促進が求められる（20代：女性）
第2回 山田町	☐ 就労・雇用に関する課題 ・求人では差がないが、実際に就職すると男女間格差があり、女性が発言しづらい雰囲気がある（40代：女性） ・正社員を目指して資格取得中だが、子育てには収入が足りない（30代：女性） ・現職の仕事内容に対する報酬は妥当と感じるが、収入を上げるための就活は条件が厳しく、生活改善が難しい（40代：女性） ・「パート」「女性」「シングルマザー」といった属性で見られるイメージや自己諦めが、環境変化を妨げている（40代：女性）	☐ 働き方・収入の工夫 ・本業以外の収入（投資含む）を得られる工夫をする（20代：女性） ・岩手県は最低賃金が安いので、全体的底上げをしなければ人材は流出する（30代：男性） ・夏休みが終わったらアルバイトができるので、自分のお小遣いを

	普段感じていること	考えられる解決策・自分ができること
	・女性には雑務的な仕事が多く、大きな仕事を任される機会が少ないため、モチベーション維持が困難（20代：女性） ・若者の声が届きにくく、人数の多い年代の意向が優先され、業務改善が進まない（20代：女性） ・セクハラがなくなり、一定年齢層の上司の意識改革が必要（20代：女性） ・目標や個人の成長を実感できる機会が少ない（20代：女性） ☐ 生活・経済的な不安 ・生活はできる収入はあるが、子どもの希望する習い事をさせる余裕がなく、生活に余力がない（30代：女性） ・給料が横ばいのまま物価（特に食料品）が上昇しており、生活が厳しい（50代：女性） ・自治会費や募金の集金が説明なく行われ、地味に支出がかさむ（50代：女性） ・年金生活で節電や通院回数を減らすなど慎ましく暮らしているが、収入増の見込みがなく老後が不安（70代：女性） ☐ 教育・進学に関する声 ・親に負担をかけずに進学するには勉強を頑張るしかない（10代：男性） ・沿岸地域では職業選択が限られており、高収入を求めるなら町外・県外に出るしかない。進学した子どもも戻ってこない（50代：女性） ・新卒・転職ともに職業選択の幅が狭いと感じる（20代：女性） ・首都圏と比べてインターンシップ期間が短く、就職後のミスマッチが懸念される（20代：女性） ☐ 働き方の変化 ・リモートワークで山田に住みながら勤務しており、勤め先では男女の給与格差はないと感じている（30代：男性）	稼ぐ（10代：男性） ☐ スキルアップ・自己成長 ・今受けている女性就業支援講座でスキルアップをする。（30代：女性） ☐ 人との関わり・社会参加 ・経済状況で左右されない、人との関わりを見つける（40代：女性） ☐ 内面の変化・自己理解 ・「見えない壁」は、自分の気持ちの中にもある。まずはそれを変える（40代：女性）
第3回 岩手町	☐ 雇用・職業環境 ・職業の選択肢が少なく、町の事業所の賃金は高くはない（40代：女性） ・魅力的な企業が少なく、雇用の受け皿が少ない（20代：男性） ・子育て中でパート勤務。もっと働きたいが、条件に合う職場が近くにない（30代：女性） ・町全体で収入を上げる取り組みが弱く、企業誘致も地域に受け入れられなかった過去がある。意識醸成が必要（60代：男性） ☐ 生活コスト・住環境 ・前の居住地と比べて、収入に対して家賃などの不動産単価が高く、買い物や移動費も意外にかかる（30代：男性） ・物価高で買い物や通院が困難。国民年金での生活は厳しく、子どもに仕送りを頼みにくい（90代：女性） ☐ 地域産業・収入の工夫 ・温暖化の影響で農業収入の浮き沈みが激しい（60代：男性） ・産直に野菜を出してお小遣い稼ぎをしている（60代：女	☐ 地域活性化と企業誘致 ・地域経済の活性化を目指し、地元との丁寧な話し合いを重視（30代：男性） ・地域に根差した雇用のあり方を見直し、柔軟な働き方や人材活用を模索（40代：男性） ☐ 個人の成長とキャリア形成 ・自分の可能性を広げるため、複業や学びを積極的に取り入れる（20代：男性） ・起業も視野に入れた教育機会の整備と支援体制の構築（40代：男

	普段感じていること	考えられる解決策・自分ができること
	性) ・小さい事業所を経営しており、それなりに満足している。(40代：女性) ・自分の特技を生かして複業をしており、今のところ安定している(30代：男性) ☐ 移住・働き方の価値観 ・転職して移住したことで収入は減ったが、消費は手頃で、精神的な豊かさを感じている(40代：男性) ・所得向上には本人の意欲と、複業支援・リカレント教育支援などの仕組みが必要(30代：男性) ・職業や稼ぎ方の選択肢はあるが、情報にアクセスしにくい環境にあるのではないかと(20代：男性)	性) ☐ 人とつながる場と環境づくり ・起業やスキルアップを支えるため、地域に開かれた場や情報環境を整備(30代：男性) ☐ 現場での誠実な働き方 ・現在のポジションでできることに全力を尽くす姿勢(50代：女性)
第4回 釜石市	☐ 地域の活気と人口動態 ・震災後は復興関連の仕事が多く、町全体に活気があったが、現在は人口減少と高齢化により店舗の閉店が目立ち、町に元気がない(40代：女性) ・若者が地元で働きたいと思っても、正社員の職場が少なく、安定収入を求めて都会へ向かう傾向がある(40代：男性) ☐ 働き方と収入の悩み ・収入とやりがいのバランスが難しく、パートを増やして対応している(50代：女性) ・将来の安心感が持てず、子どもの進学や親の介護を考えると収入を上げる必要性を感じる(40代：女性) ・複業といえば聞こえは良いが、実態はバイトの掛け持ちである可能性が高い(50代：女性) ☐ 高齢者の就労と生活不安 ・高齢者がコンビニや道路工事現場で働いている姿が目立つ。元気な高齢者が増えた一方で、生活不安を抱える人も増加している(70代：男性) ☐ 産業の変化と未来への不安 ・漁業では海水温の変化により水揚げされる魚種が変化。燃料費の高騰や担い手不足もあり、港町の未来が見通せない(60代：女性) ☐ 雇用環境と賃金の問題 ・岩手県全体で時給が低すぎる(40代：男性) ・求人情報と実際の仕事内容が乖離しており、雑用的な業務で最低賃金の雇用が多い(40代：女性) ・学歴や資格があっても田舎では活かす機会が少なく、諦めている人も多い(50代：女性) ☐ 消費行動と地域経済 ・趣味的な買い物は市外で行うことが多く、地域内での消費が少ないため経済が回らない可能性がある(40代：男性) ☐ 年金と生活コスト ・年金が減少し物価が上昇。厚生年金でも医療費や移動費などの負担が増している(60代：男性) ☐ 若者のやりがいと生活コスト ・地域経済活性化を目指して職業を選んだ若者も、やりがい	☐ 家計・生活防衛 ・収入が変わる事がないので、より一層節約に取り組んでいく(70代：女性) ☐ 雇用・経済活性化 ・雇用環境を整える、待遇改善するなど実は時間はかかるが、安定雇用が経済の活性化につながると思う(60代：男性) ☐ 労働条件・最低賃金 ・岩手県の最低賃金を上げるよう声を上げていく(50代：女性) ☐ 金融教育・資産形成 ・資産運用を学ぶ機会を作る。子どものうちからお金の勉強をする(40代：男性)

	普段感じていること	考えられる解決策・自分ができること
	はあるが給料に対して家賃が高く負担を感じている(20代:女性)	
第5回 洋野町	☐ 地元の就職環境と不安 ・大野に事業所が少なく、希望職種に就けるか不安(10代:女性) ・地元にはない事業に挑戦したく、資格取得と経験を積んでから戻る予定(10代:女性) ・地元以外では久慈や八戸が通勤圏だが、自活できる給料が得られるか不安(10代:女性) ☐ 給与・雇用形態への懸念 ・公務員以外は給料が安く、正社員と契約社員で基本給に差がある。家賃も高く、卒業後は起業か転職が必要(30代:女性) ・共働きが当たり前の社会でも、女性に負担が偏り、給料体系でも不利(40代:女性) ☐ 働き方の変化と収入機会 ・働き方が変化し、アイデアと実行力がある人は収入機会が増えている(40代:男性) ・起業しながら地域に関わる仕事も行い、収入源を複数持つてリスクヘッジ(40代:男性) ☐ 商売・生活の工夫 ・商売は厳しいが、できることを積み重ねて生活。野菜を作って産直に出すことも始めた(60代:男性) ・病気で離職し収入がほぼゼロ。フリマ出店を始めたが生活は困難。行政支援制度が不明で、子どもに頼るのは避けたい(60代:女性) ☐ 転勤・雇用の制限 ・転勤族で希望職種が見つからず、短期やパート勤務しか選択肢がない(40代:女性)	☐ 働く環境や支援制度 ・働く女性(特に母親)に対して、現場の声を反映した現実的な職場環境の整備と支援策の推進を求める(40代:男性) ・働くことの魅力を伝えるために、事業所による積極的な情報発信が重要である(40代:男性) ☐ 働くことへの意識や準備 ・先輩や先生の話をよく聞き、情報収集をしながら、自分が働く姿を具体的にイメージすることが大切(10代:女性) ☐ 地域文化と仕事のつながり ・食に関わる仕事を通じて、地元の食文化や食材(山菜・きのこなど)の伝承に努めていきたい(70代:女性) ☐ 社会制度への提案 ・ベーシックインカムを導入を望む(30代:女性)
第6回 花巻市	☐ 収入・生活水準 ・収入は少ないが、余暇やボランティア活動などで充実感を得ている(20代:男性) ・福祉施設勤務でも生活レベルの向上が見込めず、余裕ある暮らしには遠い(30代:男性) ・都会と地方で支出に差はなく、むしろ給料が安い家庭や趣味に手が回らない(30代:男性) ・地元には条件の良い就職先が少なく、専門職への道が狭い(20代:女性) ☐ 働き方・キャリアの悩み ・学業とアルバイトの両立が難しく、収入を増やしたくても時間が足りない(20代:女性) ・Uターン起業後、原材料高騰などでカフェ開業が遅れ、経費も嵩み一人で仕事をこなす日々(30代:男性) ・現職(窓口業務)では昇給が見込めず、スモールビジネスを	☐ 地域活性・事業支援 ・カフェ併設の居場所をオープンし、事業を軌道に乗せる(30代:男性) ・起業やスキルアップを支援する仕組みづくりと環境整備(30代:男性) ☐ 働き方・雇用改善 ・岩手県の最低賃金を引き上げる。収支バランスが成立する社会に向けた支援策が必要(40代:女性)

	普段感じていること	考えられる解決策・自分ができること
	検討中（40代：女性） ・地元優先で仕事選びを後回しにした結果、今から転職するのは難しいと感じている（20代：女性） ☐ 地域特性・生活環境 ・地方では移動手段として車が必須であり、大きな出費となっている（30代：男性） ☐ 価値観・働く意味 ・対価を得る労働だけでなく、「人のために動く」ことに充実感を見出したい（30代：男性）	・資格や能力で評価される環境がほしい（20代：女性） ・自己研鑽を通じて、より良い条件での転職を目指す（20代：女性） ・キャリア教育を深めるサポートと機会の提供（30代：男性） ☐ 消費・税制 ・消費税減税により消費が上がる。買い控えていたものを購入する（40代：女性）
第7回 盛岡市	☐ 収入への不安と願い ・家族に苦勞させない収入がほしい。子どもが小さいので将来が不安（30代：男性） ・自己実現できるように稼ぐため、今を頑張りたい（10代：男性） ・お金で悩まない、苦勞しない収入がほしい（10代：女性） ・お金があれば、心の余裕が生まれると思う（10代：女性） ・子どもも独立して、少しホッとしている。次は介護（50代：男性） ☐ 進学・教育費への葛藤 ・大学進学を希望しているが、親に費用をお願いすることに迷いがある。家庭の事情も考えるようになった（10代：女性） ☐ 働くことへの価値観 ・就職するなら、好きなことで働きたい（10代：男性） ・やりたくない仕事でも、やりたくない気持ちを上回る金額であれば働く（10代：男性） ・自分がしたいことを実現するにはお金が必要。家族がいれば生活費もかかる。働いても手元に残る金額が少ないとがっかりする（30代：男性） ・独身時代と家庭を持ってからで金銭の使い方が変わった。収入を上げたい理由も変化し、生活のバランスを考えるようになった（40代：男性） ☐ 中高生の金銭感覚・将来観 ・今はお小遣いでは足りないの、バイトをしたい（10代：男性） ・物欲もなく、ブランドにも興味がないので、今のお小遣いで十分。必要なら親に相談する（10代：女性） ・収入を得るだけでなく、出ていくお金のことがわからない（10代：男性）	☐ 教育と学びの重要性 ・子どもの頃から「お金」や「税金」について学ぶ教科が必要（10代：男性） ・社会人になっても学び直しの機会を持ち、スキルアップを図る（50代：女性） ☐ 職業観と働き方 ・外部講師から仕事の話をもっと聞きたい（10代：男性） ・職業選択の理由を見つめ直し、「お金+α」の価値を大切にする（30代：男性） ・若者のチャレンジを支援する仕組みをつくる（30代：男性） ☐ 評価と環境づくり ・能力や行動で評価される環境が大切（50代：女性） ☐ お金の使い方と自立 ・節約しながら、必要なものにはきちんとお金を使う（10代：女性） ・親を説得してアルバイトを始める（10代：男性）

③ 全体的に（カルテ作成後～幸福を高めるには？）

第1回 普代村	☐ 行政と住民の関係性 ・行政だけでは限界があり、住民に寄り添った仕事をするには、まず来庁者への親しみやすい声かけや挨拶が大切（30代：男性） ☐ 郷土文化の継承 ・郷土芸能の担い手として、伝承活動に積極的に関わりたい（20代：男性） ☐ 働き方と生活のバランス ・給料の安定と業務量の多さを天秤にかけて悩むことがある（30代：女性） ☐ 子育て支援と環境づくり ・自分の幸せだけでなく、保護者が子育てしやすい雰囲気づくりを意識している。子どもを安心して預けられる環境が重要（20代：女性） ☐ 地域活動への参加 ・地域の環境整備などの活動に積極的に参加していきたい（30代：男性） ☐ 実感と気づき ・想像以上に実感が高かった（20代：男性） ☐ 地域資源のPR ・キラウミ、潮風トレイル、黒崎など普代村の魅力をもっとPRし、住民だけでなく村外からの訪問者を増やす事業を展開したい（30代：男性） ☐ 若者の居場所づくり ・若者が集まれる機会や居場所をつくる必要がある（30代：女性） ☐ 出産・育児への不安 ・村で子どもを産み育てたいと思えるかということ、正直不安しかない（20代：女性）
第2回 山田町	☐ 幸福の気づきと行動の変化 ・数値化された幸福カルテの低さに驚き、自分の実感とのギャップを認識（20代：女性） ・東京と山田での生活を比較し、視点や関わる人によって幸福の感じ方が変わると実感（30代：男性） ☐ 人とのつながり・交流 ・高校生のうちにガールフレンドをつくりたいという願望（10代：男性） ・職場の同僚とのコミュニケーションを増やす意識（20代：女性） ・幸福感を高めるために、外に出て誰かと話すことを意識（50代：女性） ・近所の人と気軽に交流できるよう、自分の得意分野を活かしたい（70代：女性） ☐ 社会的な課題への取り組み ・ひとり親として子育ての大変さを経験し、同じ境遇の人の生活環境改善のため事業を進めたい（40代：女性） ・震災から15年が経ち、記憶の風化と世代交代を感じ、防災意識の重要性を再認識（50代：女性）
第3回 岩手町	☐ 高齢世代の思い ・引きこもらず、声をかけてもらったら外に出かける（90代：女性） ・適度な距離感で子ども世帯と交流を持つ（60代：女性） ・そろそろ子どもに任せたい。世代交代（60代：男性） ☐ 働き盛り・家庭形成期の意識 ・身体も精神も健康的に。自給自足に挑戦していく（30代：男性） ・計画通りにはいかないけれど、自然と関わる時間をもちたい。40代：男性） ・今は単身だが、そろそろ家族をもって地に足をつけた生活を目指す（30代：男性） ・まずは家庭。お互いを尊重しながら笑顔で朝の挨拶から始める（30代：女性） ☐ 若年層の意欲と成長 ・一緒に活動していく仲間を増やす。そのために必要なスキルを身につける（20代：男性） ☐ 社会との関わり・伝える力 ・言葉にするコミュニケーション

第4回 釜石市	☐ 終活・老後の準備 ・子どもに迷惑をかけたくないため、元気なうちに終活を始めたい（70代：女性） ・終活に必要な事務手続き（登記など）をもっと簡略化してほしい（70代：女性） ☐ 交通・移動支援 ・高齢化社会では交通の利便性が重要。買い物は自分の目で見て楽しみたいので、移動支援の仕組みが必要（60代：女性） ・買い物や通院がしやすい循環バスを町中に導入してほしい（60代：女性） ・既存の公共交通を住民がもっと使うような仕掛けが必要。利用者が少ないと廃止されてしまう（50代：女性） ☐ 地域活動・支援体制 ・おとなりさん倶楽部（有償ボランティア）にもっと参加していきたい（70代：男性） ・社協などに地域支援コーディネーターをもっと配置してほしい。現状では足りない（50代：女性） ☐ 教育・学びの機会 ・大人の教育や学びの機会が増えるとよい。新しい挑戦ができる社会にしたい（20代：女性） ☐ 医療・子育て支援 ・産科や小児科など、子育て世代が安心して暮らせる地域づくりが大事（40代：女性） ☐ 地域参加・子育て世代の関わり ・子育て世代がもっと地域に参加してほしい。特に父親の関与が必要（40代：男性）
第5回 洋野町	☐ 地域の居場所・空間づくり ・どの年代も気軽に集まれる場所をつくる。大野カフェだけでなく、あちこちに（10代：女性） ・公園やお店、地域で過ごせる空間があればいい。ただ、維持運営が問題で、地域含めて話し合いをしていく（40代：男性） ☐ 教育・学びの機会 ・地方にいればできないことも多いので、身近で教養講座などがあると嬉しい（60代：女性） ・洋野や久慈の自然、歴史を学びたい（10代：女性） ☐ 地域資源・伝承 ・次の世代に農業、生活、地元の宝を伝えられるようにしたい（60代：男性） ☐ 買い物・生活利便性 ・スーパーは早く閉まるので、コンビニがほしい（10代：女性） ☐ 移動・交通 ・新幹線まで遠いので、移動が便利になると楽になる（50代：女性） ☐ 医療・健康 ・移動が大変なので、近くに総合病院があると助かる（70代：女性） ・規則正しい生活、ほどよい運動と美味しい食事で健康に過ごす（70代：女性） ☐ 人間関係・コミュニケーション ・家族や職場の同僚と程よい距離感でコミュニケーションをとっていく。（40代：女性） ☐ 子育て・将来の暮らし ・子育てしやすい地域は、その土地に住む理由の大きな基準になる。自分の将来を考えると、ここで結婚して出産するというイメージが思い浮かべられないので、支援策の充実があるといい。日常に寄り添う支援策を（30代：女性）
第6回 花巻市	☐ 幸福・安心に関する意識 ・意外と幸福だった。個人のことでなく、社会を考えると、安心した暮らしが大事になる（20代：女性） ☐ 制度・支援・市民意識 ・社会の変化に合わせて制度もでき、様々な支援策もあるが、なんとなく使いにくい。市民の意識の変革を進める取り組みをしていく事が大事だと思う（30代：男性） ☐ 交通・インフラ

	・新幹線の停車駅からの交通の利便性が向上するといいい（20代：男性） ☐ ごみ処理・環境整備 ・いつでも持ち込み可能な不燃・可燃ごみの処理場があればいい（30代：男性） ☐ 公共空間・居場所 ・目的がなくてもいられる公共の場所。誰かの気配を感じるのだけれど、ただいられる場所があるといいい（30代：男性） ☐ 教育・学校環境 ・学校に食堂がほしい。パンの自販機が安くなると嬉しい（10代：女性） ☐ 対話・参加の場 ・こういう話し合う場をもっともっと持ちたい（20代：女性） ☐ 地域の未来・老後の暮らし ・自分の老後にどんな地域になっていきたいのか、今できることから始めていこう 40代：女性）
第7回 盛岡市	☐ 自分の時間・趣味・自己成長 ・自分のための時間をつくる。好きなことを思う存分したい（10代：男性） ・没頭できる趣味を持つ（30代：男性） ・自分で考え行動し、経験や知識を積み上げていく（10代：男性） ・自分の機嫌は自分でとる（50代：女性） ☐ 人との関わり・コミュニケーション ・家族や友人たちとコミュニケーションをしっかりとっていく。喧嘩が多いので話し合うようにする（10代：男性） ・今日のような場がありみんなが意見を出し合い、反映されるようになればいい（10代：男性） ・町内会の役員をしているので、少しでも多くの住民に関わってもらおう工夫をする（50代：男性） ☐ 教育・子どもへの関心 ・子どもたちの探究心を高め、学びに興味を持ってもらおう仕掛けをしていく（40代：男性） ☐ 健康・医療 ・大きな病院があって恵まれているが、近所に気安く行ける診療所があると助かる（30代：男性） ☐ 社会貢献・心の在り方 ・ゴミ拾いなどをして「徳を積む」。不幸・不運を無くすときいた（10代：女性）

岩手県総合計画審議会

「県民の幸福感に関する分析部会」

令和 7 年度年次レポート（素案）

令和 7 年〇月

目次

第1章	本報告書の内容	1
第2章	令和7年度の分析事項	3
第3章	調査結果	
3.1	「県の施策に関する県民意識調査」の結果	6
3.1.1	調査目的及び対象等	
3.1.2	調査結果の概要	
3.1.3	調査の回収率の推移	
3.2	「県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」の結果	12
3.2.1	調査目的及び対象等	
3.2.2	調査結果の概要	
第4章	分析結果	
4.1	分析方針等について	15
4.2	主観的幸福感について	20
4.3	基準年（令和5年）と比較した分野別実感の分析について	23
4.3.1	実感が上昇した分野	
4.3.2	実感が低下した分野	
4.3.3	実感が横ばいの分野	
第5章	まとめ	
5.1	主観的幸福感について	36
5.2	基準年（令和5年）と比較した分野別実感の分析について	36
5.2.1	実感が上昇した分野	
5.2.2	実感が低下した分野	
5.2.3	実感が横ばいの分野	
【追加分析】		40
追1	主観的幸福感と生活満足度との関係について	
追1.1	生活満足度の調査概要	41
追1.2	令和7年県民意識調査に係る生活満足度の調査結果	41
追1.3	主観的幸福感及び生活満足度との関係性	41
追2	属性別の生活時間（行動時間）の配分について	
追2.1	生活時間（行動時間）の調査概要	45
追2.2	生活時間（行動時間）の調査結果（該当行動無しを含む総平均時間）	46
追2.3	生活時間（行動時間）の調査結果（該当行動有りのみの総平均時間）	51
追3	生活時間（行動時間）と主観的幸福感・生活満足度との関係性について	
追3.1	目的	63
追3.2	分析内容	63
追3.3	分析結果	64

追 4	まとめ	
追 4. 1	主観的幸福感と生活満足度との関係について	66
追 4. 2	生活時間（行動時間）について	66
追 4. 3	生活時間（行動時間）と主観的幸福感・生活満足度との関係性について	67
追 4. 4	まとめ	67
【補足資料】		68
補 1	計画開始年（平成 31 年）と比較した分野別実感について	69
補 1. 1	補足調査結果の概要	69
補 1. 2	県民意識調査から得られた分野別実感の平均値の状況	70
補 1. 3	主観的幸福感について	72
補 1. 4	計画開始年（平成 31 年）と比較した分野別実感について	73
補 2	広域振興圏別の分野別実感の推移	87
補 3	「子育て」に関する分野別実感の推移	89
<参考>		
参考 1	県民の幸福感に関する分析部会運営要領	92
参考 2	県民の幸福感に関する分析部会委員等名簿	93
参考 3	令和 7 年度における部会開催状況等	93

別冊【資料編】

参考資料 1	「令和 7 年県の施策に関する県民意識調査」調査票	(第 1 回部会参考資料 2)
参考資料 2	「令和 7 年県の施策に関する県民意識調査」結果	(第 1 回部会参考資料 3)
参考資料 3	「令和 7 年県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」調査票	(第 1 回部会参考資料 4)
参考資料 4	「令和 7 年県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」結果	(第 1 回部会資料 4)
参考資料 5	「令和 7 年県の施策に関する県民意識調査」属性別平均点	(第 1 回部会資料 5-2)
参考資料 6	「令和 7 年県の施策に関する県民意識調査」属性別分析結果	(第 1 回部会資料 6)
参考資料 7	「令和 7 年県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」回答意見とりまとめ結果	(第 1 回部会資料 7-2、7-3、7-6)
参考資料 8	「令和 7 年県の施策に関する県民意識調査」結果（計画開始年（平成 31 年）からの変化）	(第 1 回部会資料 5-3、7-4、7-5)
参考資料 9	【追加分析】「3 生活時間（行動時間）と主観的幸福感・生活満足度との関係について」分析結果	(第 4 回部会資料 5 一部抜粋)
参考資料 10	「令和 7 年度幸福について考えるワークショップ」の開催結果	(第 5 回部会資料 2)

第1章 本報告書の内容

【趣旨】

県では、総合計画である「いわて県民計画(2019～2028)」(以下「県民計画」という。)において、幸福を基本目標に掲げ、10の政策分野を設定するとともに、各分野にいわて幸福関連指標を設定して政策を展開しています。

計画の推進に当たっては、アクションプランである「政策推進プラン」について、政策評価の仕組みに基づく進捗管理を行うこととしており、いわて幸福関連指標をはじめとする客観的指標の達成状況に加え、県民がどの程度幸福を実感しているかといった県民意識や、社会経済情勢も踏まえた総合評価を行い、政策立案に反映させていくこととしています。

そのため、岩手県総合計画審議会において、令和元年6月に「県民の幸福感に関する分析部会」(以下「分析部会」という。)を設置するとともに、「県の施策に関する県民意識調査」(以下「県民意識調査」という。)に幸福に関する設問を設け、令和2年以降、毎年の県民意識調査結果を、第1期政策推進プランが開始する直前の平成31年の調査結果と比較し、分野別実感の変動要因について分析を行ってきました。

今年度は、第2期政策推進プランが令和5年度に開始されたことから、第2期政策推進プランの開始直前の県民意識調査の調査年である令和5年を基準年(以下「基準年」という。)とし、令和7年の県民意識調査の結果と比較した分野別実感の変動要因について分析を行いました。

また、幸福に関する実感については、長期的な視点で維持・向上を図るという観点から、県民計画の開始直前の県民意識調査の調査年である平成31年(以下「計画開始年」という。)の調査結果との比較した結果や長期的な変動要因についても掲載しました。

この報告書は、こうした令和7年度における分析部会の分析結果をとりまとめたものです。

【概要】

令和7年県民意識調査結果に、「幸福だと感じている」から「幸福だと感じていない」の5段階の選択肢に依じて5点から1点を配点したところ、県全体の実感平均値は3.50点となり、基準年より0.01点上昇しています。

t検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、主観的幸福感は、基準年に比べて横ばいと考えられます。(P20 参照)

令和7年県民意識調査結果から得られた分野別実感の平均値を見ると、表1-1のとおり、基準年に比べて1分野で上昇、10分野で横ばい、1分野で低下となっています。ここでは、これらの変動要因について分析を行いました。(P23 参照)

県民意識調査においては、平成28年から幸福に関する設問を設けており、幸福に関する調査を開始して以降、一貫して高値又は低値で推移している属性についても、その要因の分析を行いました。(P24 以降参照)

併せて、生活時間(行動時間)と主観的幸福感・生活満足度との関係性について、追加分析を行いました。(P41 以降参照)

なお、主観的幸福感は計画開始年と比較すると0.08点上昇しており、t検定を行った結果、計画開始年に比べて有意に上昇していることから、主観的幸福感は、計画開始年に比べて上昇していると考えられます。(P20 及び P70 参照)

また、分野別実感の平均値は、計画開始年に比べて2分野で上昇、6分野で横ばい、4分野で低下となっています。(P71 参照)

表 1-1 分野別実感の変動の状況

	基準年（令和5年）との比較	計画開始年（平成31年）との比較（参考）
上 昇	（1分野） 余暇の充実	（2分野） 心身の健康、家族関係
横ばい	（10分野） 心身の健康、家族関係、子育て、子どもの教育、住まいの快適さ、地域社会とのつながり、仕事のやりがい、必要な収入や所得、歴史・文化への誇り、自然のゆたかさ	（6分野） 余暇の充実、子育て、子どもの教育、住まいの快適さ、歴史・文化への誇り、自然のゆたかさ
低 下	（1分野） 地域の安全	（4分野） 地域社会とのつながり、地域の安全、仕事のやりがい、必要な収入や所得

第2章 令和7年度の分析事項

県では、県民の主観的幸福感や幸福に関する分野別実感について、毎年、無作為抽出により5,000人の対象者を選定して行う県民意識調査により把握しています。

しかし、当該調査のみでは、分野別実感の変動要因を推測することは困難であることから、分析部会において検討の上、令和2年1月から調査対象者を固定した「県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」（以下「補足調査」という。）を実施することとしました。

補足調査は、県民計画の開始直前に当たる平成31年県民意識調査の回答者のうち、補足調査に御協力いただける方から600人を調査対象者として抽出し、以降、県民意識調査と同時期に実施しています。

なお、補足調査の開始から4回の実施を経て、転居などにより調査継続が困難となった対象者の増加や対象者の年齢構成の変化等があったことから、令和6年の調査実施に当たり、対象者の追加・更新等を行いました。調査開始当初の対象者のうち調査継続に御同意いただいた448人に、令和5年県民意識調査の回答者のうち、補足調査に御協力いただける方から抽出した156人を新たに加え、604人を対象者としてしました。令和7年調査にあたっては、諸般の事情により調査依頼が困難となった2人を除き、602人を対象としています。

表2-1 県民意識調査と補足調査

	県民意識調査	補足調査
目的	県民計画に基づいて実施する県の施策について、県民がどの程度重要性を感じ、現在の状況にどの程度満足しているか、また、どの程度幸福度を感じているか等を把握し、今後、県が重点的に取り組むべき施策の方向性等を明らかにすること	県民意識調査で把握した分野別実感の変動要因を把握し、政策評価に反映していくこと (対象者を固定することで、対象者の実感が前回調査から変動した項目を把握し、県民意識調査の分野別実感が変動した要因を推測する)
対象	県内に居住する18歳以上の個人	県内に居住する18歳以上の個人
調査人数	5,000人	604人（各広域振興圏約150人）
抽出方法	選挙人名簿からの層化二段無作為抽出（対象者は毎年抽出）	・基準年である平成31年県民意識調査回答者のうち補足調査にご協力いただける方から選定 ・令和6年の調査から、令和5年県民意識調査回答者のうち補足調査にご協力いただける方から選定した対象者を追加 (対象者は固定)
調査時期	毎年1月～2月	毎年1月～2月
備考	—	令和5年補足調査から、分野別実感の回答理由と関連の強い要因について、具体的な事例内容に関する自由記載欄を追加

分析部会では、県民意識調査で得られた主観的幸福感と分野別実感について、以下の方法により分析を行いました。

○ **主観的幸福感、分野別実感の概況の把握（令和 7 年県民意識調査結果の属性分析）**

県民意識の属性別での特徴を把握するため、令和 7 年県民意識調査結果を対象に、主観的幸福感と分野別実感の属性差の有無を分析

（集計方法）

主観的幸福感及び分野別実感の分析に当たっては、5 段階の回答に応じて次のとおり配点することで得点化し集計（リッカート尺度）

- | | | | |
|---------------|-----|---------------------|-----|
| ・ 幸福である、感じている | 5 点 | ・ やや幸福である、やや感じている | 4 点 |
| ・ どちらでもない | 3 点 | ・ あまり幸福ではない、あまり感じない | 2 点 |
| ・ 幸福ではない、感じない | 1 点 | | |

なお、選択肢には「わからない」の回答欄があるが、「わからない」及び「未回答」は、集計から除外

○ **分野別実感の変動要因の推測（基準年との 2 時点比較）**

- ・ 県民意識の変化の状況を把握するため、令和 5 年（基準年）と令和 7 年の県民意識調査の結果から、2 時点間で有意に変化した分野別実感や属性の有無を分析
- ・ 2 時点間で実感が上昇・低下した分野について、補足調査において当該分野別実感が上昇・低下した人の回答項目等から、その要因を推測

○ **分野別実感が一貫して高値又は低値で推移している属性の把握とその要因の推測**

平成 28 年から令和 7 年までの県民意識調査の結果から、分野別実感の平均値が一貫して高値（4 点以上）又は低値（3 点未満）で推移している属性について、令和 7 年補足調査において当該属性に該当し、高値にあつては「感じる・やや感じる」、低値にあつては、「感じない・あまり感じない」と回答した人の回答項目等から、その要因を推測

幸福に関する実感については、長期的な視点で維持・向上を図るという観点から、県民計画の開始直前の県民意識調査の調査年である平成 31 年（以下「計画開始年」という。）の調査結果との比較した結果や長期的な変動要因についても以下により要因を推測

○ **分野別実感の変動要因の推測（計画開始年との 2 時点比較）**

- ・ 県民意識の変化の長期的な変動要因を推測するため、平成 31 年（計画開始年）と令和 7 年の県民意識調査の結果から、2 時点間で有意に変化した分野別実感や属性の有無を把握。
- ・ 2 時点間で実感が上昇・低下した分野について、補足調査において当該分野別実感が上昇・低下した人の回答項目等から、その要因を推測

表 2-2 分析等に係るスケジュール

年度	調査	分析
平成 12 年度～	県民意識調査	—
平成 27 年度	-----	
平成 28 年度	幸福実感に係る調査を開始 (H28. 1～)	
平成 29 年度		
平成 30 年度		
平成 31 年度 (令和元年度)		・補足調査の設計 ・過去の県民意識調査の分析
令和 2 年度		・県民意識調査に係る分野別実感の変動要因の分析
令和 3 年度	補足調査 (R2. 1～)	・県民意識調査に係る分野別実感の変動要因の分析 ・新型コロナウイルス感染症の各分野への影響と分野別実感の関連性の分析
令和 4 年度		・県民意識調査に係る分野別実感の変動要因の分析 ・県民の幸福実感の推移の分析 ・新型コロナウイルス感染症の各分野への影響と分野別実感の関連性の分析
令和 5 年度		・県民意識調査に係る分野別実感の変動要因の分析 ・子育て分野に関する分析 ・新型コロナウイルス感染症の各分野への影響と分野別実感の関連性の分析
令和 6 年度		・県民意識調査に係る分野別実感の変動要因の分析 ・新型コロナウイルス感染症の各分野への影響と分野別実感の関連性の分析
令和 7 年度		・県民意識調査に係る分野別実感の変動要因の分析 ・生活時間（行動時間）と主観的幸福感・生活満足度との関係性について
令和 8 年度以降		

第1期政策推進プラン

第2期政策推進プラン

第3章 調査結果

3.1 「県の施策に関する県民意識調査」の結果

3.1.1 調査目的及び対象等

- ① 調査目的 県民計画に基づいて実施する県の施策について、県民がどの程度重要性を感じ、現在の状況にどの程度満足しているか、また、どの程度幸福度を感じているか等を把握し、今後、県が重点的に取り組むべき施策の方向性等を明らかにすること
- ② 調査対象 県内に居住する18歳以上の個人
- ③ 対象者数 5,000人
- ④ 抽出方法 選挙人名簿からの層化二段無作為抽出
- ⑤ 調査方法 設問票によるアンケート調査（郵送法）
- ⑥ 調査時期 令和7年1～2月（毎年調査）
- ⑦ 回収者数 3,159人
- ⑧ 有効回収率 63.2%
- ⑨ 回答者の属性

【性別】	回答者数	割合
男性	1,395	(44.2)
女性	1,718	(54.4)
その他	6	(0.2)
不明	40	(1.3)

【年齢別】	回答者数	割合
18～19歳	26	(0.8)
20～29歳	128	(4.1)
30～39歳	234	(7.4)
40～49歳	384	(12.2)
50～59歳	544	(17.2)
60～69歳	708	(22.4)
70歳以上	1,094	(34.6)
不明	41	(1.3)

【居住地別】	回答者数	割合
県央広域振興圏	920	(29.1)
県南広域振興圏	959	(30.4)
沿岸広域振興圏	732	(23.2)
県北広域振興圏	548	(17.3)

【職業別】	回答者数	割合
自営業主	256	(8.1)
家族従業者	87	(2.8)
会社役員・団体役員	193	(6.1)
常用雇用者	870	(27.5)
臨時雇用者	363	(11.5)
学生	47	(1.5)
専業主婦(主夫)	312	(9.9)
無職	725	(23.0)
その他	92	(2.9)
不明	214	(6.8)

【子どもの数別】	回答者数	割合
1人	355	(11.2)
2人	1,121	(35.5)
3人	587	(18.6)
4人	106	(3.4)
5人以上	30	(0.9)
子どもはいない	682	(21.6)
不明	278	(8.8)

【居住年数別】	回答者数	割合
10年未満	83	(2.6)
10～20年未満	109	(3.5)
20年以上	2,768	(87.6)
不明	199	(6.3)

()内は%

(注) 小数点第1位未満四捨五入の関係から、割合の計が100%にならない場合があります。

3.1.2 調査結果の概要

① 主観的幸福感（設問3-2：あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。）

主観的幸福感について、「幸福だと感じている」から「幸福だと感じていない」までの5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点したところ、県全体の平均値は、5点満点中3.50点（基準年：3.49点、計画開始年：3.43点）となりました（図3-1）。

なお、県全体の主観的幸福感については、幸福と感じる（「幸福だと感じている」又は「やや幸福だと感じている」）と回答した人が57.0%（基準年：56.9%、計画開始年：52.3%）、幸福と感じない（「幸福だと感じていない」又は「あまり幸福だと感じていない」）と回答した人が17.6%（基準年：17.1%、計画開始年：19.3%）となりました（図3-2）。

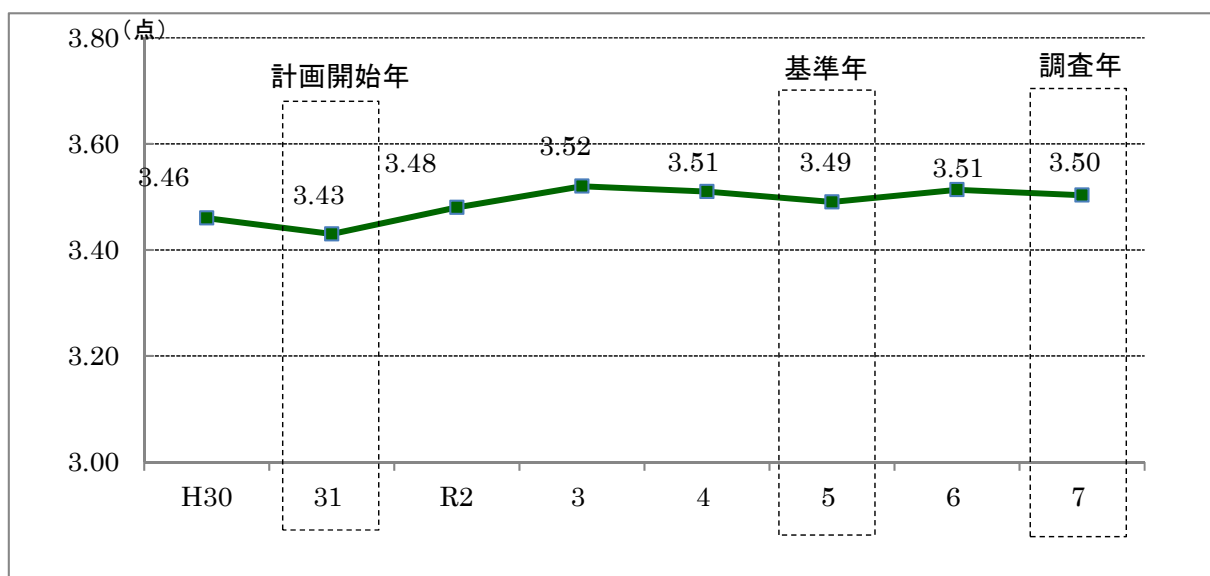


図3-1 【県民意識調査】主観的幸福感の平均値（県計）の推移〔点数〕

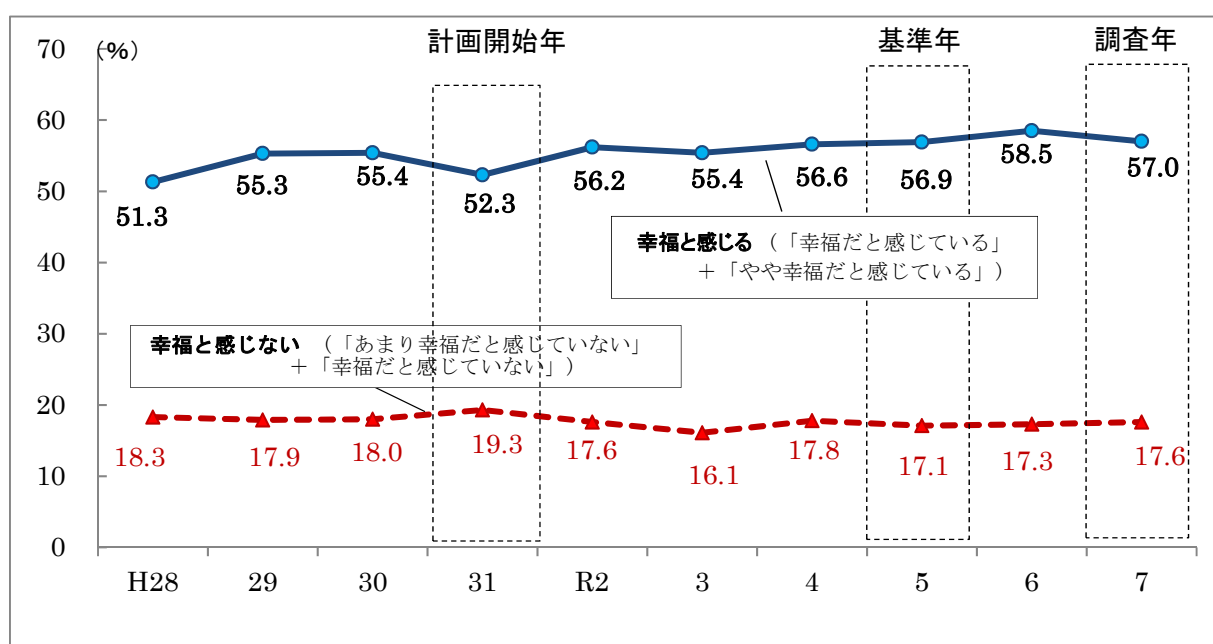


図3-2 【県民意識調査】主観的幸福感（県計）の推移〔割合〕

② 分野別実感（設問３－１：現在のあなたご自身のことについて、おたずねします。）

12 分野について実感を聞いた結果、「自然のゆたかさ」の実感が４点を超えているほか、「家族関係」や「地域の安全」の実感も高くなっている一方で、「必要な収入や所得」の実感は継続して低くなっています。（図３－３。令和７年調査の分野別実感の平均値が高い順に整理）

なお、分野別実感の動向については、図３－４のとおりです。

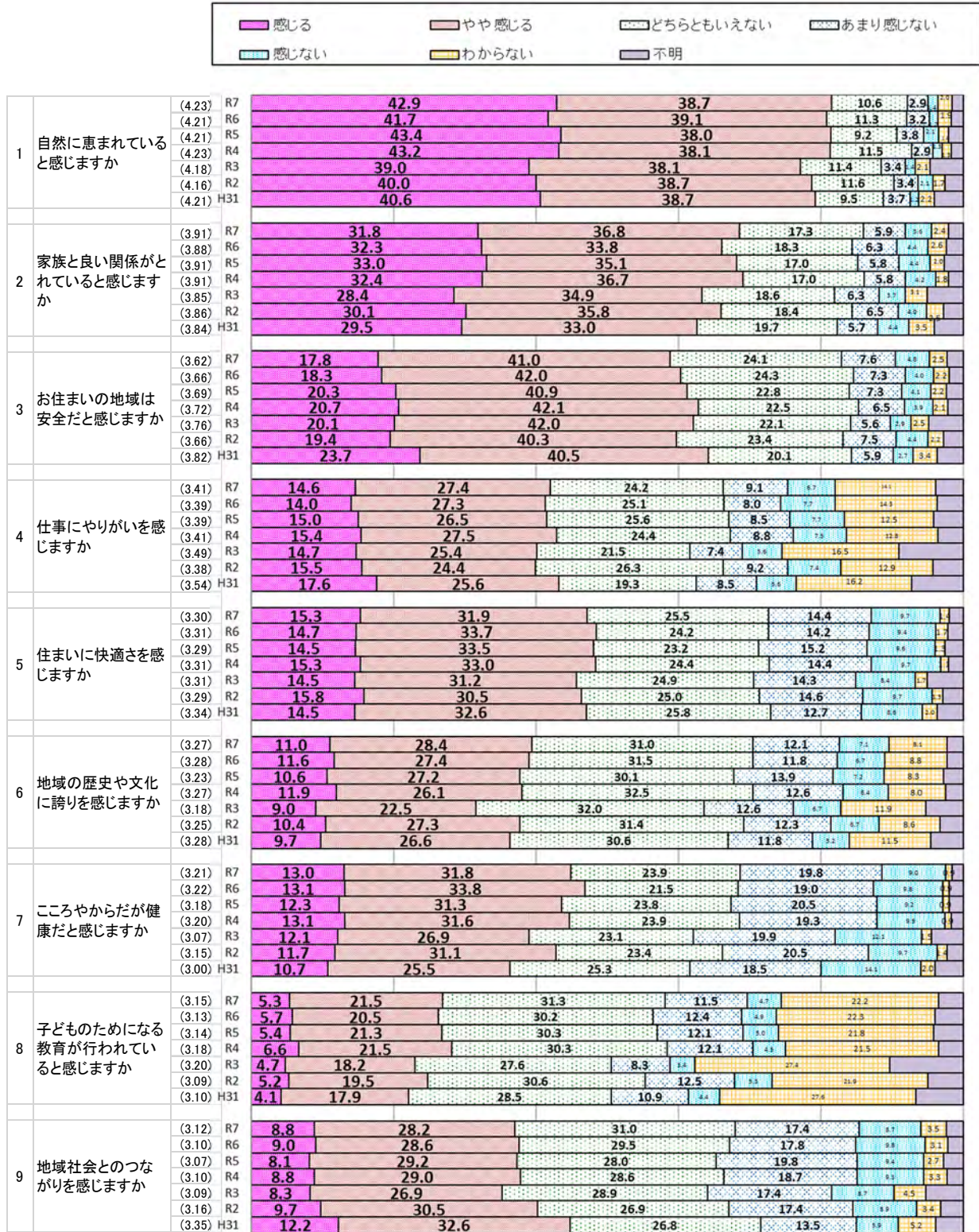


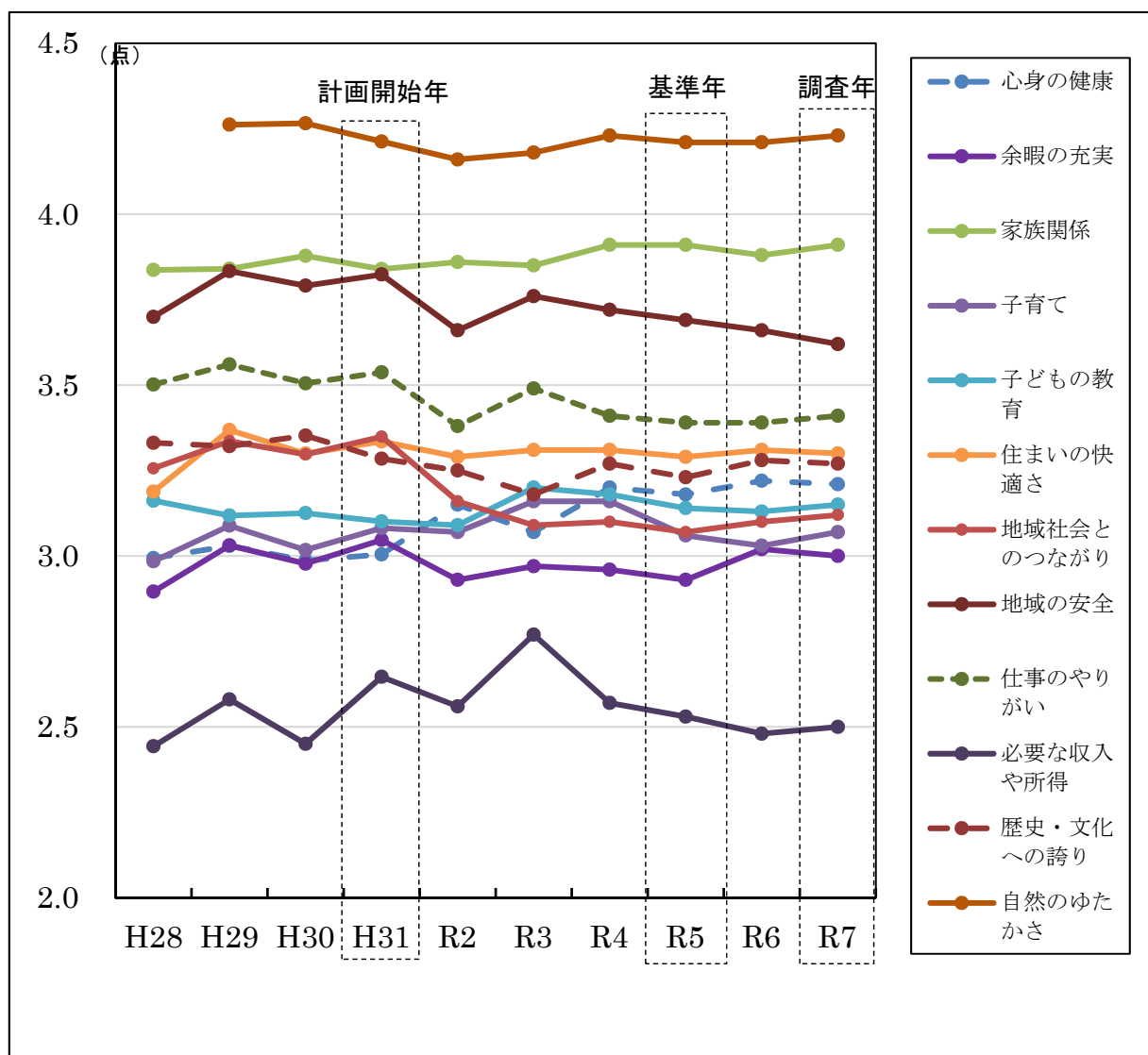
図３－３ 【県民意識調査】分野別実感の回答状況

10	子育てがしやすいと感じますか	(3.07) R7	6.3	19.8	29.9	12.5	7.3	20.7	
		(3.03) R6	6.0	20.0	28.4	13.1	8.1	20.5	
		(3.06) R5	6.2	20.1	28.4	13.4	7.1	20.4	
		(3.16) R4	7.8	21.1	28.9	12.2	8.1	20.4	
		(3.16) R3	5.9	16.1	25.4	8.0	5.9	28.4	
		(3.07) R2	5.7	20.4	29.7	12.5	7.0	20.0	
		(3.08) H31	5.4	14.9	25.3	9.8	5.9	28.7	
11	余暇が充実していると感じますか	(3.00) R7	9.6	27.1	25.6	21.5	12.1	2.0	
		(3.02) R6	11.0	25.9	25.9	20.2	12.0	2.0	
		(2.93) R5	9.2	25.3	24.4	24.2	13.0	2.4	
		(2.96) R4	9.5	25.5	24.5	23.5	12.8	1.9	
		(2.97) R3	9.5	24.1	25.6	20.5	12.9	2.4	
		(2.93) R2	9.2	24.3	25.6	22.6	13.3	1.8	
		(3.05) H31	9.8	23.5	30.3	16.7	11.1	4.5	
12	必要な収入や所得が得られていると感じますか	(2.50) R7	6.3	16.6	21.3	21.0	27.4	4.9	
		(2.48) R6	6.0	16.5	21.6	20.6	27.8	5.0	
		(2.53) R5	6.7	18.0	20.4	20.7	27.1	4.3	
		(2.57) R4	7.3	17.8	21.8	20.0	13.9	4.5	
		(2.77) R3	9.0	19.4	22.7	16.3	20.8	6.4	
		(2.56) R2	6.7	16.9	22.7	20.7	25.1	4.6	
		(2.65) H31	7.5	18.5	18.2	19.1	12.4	8.7	

「平均点の算出方法について」

「感じる」を5点、「やや感じる」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり感じない」を2点、「感じない」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数（「わからない」、「不明（無回答）」を除く。）で除し、数値化したもの。

図 3-3 【県民意識調査】分野別実感の回答状況（続き）



③ 幸福を判断する際に重視する事項

(設問 3-3 : あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか。)

幸福かどうか判断する際に重視すると回答した項目は、図 3-5 のとおりであり、前年までの調査結果と同様に、「健康状況」や「家族関係」が特に高い結果となっています。

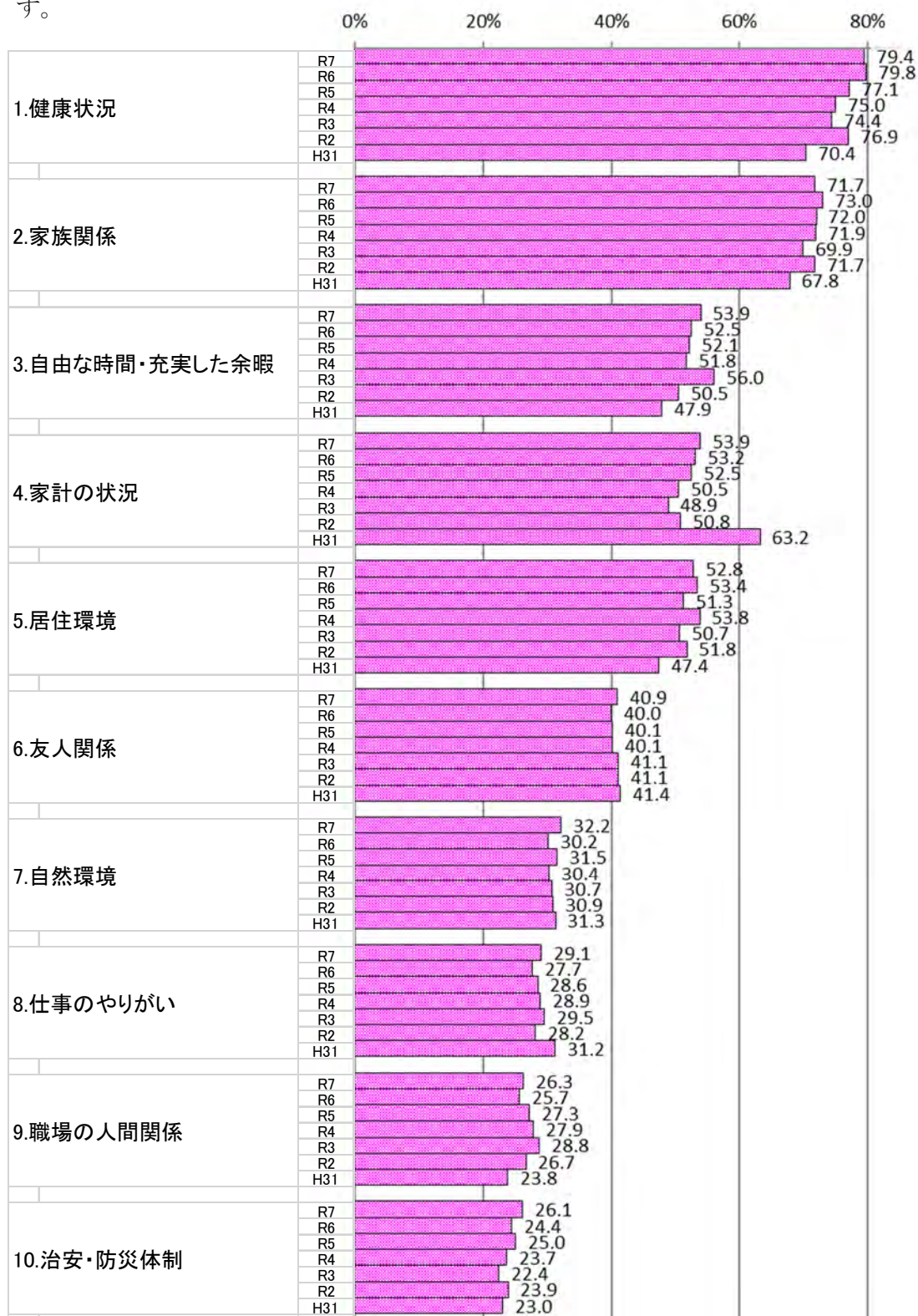


図 3-5 【県民意識調査】幸福を判断する際に重視する事項



図 3-5 【県民意識調査】幸福を判断する際に重視する事項（続き）

3.2 「県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」の結果

3.2.1 調査目的及び対象等

- ① 調査目的 県民計画を着実に推進していくため、県民意識調査で把握した分野別実感の変動要因を把握し、政策評価に反映していくこと
- ② 調査対象 岩手県内に居住する18歳以上の個人
- ③ 対象者数 602人（各広域振興圏約150人）
- ④ 抽出方法 平成31年県民意識調査（県民計画の開始直前）の回答者のうち、補足調査に御協力いただける方から600人を抽出（令和5年まで固定）。
令和6年に対象者の追加・更新等を行い、上記600人のうち調査継続に御同意いただいた448人に、令和5年県民意識調査（第2期政策推進プランの開始直前）回答者のうち、補足調査に御協力いただける方から抽出した156人を追加（概ね各広域振興圏150人、各年代100人）。
令和7年調査にあたっては、諸般の事情により調査依頼が困難となった2人を除き、602人を対象としています。

- ⑤ 調査方法 設問票によるアンケート調査（郵送法）
- ⑥ 調査時期 令和7年1～2月（県民意識調査の実施と同時期）
- ⑦ 回収者数 574人
- ⑧ 有効回収率 95.3%
- ⑨ 回答者の属性

（ ）内は%

【男女別】	回答者数	割合
男性	291	(50.7)
女性	283	(49.3)
不明	0	(0.0)

【年齢別】	回答者数	割合
18～19歳	0	(0.0)
20～29歳	32	(5.6)
30～39歳	93	(16.2)
40～49歳	111	(19.3)
50～59歳	110	(19.2)
60～69歳	117	(20.4)
70歳以上	111	(19.3)
不明	0	(0.0)

【所得別】	回答者数	割合
100万円未満	106	(18.5)
100万円～300万円未満	255	(44.4)
300万円～500万円未満	142	(24.7)
500万円～700万円未満	40	(7.0)
700万円～1000万円未満	18	(3.1)
1000万円～1500万円未満	4	(0.7)
1500万円以上	1	(0.2)
不明	8	(1.4)

【居住形態別】	回答者数	割合
持家（一戸建て）	458	(79.8)
持家（集合住宅）	11	(1.9)
借家（一戸建て）	28	(4.9)
借家（集合住宅）	60	(10.5)
その他	11	(1.9)
不明	6	(1.0)

【居住地別】	回答者数	割合
県央広域振興圏	157	(27.4)
県南広域振興圏	145	(25.3)
沿岸広域振興圏	141	(24.6)
県北広域振興圏	129	(22.5)
その他	2	(0.3)

【職業別】	回答者数	割合
自営業主	40	(7.0)
家族従業者	11	(1.9)
会社役員・団体役員	33	(5.7)
常用雇用者	242	(42.2)
臨時雇用者	87	(15.2)
学生	6	(1.0)
専業主婦（主夫）	46	(8.0)
無職	82	(14.3)
その他	25	(4.4)
不明	2	(0.3)

【子どもの数別】	回答者数	割合
1人	84	(14.6)
2人	193	(33.6)
3人	112	(19.5)
4人	17	(3.0)
5人以上	3	(0.5)
子どもはいない	153	(26.7)
不明	12	(2.1)

【世帯構成別】	回答者数	割合
ひとり暮らし	58	(10.1)
同居人あり	499	(86.9)
単身赴任	5	(0.9)
寮、老人ホームその他の施設	3	(0.5)
その他	2	(0.3)
不明	7	(1.2)

【居住年数】	回答者数	割合
1年未満	1	(0.2)
1～5年未満	3	(0.5)
5～10年未満	10	(1.7)
10～20年未満	18	(3.1)
20年以上	537	(93.6)
不明	5	(0.9)

（注） 小数点第1位未満四捨五入の関係から、割合の計が100%にならない場合があります。

3.2.2 調査結果の概要

補足調査で得られた分野別実感に対する回答を「感じる・やや感じる」、「どちらともいえない」、「あまり感じない・感じない」の3つに区分し、「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」として選択された項目を回答の多い順に整理した結果、表3-1のとおりとなりました。

表3-1 【補足調査】分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された主な項目〔実感別〕

分 野	感じる・やや感じる	どちらともいえない	あまり感じない・感じない
1-① からだの健康	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 健康診断の結果 ウ こころの健康状態	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 持病の有無 ウ スポーツの習慣の有無	ア 持病の有無 イ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) ウ こころの健康状態
1-② こころの健康	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 充実した余暇の有無(仕事・学業以外の趣味など) ウ 仕事・学業におけるストレスの有無	ア 仕事・学業におけるストレスの有無 イ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無 ウ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス)	ア 仕事・学業におけるストレスの有無 イ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無 ウ からだの健康状態
2 余暇の充実	ア 自由な時間の確保 イ 家族との交流 ウ 知人・友人との交流	ア 自由な時間の確保 イ 趣味・娯楽活動の場所・機会 ウ 知人・友人との交流	ア 自由な時間の確保 イ 趣味・娯楽活動の場所・機会 ウ 知人・友人との交流
3 家族関係	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 同居の有無 ウ 困った時に助け合えるかどうか	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 家族が自分にもたらす精神的影響(貢献・負担) ウ 一緒にいる時間(長い・短い)	ア 家族が自分にもたらす精神的影響(貢献・負担) イ 会話の頻度(多い・少ない) ウ 家族が自分にもたらす経済的影響(貢献・負担)
4 子育て	ア 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など) イ 子どもを預けられる場所の有無(保育所など) ウ 自分の就業状況(労働時間、休業・休暇など)	ア わからない(身近に子どもがいない、子育てに関わっていないなど) イ 子どもの教育にかかる費用 ウ 子育てにかかる費用	ア 子育てにかかる費用 イ 子どもの教育にかかる費用 ウ 子どもに関する医療機関(小児科など)の充実
5 子どもの教育	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 学力を育む教育内容 ウ 健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 不登校やいじめなどへの対応 ウ わからない(身近に子どもがいない、子育てに関わっていないなど)	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 学力を育む教育内容 ウ 学校の選択の幅(高校、大学など)
6 住まいの快適さ	ア 居住形態(持ち家か借家か) イ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など) ウ 住宅の延床面積(広さ・狭さ)	ア 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など) イ 住宅の機能性(バリアフリー、室内の温熱環境など) ウ 居住形態(持ち家か借家か)	ア 住宅の機能性(バリアフリー、室内の温熱環境など) イ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など) ウ 公共交通機関の利便性
7 地域社会とのつながり	ア その地域で過ごした年数 イ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など) ウ 隣近所との面識・交流	ア その地域で過ごした年数 イ 隣近所との面識・交流 ウ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など)	ア 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など) イ 隣近所との面識・交流 ウ 地域の行事への参加(お祭り、スポーツ大会など)
8 地域の安全	ア 犯罪の発生状況 イ 自然災害の発生状況 ウ 交通事故の発生状況	ア 野生鳥獣の出没状況や被害の発生状況(シカ、イノシシ、クマなど) イ 自然災害の発生状況 ウ 犯罪の発生状況	ア 野生鳥獣の出没状況や被害の発生状況(シカ、イノシシ、クマなど) イ 地域の防犯体制(防犯パトロール、街頭防犯カメラなど) ウ 交通事故の防止(歩道の整備など)
9 仕事のやりがい	ア 現在の職種・業務の内容 イ 職場の人間関係 ウ 現在の収入・給料の額	ア 現在の収入・給料の額 イ 現在の職種・業務の内容 ウ 将来の収入・給料の額の見込み	ア 現在の収入・給料の額 イ 現在の職種・業務の内容 ウ 将来の収入・給料の額の見込み
10 必要な収入や所得	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 生活の程度	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 自分の支出額	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 自分の支出額
11 歴史・文化への誇り	ア 地域のお祭り・伝統芸能 イ その地域で過ごした年数 ウ 郷土の歴史的偉人	ア 地域のお祭り・伝統芸能 イ その地域で過ごした年数 ウ 誇りを感じる歴史や文化が見当たらない	ア 地域の歴史や文化に関心がない イ 誇りを感じる歴史や文化が見当たらない ウ その地域で過ごした年数
12 自然のゆたかさ	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 空気の状態(綺麗・汚い) ウ 水(河川、池、地下水などの)状態(綺麗・汚い)	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 空気の状態(綺麗・汚い) ウ 公園・緑地、水辺などの周辺環境	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 水(河川、池、地下水などの)状態(綺麗・汚い) ウ 空気の状態(綺麗・汚い) エ 公園・緑地、水辺などの周辺環境 オ 自然(山・海など)と触れ合う機会

令和5年県民意識調査回答時と令和7年補足調査回答時を比較し、実感に変動があった人の回答を「実感が上昇した人の回答」、「実感が横ばいの人の回答」、「実感が低下した人の回答」の3つに区分し、「分野別実感に対する回答理由と関連が強い要因」として選択された項目を回答が多い順に整理した結果、表3-2のとおりとなりました。

表3-2 【補足調査】分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された主な項目
〔令和5年から令和7年の実感の変化別〕

分 野	実感が上昇した人の回答	実感が横ばいの人の回答	実感が低下した人の回答
1-① からだの健康	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 健康診断の結果 ウ こころの健康状態	ア 持病の有無 イ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) ウ スポーツの習慣の有無	ア 持病の有無 イ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) ウ こころの健康状態
1-② こころの健康	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 仕事・学業におけるストレスの有無 ウ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無 エ からだの健康状態	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 仕事・学業におけるストレスの有無 ウ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無	ア 仕事・学業におけるストレスの有無 イ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無 ウ からだの健康状態
2 余暇の充実	ア 自由な時間の確保 イ 家族との交流 ウ 知人・友人との交流	ア 自由な時間の確保 イ 家族との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会	ア 自由な時間の確保 イ 趣味・娯楽活動の場所・機会 ウ 家族との交流
3 家族関係	ア 困った時に助け合えるかどうか イ 同居の有無 ウ 会話の頻度(多い・少ない)	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 同居の有無 ウ 困った時に助け合えるかどうか	ア 家族が自分にもたらす精神的影響(貢献・負担) イ 会話の頻度(多い・少ない) ウ 一緒にいる時間(長い・短い)
4 子育て	ア 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など) イ 子どもを預けられる場所の有無(保育所など) ウ 自分の就業状況(労働時間、休業・休暇など)	ア 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など) イ 自分の就業状況(労働時間、休業・休暇など) ウ 子どもの教育にかかる費用	ア 子どもの教育にかかる費用 イ 子育てにかかる費用 ウ 自分の就業状況(労働時間、休業・休暇など) エ 子どもの習い事の選択の幅
5 子どもの教育	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 学力を育む教育内容 ウ 健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 学力を育む教育内容 ウ 健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など) エ 学校の選択の幅(高校、大学など)	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 学力を育む教育内容 ウ 学校の選択の幅(高校、大学など)
6 住まいの快適さ	ア 居住形態(持ち家か借家か) イ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など) ウ 住宅の延床面積(広さ・狭さ)	ア 居住形態(持ち家か借家か) イ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など) ウ 住宅の延床面積(広さ・狭さ)	ア 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など) イ 住宅の機能性(バリアフリー、室内の温熱環境など) ウ 公共交通機関の利便性
7 地域社会とのつながり	ア その地域で過ごした年数 イ 隣近所との面識・交流 ウ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など)	ア 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など) イ 隣近所との面識・交流 ウ その地域で過ごした年数	ア 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など) イ その地域で過ごした年数 ウ 隣近所との面識・交流
8 地域の安全	ア 犯罪の発生状況 イ 自然災害の発生状況 ウ 交通事故の発生状況	ア 犯罪の発生状況 イ 自然災害の発生状況 ウ 交通事故の発生状況	ア 野生鳥獣の出没状況や被害の発生状況(シカ、イノシシ、クマなど) イ 犯罪の発生状況 ウ 自然災害の発生状況
9 仕事のやりがい	ア 現在の職種・業務の内容 イ 現在の収入・給料の額 ウ 職場の人間関係	ア 現在の職種・業務の内容 イ 現在の収入・給料の額 ウ 職場の人間関係	ア 現在の職種・業務の内容 イ 現在の収入・給料の額 ウ 将来の収入・給料の額の見込み
10 必要な収入や所得	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 自分の金融資産の額	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 生活の程度	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 自分の支出額
11 歴史・文化への誇り	ア 地域のお祭り・伝統芸能 イ その地域で過ごした年数 ウ 郷土の歴史的偉人	ア 地域のお祭り・伝統芸能 イ その地域で過ごした年数 ウ 郷土の歴史的偉人	ア その地域で過ごした年数 イ 地域のお祭り・伝統芸能 ウ 地域の歴史や文化に関心がない
12 自然のゆたかさ	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 空気の状態(綺麗・汚い) ウ 水(河川、池、地下水などの)の状態(綺麗・汚い)	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 空気の状態(綺麗・汚い) ウ 水(河川、池、地下水などの)の状態(綺麗・汚い)	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 空気の状態(綺麗・汚い) ウ 水(河川、池、地下水などの)の状態(綺麗・汚い)

第4章 分析結果

4.1 分析方針等について

県民意識調査及び補足調査で得られた主観的幸福感と分野別実感について、以下の視点、方法で整理しました。

1 分析目的

(1) 主観的幸福感、分野別実感の概況の把握

県民意識の現状を把握するため、県民意識調査で得られた主観的幸福感や分野別実感の時系列変化と属性差を把握します。

(2) 分野別実感の変動要因の推測

県民意識の変化の状況を把握するため、令和5年（基準年）県民意識調査結果と令和7年県民意識調査結果を比較し、有意な差が確認された分野別実感については、令和7年補足調査結果を基に、その要因を推測します。

(3) 分野別実感が一貫して高値又は低値で推移している属性の把握とその要因の推測

分野別実感が一貫して高い又は低い属性を把握するため、平成28年から令和7年までの県民意識調査で得られた分野別実感で一貫して高値（平均値が毎年4点以上）又は低値（平均値が毎年3点未満）で推移している属性を把握するとともに、令和7年補足調査や過去の調査結果を用いて、その要因を推測します。

2 分析対象

(1) 県民意識調査（詳細はP6参照）

県民意識の状況を把握するため、無作為に抽出した18歳以上の県民5,000人を対象に毎年実施し（調査対象は毎年異なる）、主観的幸福感や分野別実感などを調査しています。

(2) 県民意識調査（補足調査）（詳細はP12参照）

県民意識調査結果を補足するため、あらかじめ選定した約600人を対象に実施し、主観的幸福感、分野別実感に加え、分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目などを調査しています。

なお、原則として、対象者を固定して実施していますが、令和6年の調査から、対象者の追加・更新等を行っています。

3 分析方法

(1) 基準年又は調査開始年に対して実感が低下・上昇した要因分析について

① 「時系列変化の有無」はt検定で検証

県民意識調査における時系列変化の有無は、2時点間（令和5年と令和7年）の差をt検定で検証し、5%水準で有意な差があると判定されたものを、期間で差があると判断しました。

② 「属性差の有無」は一元配置分散分析で検証

令和7年県民意識調査における性別、年齢階層別等の各属性の区分（性別における男性及び女性、年齢階層別における20歳代、30歳代、40歳代等）間の差の有無は一元配置分散分析で検証し、5%水準で有意な差があると判定された属性を区分間で差があると判断しました。

当年次レポートでは、その中で最も値が高い区分と低い区分を記載しています。

なお、「(性別) その他」、「18～19歳」、「家族従業者」、「60歳未満の無職」、「(居住年数) 10年未満」はサンプル数が小さいため、分析対象からは除外しています。

③ 「分野別実感の変動要因」は県民意識調査や補足調査から推測

以下の2つの分析結果をもとに、分野別実感の変動要因を検討しました。

・ 分野別実感の変動に影響を与えた属性の回答項目から変動要因を検証

県民意識調査をもとに、分野別実感の変動に影響を与えたと判断される属性を把握し、さらに補足調査で当該属性の分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目を把握することで、分野別実感の変動要因を推測しました。

例えば、分野別実感が低下した要因を分析する場合、県民意識調査で当該分野別実感の低下が大きい属性を把握し、補足調査で当該属性の分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目を把握することで、分野別実感の変動要因を検討しました。

・ 補足調査で得られた分野別実感の回答項目から変動要因を推測

補足調査で得られた分野別実感の回答項目を分野別実感の変化ごと（実感が上昇した人、実感が横ばいの人、実感が低下した人）の3区分に整理し、分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目の内容や各区分間の比較から、分野別実感の変動要因を推測しました。

例えば、分野別実感が低下した要因を分析する場合、「実感が低下した人」の分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目の内容を分析するとともに、「実感が横ばい、実感が上昇した人」の回答項目との比較を通じて、分野別実感の変動要因を検討しました。

なお、より実感の変化を適切に把握するため、実感が低下した場合は「感じる」から「やや感じる」に低下したものを、実感が上昇した場合は「感じない」から「あまり感じない」に上昇したものを、それぞれ分析対象から除外しています。

(2) 「分野別実感が一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因」は、県民意識調査から属性を把握し、補足調査から要因を推測

平成28年から令和7年までの県民意識調査で得られた分野別実感で、一貫して高値（4点以上）で推移している属性については、令和7年補足調査で当該属性の分野別実感が「感じる」「やや感じる」と回答した人の分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目を把握することで、高値で推移している要因を推測しました。

また、一貫して低値（3点未満）で推移している属性については、令和7年補足調査で当該属性の分野別実感が「感じない」「あまり感じない」の分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目を把握することで、低値で推移している要因を推測しました。

なお、一貫して高値又は低値で推移している要因の推測に当たっては、令和6年までの調査結果も参考にしました。

4.1.1 調査結果の概要（県民意識調査から得られた分野別実感の平均値の状況）

県民意識調査結果から得られた分野別実感の平均値の状況について、令和5年（基準年）と令和7年を比較し、統計的に有意な差が確認された属性を表4-1に示しています。

表4-1 【県民意識調査】属性別平均値一覧表（令和5年調査と令和7年調査の差）

■:上昇、□:横ばい、■:低下

		主観的 幸福感	心身の健康	余暇の充実	家族関係	子育て
令和7年調査 平均値		3.50	3.21	3.00	3.91	3.07
令和5年調査と令和7年調査の差	県計(3,159)	-	-	0.07	-	-
	性別					
	男性(1,395)	-	-	-	-	-
	女性(1,718)	-	-	0.08	-	-
	その他(参考)(6)					
	年代					
	18～19歳(参考)(26)	-	-	-	-	-
	20～29歳(128)	-	-	0.34	0.28	-
	30～39歳(234)	-	-	-	-	-
	40～49歳(384)	▲ 0.18	-	-	-	-
	50～59歳(544)	-	-	-	▲ 0.15	-
	60～69歳(708)	-	-	-	-	-
	70歳以上(1,094)	-	-	-	-	-
	職業					
	自営業主(256)	-	-	-	-	-
	家族従業員(参考)(87)	-	-	-	-	-
	会社役員・団体役員(193)	-	-	-	-	-
	常用雇用者(870)	-	-	-	-	-
	臨時雇用者(363)	-	-	-	-	-
	学生+その他(139)	-	-	-	-	-
	専業主婦・主夫(312)	-	-	-	-	-
	60歳未満の無職(参考)(64)	-	-	-	-	0.49
	60歳以上の無職(661)	-	-	-	-	-
	世帯構成					
	ひとり暮らし(405)	-	-	-	-	-
	夫婦のみ(663)	-	-	-	-	-
	2世代世帯(1,233)	-	-	-	-	-
	3世代世帯(405)	-	-	-	-	-
	その他(161)	-	-	-	-	-
	子どもの数					
	1人(355)	-	-	-	-	-
	2人(1,121)	-	-	-	-	-
	3人(587)	-	-	0.19	-	-
	4人以上(136)	-	-	-	-	-
	子どもはいない(682)	-	-	-	-	-
	居住年数					
	10年未満(参考)(83)	-	-	-	-	-
	10～20年未満(109)	-	-	-	-	-
	20年以上(2,768)	-	-	0.08	-	-
	広域振興圏					
	県央(920)	-	-	-	-	-
	県南(959)	-	-	-	-	-
	沿岸(732)	0.12	-	-	-	-
	県北(548)	-	-	-	-	-

() は、R7調査のサンプル数

表 4-1 【県民意識調査】属性別平均値一覧表（令和 5 年調査と令和 7 年調査の差）（続き）

 : 上昇、 : 横ばい、 : 低下

子どもの教育	住まいの快適さ	地域社会とのつながり	地域の安全	仕事のやりがい	必要な収入や所得	歴史・文化への誇り	自然のゆたかさ
3.15	3.30	3.12	3.62	3.41	2.50	3.27	4.23
-	-	-	▲ 0.07	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	▲ 0.11	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	0.32	0.29
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	▲ 0.24	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	▲ 0.35	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
0.58	-	0.44	-	-	-	0.60	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	▲ 0.12	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	▲ 0.18	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	▲ 0.17	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	0.14	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	▲ 0.08	-	-	-	-
-	-	-	-	-	▲ 0.19	-	-
-	-	-	▲ 0.10	-	-	-	-
-	-	0.16	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-

次に、県民意識調査において分野別実感の調査を始めた平成28年から令和7年までにおいて、実感平均値が一貫して高値（4点以上）又は低値（3点未満）で推移している属性を表4-2に示します。

表4-2【県民意識調査】属性別平均値一覧表（調査開始年から令和7年まで一貫して高値又は低値で推移している属性）

□:低値、□:高値

		余暇の 充実	家族関係	子育て	子どもの 教育	必要な収入 や所得	自然の ゆたかさ
県計(3,159)						2.44～2.77	4.16～4.27
性別	男性(1,395)					2.46～2.75	4.13～4.25
	女性(1,718)					2.43～2.79	4.18～4.29
	その他(参考)(6)						
年代	18～19歳(参考)(26)						
	20～29歳(128)					2.30～2.68	4.20～4.53
	30～39歳(234)					2.27～2.71	4.22～4.37
	40～49歳(384)	2.78～2.88				2.33～2.82	4.16～4.42
	50～59歳(544)	2.68～2.92				2.46～2.75	4.24～4.38
	60～69歳(708)					2.37～2.77	4.09～4.24
	70歳以上(1,094)					2.45～2.80	4.08～4.20
職業	自営業主(256)					2.53～2.86	4.19～4.32
	家族従業員(参考)(87)						
	会社役員・団体役員(193)						4.20～4.32
	常用雇用者(870)	2.82～2.95				2.52～2.86	4.21～4.35
	臨時雇用者(363)					2.20～2.65	4.13～4.36
	学生+その他(139)					2.49～2.94	4.09～4.59
	専業主婦・主夫(312)					2.34～2.89	4.15～4.29
	60歳未満の無職(参考)(64)						
	60歳以上の無職(661)					2.25～2.46	4.02～4.09
世帯構成	ひとり暮らし(405)					2.49～2.75	4.07～4.22
	夫婦のみ(663)		4.00～4.15			2.43～2.92	4.10～4.28
	2世代世帯(1,233)	2.80～2.99				2.40～2.71	4.16～4.29
	3世代世帯(405)					2.43～2.82	4.27～4.44
	その他(161)						
子どもの数	1人(355)					2.28～2.78	4.12～4.28
	2人(1,121)					2.48～2.86	4.16～4.25
	3人(587)					2.48～2.83	4.16～4.30
	4人以上(136)					2.31～2.86	4.18～4.32
	子どもはいない(682)	※		2.60～2.87	2.80～2.99	2.37～2.59	4.14～4.30
居住年数	10年未満(参考)(83)						
	10～20年未満(109)						4.21～4.42
	20年以上(2,768)					2.42～2.75	4.15～4.27
広域 振興圏	県央(920)					2.45～2.87	4.16～4.28
	県南(959)					2.39～2.70	4.11～4.26
	沿岸(732)					2.38～2.76	4.13～4.26
	県北(548)					2.34～2.76	4.22～4.37

() は、R7 調査のサンプル数

※はR7調査から一貫して低値ではなくなったもの。

4.2 主観的幸福感について

① 主観的幸福感の推移（P 7 図 3-1 及び図 3-2 参照）

令和 7 年県民意識調査結果に、「幸福だと感じている」から「幸福だと感じていない」の 5 段階の選択肢に応じて 5 点から 1 点を配点したところ、県全体の実感平均値は 3.50 点となり、基準年（令和 5 年）より 0.01 点上昇しています。

t 検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、主観的幸福感、基準年に比べて横ばいと考えられます。

また、「幸福だと感じている」又は「やや幸福だと感じている」と回答した人の割合は、県全体で 57.0% となり、基準年より 0.1 ポイントの上昇であり、「あまり幸福だと感じていない」又は「幸福だと感じていない」と回答した人の割合は、県全体で 17.6% となり、基準年より 0.5 ポイントの上昇でした。

なお、計画開始年（平成 31 年）と比較すると 0.08 点上昇しており、t 検定を行った結果、計画開始年に比べて有意に上昇していることから、主観的幸福感、計画開始年に比べて上昇していると考えられます。また、「幸福だと感じている」又は「やや幸福だと感じている」と回答した人の割合は、計画開始年より 4.7 ポイントの上昇、「あまり幸福だと感じていない」又は「幸福だと感じていない」と回答した人の割合は、計画開始年より 1.7 ポイントの低下でした。

② 属性別の状況

ア 令和 7 年県民意識調査における属性別平均値の状況（P 21 図 4-1 参照）

「居住年数別」及び「広域振興圏別」を除く全てで有意な差が認められました。

- ・ 性別では、「男性」が低く、「女性」が高くなりました。
- ・ 年代別では、「40～49 歳」が低く、「70 歳以上」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「臨時雇用者」が低く、「専業主婦・主夫」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 子どもの数別では、「子どもはいない」が低く、「3 人」が高くなりました。

イ 令和 7 年と基準年調査結果との比較

有意に変化した属性は表 4-3 のとおりでした。

表 4-3 主観的幸福感において基準年と比較し有意な変化があった属性と基準年差

属性		R5	R7	R7-R5 (対基準年差)
県計		3.49	3.50	0.01※
年代	40～49 歳	3.52	3.34	▲ 0.18
広域振興圏	沿岸広域振興圏	3.39	3.51	0.12

※ 県計は有意な変化はない。

③ 幸福感を判断する上で重視された項目（P 10 図 3-5 参照）

令和 7 年県民意識調査において、回答した人が幸福感を判断する上で重視した項目は、平成 28 年以降継続して 1 位が「健康状況」、2 位が「家族関係」でした。

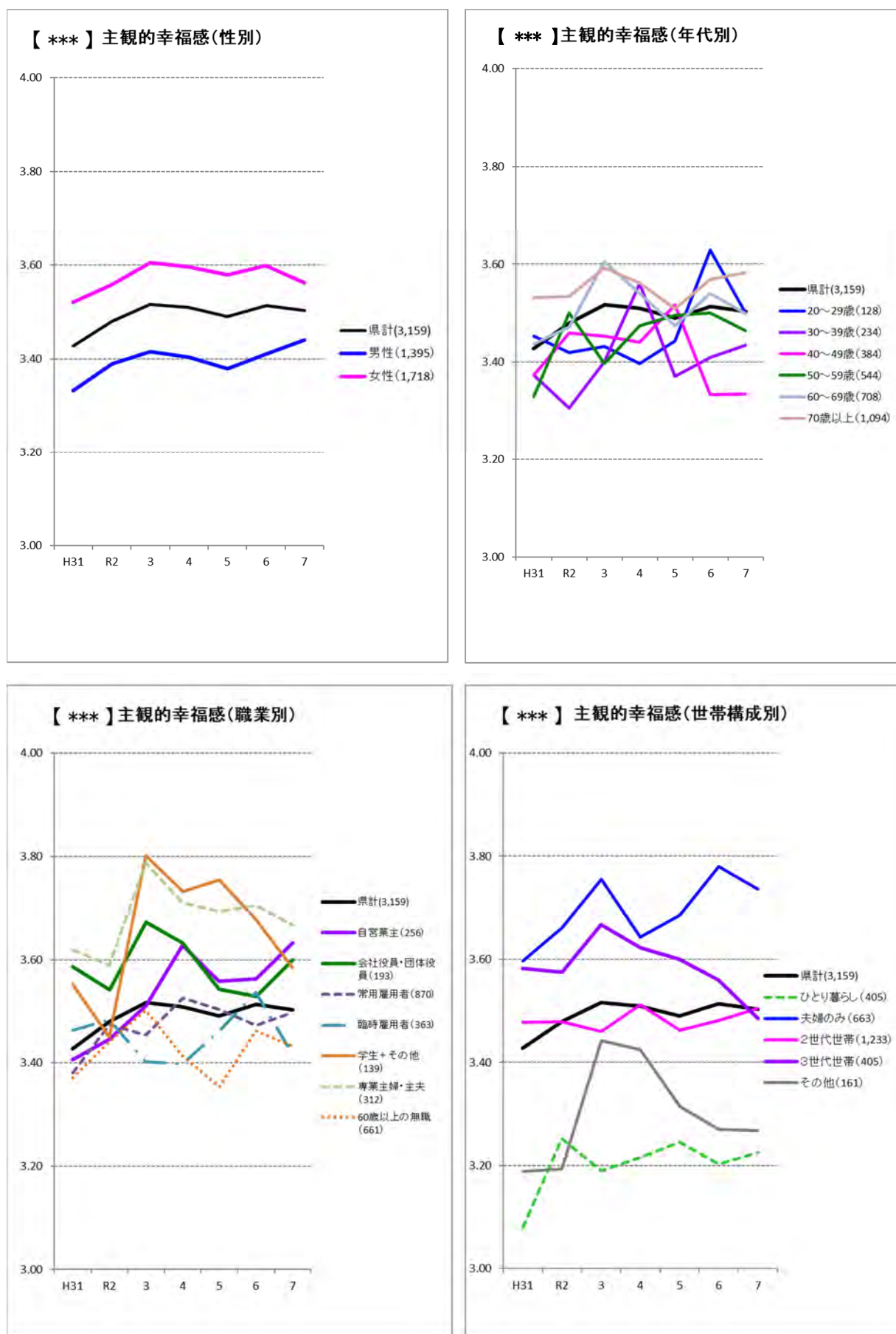
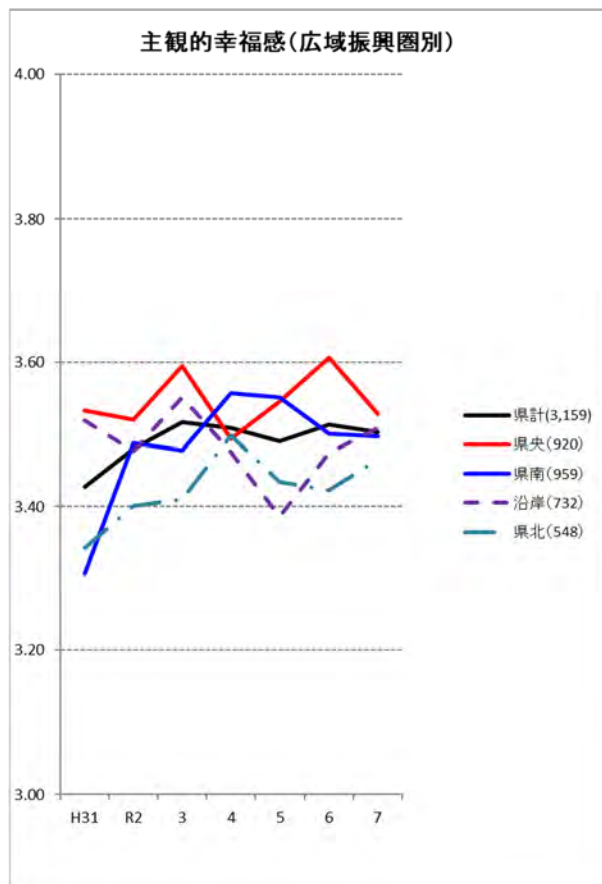
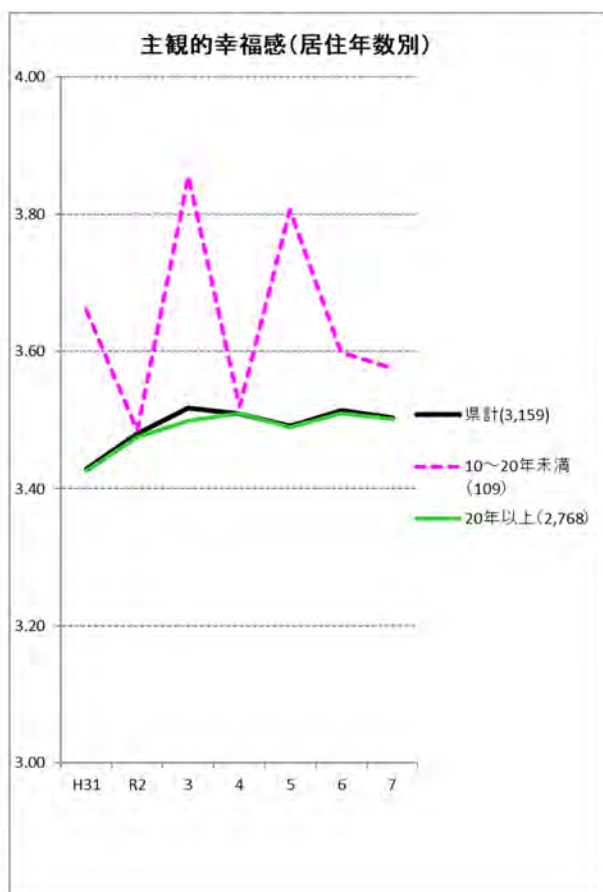
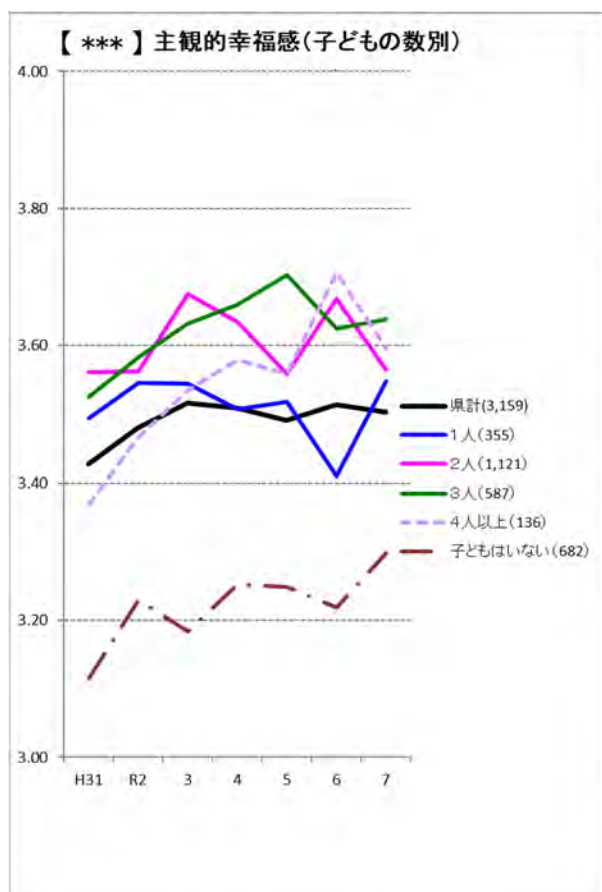


図 4-1 主観的幸福感の属性別集計結果



「主観的幸福感について」

主観的幸福感の実感平均値の算出方法

「幸福だと感じている」を5点、「やや幸福だと感じている」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり幸福だと感じていない」を2点、「幸福だと感じていない」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数(「わからない」、「不明(無回答)」を除く。)で除し、数値化しています。

■凡例■

グラフ左上の*は、R7調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示しています。

【***】 1%水準で差が有意 (差が認められる)

【**】 5%水準で差が有意 (差が認められる)

【*】 10%水準で差が有意

【-】 差が認められない

注) R7のサンプル数が100人未満である以下の属性を分析対象から除外しています。

- ・ 性別の「その他」
- ・ 年代別の「18～19歳」
- ・ 職業別の「家族従業者」、「60歳未満の無職」
- ・ 居住年数別の「10年未満」

図4-1 主観的幸福感の属性別集計結果(続き)

4.3 基準年（令和5年）と比較した分野別実感の分析について

令和7年県民意識調査結果から得られた分野別実感の平均値は表4-4のとおりであり、基準年と比較し、1分野で上昇、10分野で横ばい、1分野で低下となりました。

表4-4 【県民意識調査】分野別実感の時系列分析結果（基準年比較）

政策分野	分野別実感	平均値の推移						
		H31	R2	R3	R4	R5 (基準年)	R6	R7 (当該年)
Ⅰ健康・余暇	(1) 心身の健康	3.00	3.15	3.07	3.20	3.18	3.22	3.21
							- (0.05)	- (0.03)
	(2) 余暇の充実	3.05	2.93	2.97	2.96	2.93	3.02	3.00
							↑ (0.09)	↑ (0.07)
Ⅱ家族・子育て	(3) 家族関係	3.84	3.86	3.85	3.91	3.91	3.88	3.91
							- (△0.03)	- (0.01)
	(4) 子育て	3.08	3.07	3.16	3.16	3.06	3.03	3.07
							- (△0.03)	- (0.01)
Ⅲ教育	(5) 子どもの教育	3.10	3.09	3.20	3.18	3.14	3.13	3.15
							- (0.00)	- (0.01)
Ⅳ居住環境・コミュニティ	(6) 住まいの快適さ	3.34	3.29	3.31	3.31	3.29	3.31	3.30
							- (0.02)	- (0.00)
	(7) 地域社会とのつながり	3.35	3.16	3.09	3.10	3.07	3.10	3.12
							- (0.03)	- (0.05)
Ⅴ安全	(8) 地域の安全	3.82	3.66	3.76	3.72	3.69	3.66	3.62
							- (△0.03)	↓ (△0.07)
Ⅵ仕事・収入	(9) 仕事のやりがい	3.54	3.38	3.49	3.41	3.39	3.39	3.41
							- (0.00)	- (0.02)
	(10) 必要な収入や所得	2.65	2.56	2.77	2.57	2.53	2.48	2.50
							- (△0.05)	- (△0.03)
Ⅶ歴史・文化	(11) 歴史・文化への誇り	3.28	3.25	3.18	3.27	3.23	3.28	3.27
							- (0.06)	- (0.04)
Ⅷ自然環境	(12) 自然のゆたかさ	4.21	4.16	4.18	4.23	4.21	4.21	4.23
							- (0.00)	- (0.02)

(注) ① () は基準年調査との差。

なお、四捨五入の関係から年平均値とその差の合計が一致しない場合があります。

② t 検定の結果、5%水準で有意な変化が確認できたものは、網掛け又は矢印で表記。

4.3.1 実感が上昇した分野

(1) 「余暇の充実」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.00 点であり、基準年より 0.07 点上昇しています。

t 検定を行った結果、基準年に比べて有意に上昇していることから、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

イ 属性別の状況

(ア) 令和 7 年県民意識調査における属性別平均点の状況

- ・ 年代では、「40～49 歳」が低く、「20～29 歳」が高くなりました。
- ・ 職業では、「常用雇用者」が低く、「学生＋その他」が高くなりました。

(イ) 令和 7 年と基準年の調査結果の比較

基準年と比較して有意に変化した属性は表 4-5 のとおりでした。

表 4-5 「余暇の充実」の実感において基準年と比較し有意な変化があった属性と基準年差

属性		R5	R7	R7-R5※ (対基準年差)
県計		2.93	3.00	0.07
性別	女性	2.95	3.04	0.08
年代	20～29 歳	3.09	3.43	0.34
子どもの数	3 人	2.89	3.08	0.19
居住年数	20 年以上	2.91	2.99	0.08

※ 四捨五入の関係から R7 と R5 の差が一致しない場合があります。以降の各分野においても同様であるもの。

② 基準年と比較して分野別実感が上昇した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に上昇した属性は、表 4-5 のとおりであり、特に、年代「20～29 歳」で上昇幅が大きい傾向にあります。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、実感が上昇した人が選択した上位 3 位の項目は、以下のとおりでした。
 - a 自由な時間の確保
 - b 家族との交流
 - c 知人・友人との交流
- ・ 令和 7 年県民意識調査補足調査の生活時間のうち、仕事時間は 337 分であり、令和 6 年の 343 分から 6 分の減少となっており、また、3 次活動は 276 分であり、令和 6 年の 261 分から 15 分の増加となりました。
- ・ 補足調査結果において、実感が低下した人と実感が上昇した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」のうち、上位 3 項目以外を比較すると、「自然（山・海など）と触れ合う場所や機会があったこと」及び「趣味・娯楽活動の場所・機会」において、実感が低下した人の回答が少ない一方で、実感が上昇した人で回答が多いことから、当該理由も実感が上昇した要因の一つと推測されます。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が上昇した要因は、「自由な時間を十分に確保できたこと」、「家族との交流が増えたこと」、「知人・友人との交流が増えたこと」、「自然（山・海など）と触れ合う場所や機会があったこと」及び「趣味・娯楽活動の場所・機会が増えたこと」であると推測されます（表 4-6）。

表 4-6 「余暇の充実」の実感が基準年と比較して上昇した要因とその具体的な内容

実感が上昇した要因	具体的な内容（補足調査の自由記載）
自由な時間を十分に確保できたこと	自由な時間は好きな事をしている、昨年より平日の3次活動が増えたなど
家族との交流が増えたこと	家族と出かけたりしたりすること、休みの日は家族と過ごしている など
知人・友人との交流が増えたこと	時々、食事や映画に一緒に行ける友人がいるので救われる、休みの日に友達と出かけている など
自然(山・海など)と触れ合う場所や機会があったこと	登山と温泉を楽しめる場所に住んでいる、住んでいる所に自然が多いなど
趣味・娯楽活動の場所・機会が増えたこと	趣味の時間が多く持てる、行きたいところに行けている など

③ 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

- ・ 平成 28 年から一貫して高値（4 点以上）で推移している属性はなく、低値（3 点未満）で推移している属性は表 4-7 のとおり 4 属性でした。
- ・ 一貫して低値（3 点未満）で推移している 4 属性において、令和 7 年の補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、「あまり感じない・感じない」と回答した人が選択した 1 位は「自由な時間の確保」、2 位は「趣味・娯楽活動の場所・機会」、3 位は年代別「50～59 歳」を除く 3 属性で「知人・友人との交流」でした。
- ・ これらの 4 属性において、令和 6 年までに過去 2 回以上実感が低い要因として推測されたものは、「自由な時間が十分に確保できなかったこと」、「趣味・娯楽活動の場所・機会が少ないこと」及び「知人・友人との交流が少ないこと」でした。
- ・ 以上のことから、当該 4 属性において低値で推移している要因は、「自由な時間が十分に確保できなかったこと」、「趣味・娯楽活動の場所・機会が少ないこと」及び「知人・友人との交流が少ないこと」であると推測されます。
- ・ なお、子どもの数別「子どもはいない」は、平成 28 年から令和 6 年まで一貫して低値（3 点未満）でしたが、令和 7 年調査では初めて 3 点以上（3.05）となりました。

表 4-7 「余暇の充実」の実感において低値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
年代	40～49 歳	2.88	2.82	2.88	2.87	2.88	2.83	2.83	2.88	2.88	2.78
	50～59 歳	2.68	2.85	2.79	2.92	2.78	2.70	2.81	2.80	2.92	2.91
職業別	常用雇用者	2.82	2.87	2.82	2.89	2.85	2.86	2.84	2.90	2.95	2.91
世帯構成	2 世代世帯	2.80	2.98	2.94	2.97	2.84	2.92	2.93	2.90	2.94	2.99

4.3.2 実感が低下した分野

(1) 「地域の安全」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.62 点であり、基準年より 0.07 点低下しています。

t 検定を行った結果、基準年に比べて有意に低下していることから、当該分野の実感は低下していると考えられます。

イ 属性別の状況

(ア) 令和 7 年県民意識調査における属性別平均点の状況

- ・ 性別では、「女性」が低く、「男性」が高くなりました。
- ・ 年代では、「60～69 歳」が低く、「20～29 歳」が高くなりました。
- ・ 居住年数では、「20 年以上」が低く、「10～20 年未満」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、「沿岸広域振興圏」が低く、「県央広域振興圏」が高くなりました。

(イ) 令和 7 年と基準年の調査結果の比較

基準年と比較して有意に変化した属性は表 4-8 のとおりでした。

表 4-8 「地域の安全」の実感において基準年と比較し有意な変化があった属性と基準年差

属性		R5	R7	R7-R5 (対基準年差)
県計		3.69	3.62	▲ 0.07
性別	女性	3.68	3.57	▲ 0.11
世帯構成	夫婦のみ	3.72	3.60	▲ 0.12
	3 世代世帯	3.80	3.62	▲ 0.18
居住年数	20 年以上	3.68	3.61	▲ 0.08
広域振興圏	県南広域振興圏	3.75	3.65	▲ 0.10

② 基準年と比較して分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に上昇した属性は、表 4-8 のとおりであり、特に、世帯構成「3 世代世帯」で低下幅が大きい傾向にあります。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、実感が低下した人が選択した上位 3 位の項目は、以下のとおりでした。なお、「野生鳥獣の出没状況や被害の発生状況（シカ、イノシシ、クマなど）」は表 4-8 に示す有意な変化のあった全ての属性で、実感の低下した人の回答の 1 位でした。
 - a 野生鳥獣の出没状況や被害の発生状況（シカ、イノシシ、クマなど）
 - b 犯罪の発生状況
 - c 自然災害の発生状況
- ・ 「野生鳥獣の出没状況や被害の発生状況」は、令和 6 年補足調査において自由記載が多かったことから、本年のより選択肢に加えています。
- ・ 補足調査結果において、実感が低下した人と実感が上昇した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」のうち、上位 3 項目以外を比較しましたが、特に回答割合が高い傾向にある要因は見られませんでした。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が低下した要因は、「野生鳥獣の出没や被害の発生が多いこと」、「犯罪の発生状況に不安があること」及び「自然災害の発生が多く、被

害も大きくなっていること」であると推測されます（表 4-9）。

表 4-9 「地域の安全」の実感が基準年と比較して低下した要因とその具体的な内容

実感が低下した要因	具体的な内容（補足調査の自由記載）
野生鳥獣の出没や被害の発生が多いこと	年々多くなっているので心配、農地被害、道路に飛び出し交通危険 など
犯罪の発生状況に不安があること	山に住んでいるため、夜にあやしい人が来ても分からない など
自然災害の発生が多く、被害も大きくなっていること	津波浸水区域の為安全には不安がある、川と山が近い為土砂災害が不安 など

③ 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成 28 年から一貫して高値（4 点以上）又は低値（3 点未満）で推移している属性はありませんでした。

4.3.3 実感が横ばいの分野

(1) 「心身の健康」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.21 点であり、基準年より 0.03 点上昇しています。

t 検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

イ 属性別の状況

(ア) 令和 7 年県民意識調査における属性別平均点の状況

- ・ 年代では、「40～49 歳」が低く、「20～29 歳」が高くなりました。
- ・ 職業では、「60 歳以上の無職」が低く、「学生＋その他」が高くなりました。
- ・ 世帯構成では、「ひとり暮らし」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 居住年数では、「20 年以上」が低く、「10 年～20 年未満」が高くなりました。

(イ) 令和 7 年と基準年の調査結果の比較

基準年と比較して有意に変化した属性はありませんでした。

② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成 28 年から一貫して高値（4 点以上）又は低値（3 点未満）で推移している属性はありませんでした。

(2) 「家族関係」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.91 点であり、基準年より 0.01 点上昇しています。

t 検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

イ 属性別の状況

(ア) 令和7年県民意識調査における属性別平均点の状況

- ・ 年代では、「50～59歳」が低く、「20～29歳」が高くなりました。
- ・ 世帯構成では、「その他」が低く、「夫婦のみ」が高くなりました。
- ・ 居住年数では、「20年以上」が低く、「10～20年未満」が高くなりました。

(イ) 令和7年と基準年の調査結果の比較

基準年と比較して有意に変化した属性は表4-10のとおりでした。

表4-10 「家族関係」の実感において基準年と比較し有意な変化があった属性と基準年差

属性		R5	R7	R7-R5 (対基準年差)
県計		3.91	3.91	0.01※
年代	40～49歳	4.10	4.38	0.28
	50～59歳	3.90	3.75	▲ 0.15

※ 県計は有意な変化はない。

② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

- ・ 平成28年から一貫して高値（4点以上）で推移している属性は表4-11のとおりであり、低値（3点未満）で推移している属性はありませんでした。
- ・ 世帯別「夫婦のみ世帯」の属性については、令和7年補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、「感じる・やや感じる」と回答した人が選択した上位3位の項目は、「困った時に助けあえるかどうか」及び「会話の頻度(多い・少ない)」、「同居の有無」でした。
- ・ 世帯別「夫婦のみ世帯」の属性において、令和6年までに、過去2回以上実感が高い要因として推測されたものは、「会話の頻度が多いこと」、「同居（あるいは別居）がうまくいっていること」、「困ったときに助け合えていること」及び「家族がよい精神的影響（貢献）を自分にもたらしていること」でした。
- ・ 以上のことから、世帯別「夫婦のみ世帯」の属性において高値で推移している要因は、「会話の頻度が多いこと」、「同居（あるいは別居）がうまくいっていること」、「困ったときに助け合えていること」及び「家族がよい精神的影響（貢献）を自分にもたらしていること」であると推測されます。

表4-11 「家族関係」の実感において高値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
世帯構成	夫婦のみ	4.05	4.00	4.04	4.02	4.03	4.02	4.10	4.09	4.15	4.07

(3) 「子育て」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は3.07点であり、基準年より0.01点上昇しています。

t検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

イ 属性別の状況

(ア) 令和6年県民意識調査における属性別平均点の状況

- ・ 性別では、「男性」が低く、「女性」が高くなりました。
- ・ 年代では、「40～49歳」が低く、「70歳以上」が高くなりました。

- ・ 職業では、「臨時雇用者」が低く、「専業主婦・主夫」が高くなりました。
- ・ 子どもの数では、「子どもはいない」が低く、「4人以上」が高くなりました。

(イ) 令和7年と基準年の調査結果の比較

基準年と比較して有意に変化した属性はありませんでした。

② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

- ・ 平成28年から一貫して高値（4点以上）で推移している属性はなく、低値（3点未満）で推移している属性は、子どもの数別「子どもはいない」でした（表4-12）。
- ・ 子どもの数別「子どもはいない」の属性については、令和7年補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、「あまり感じない・感じない」と回答した人が選択した上位3位の項目は、「子育てにかかる費用」、「子どもの教育にかかる費用」、「自分の就業状況（労働時間、休業・休暇など）」でした。
- ・ 子どもの数別「子どもはいない」の属性において、令和6年までに過去2回以上実感が低い要因として推測されたものは、「子どもの教育にかかる費用が高いこと」、「子育てにかかる費用が高いこと」、「自分の就業状況（労働時間、休業・休暇など）に不満があること」及び「子育て支援サービスの内容が十分とは言えないこと」でした。
- ・ 以上のことから、子どもの数別「子どもはいない」の属性において低値で推移している要因は、「子どもの教育にかかる費用が高いこと」、「子育てにかかる費用が高いこと」、「自分の就業状況（労働時間、休業・休暇など）に不満があること」及び「子育てサービス支援の内容が十分とは言えないこと」であると推測されます。

表4-12 「子育て」の実感において低値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
子どもの数	子どもはいない	2.61	2.73	2.63	2.60	2.72	2.83	2.87	2.70	2.71	2.81

(4) 「子どもの教育」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は3.15点であり、基準年より0.01点上昇しています。

t検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

イ 属性別の状況

(ア) 令和7年県民意識調査における属性別平均点の状況

- ・ 年代では、「30～39歳」が低く、「70歳以上」が高くなりました。
- ・ 職業では、「常用雇用者」が低く、「専業主婦（主夫）」が高くなりました。
- ・ 子どもの数では、「子どもはいない」が低く、「2人」が高くなりました。

(イ) 令和7年と基準年の調査結果の比較

基準年と比較し有意に変化した属性はありませんでした。

② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

- ・ 平成28年から一貫して高値（4点以上）で推移している属性はなく、低値（3点未満）で推移している属性は、子どもの数別「子どもはいない」でした（表4-13）。
- ・ 子どもの数「子どもはいない」の属性については、令和7年補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、「あまり感じない・感じない」と回答した人が選択した上位3位の項目は、「人間性、社会性を育むための教

育内容」、「学力を育む教育内容」及び「学校の選択の幅（高校、大学など）」でした。

- ・ 子どもの数「子どもはいない」の属性において、令和6年までに過去2回以上実感が低い要因として推測されたものは、「学力を育む教育内容が十分とは言えないこと」、「人間性、社会性を育むための教育内容が十分とは言えないこと」及び「不登校やいじめなどの対応が十分とは言えないこと」でした。
- ・ 以上のことから、子どもの数別「子どもはいない」の属性において低値で推移している要因は、「人間性、社会性を育むための教育内容が十分とは言えないこと」、「学力を育む教育内容が十分とは言えないこと」、「学校の選択の幅（高校、大学など）が狭いこと」及び「不登校やいじめなどの対応が十分とは言えないこと」であると推測されます。

表4-13 「子どもの教育」の実感において低値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
子どもの数	子どもはいない	2.96	2.94	2.92	2.84	2.80	2.98	2.96	2.88	2.93	2.99

(5) 「住まいの快適さ」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は3.30点であり、基準差はありませんでした。

t検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

イ 属性別の状況

(ア) 令和7年県民意識調査における属性別平均点の状況

- ・ 年代では、「60～69歳」が低く、「70歳以上」が高くなりました。
- ・ 職業では、「臨時雇用者」が低く、「会社・団体役員」が高くなりました。
- ・ 居住年数では、「20年以上」が低く、「10～20年未満」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏では、「県北広域振興圏」が低く、「県央広域振興圏」が高くなりました。

(イ) 令和7年と基準年の調査結果の比較

基準年と比較して有意に変化した属性はありませんでした。

② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成28年から一貫して高値（4点以上）又は低値（3点未満）で推移している属性はありませんでした。

(6) 「地域社会とのつながり」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は3.12点であり、基準年より0.05点上昇しています。

t検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

イ 属性別の状況

(ア) 令和7年県民意識調査における属性別平均点の状況

- ・ 年代では、「20～29歳」が低く、「70歳以上」が高くなりました。
- ・ 職業では、「常用雇用者」が低く、「自営業主」が高くなりました。

- ・ 世帯構成では、「ひとり暮らし」が低く、「3世代世帯」が高くなりました。
- ・ 子どもの数では、「子どもはいない」が低く、「4人以上」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏では、「県央広域振興圏」が低く、「沿岸広域振興圏」が高くなりました。

(イ) 令和7年と基準年の調査結果の比較

基準年と比較して有意に変化した属性は表4-14のとおりでした。

表4-14 「地域社会とのつながり」の実感において基準年と比較し有意な変化があった属性と基準年差

属性		R5	R7	R7-R5 (対基準年差)
県計		3.07	3.12	0.05※
広域振興圏	沿岸広域振興圏	3.05	3.21	0.16

※ 県計は有意な変化はない。

② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成28年から一貫して高値（4点以上）又は低値（3点未満）で推移している属性はありませんでした。

(7) 「仕事のやりがい」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は3.41点であり、基準年より0.02点上昇しています。

イ 属性別の状況

(ア) 令和7年県民意識調査における属性別平均点の状況

- ・ 職業別では、「専業主婦・主夫」が低く、「自営業主」が高くなりました。
- ・ 子どもの数別では、「子どもはいない」が低く、「4人以上」が高くなりました。

(イ) 令和7年と基準年の調査結果の比較

基準年と比較して有意に変化した属性はありませんでした。

② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成28年から一貫して高値（4点以上）又は低値（3点未満）で推移している属性はありませんでした。

(8) 「必要な収入や所得」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は2.50点であり、基準年より0.03点低下しています。

t検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

イ 属性別の状況

(ア) 令和7年県民意識調査における属性別平均点の状況

- ・ 年代では、「40～49歳」が低く、「50～59歳」が高くなりました。
- ・ 職業では、「臨時雇用者」が低く、「会社・団体役員」が高くなりました。

- ・ 世帯構成では、「その他」が低く、「夫婦のみ」が高くなりました。

(イ) 令和7年と基準年の調査結果の比較

基準年と比較して有意に変化した属性は表4-15のとおりでした。

表4-15 「必要な収入や所得」の実感において基準年と比較し有意な変化があった属性と基準年差

属性		R5	R7	R7-R5 (対基準年差)
県計		2.53	2.50	▲ 0.03※
年代	40～49 歳	2.57	2.33	▲ 0.24
子の数	3 人	2.65	2.48	▲ 0.17
広域振興圏	県央広域振興圏	2.64	2.45	▲ 0.19

※ 県計は有意な変化はない。

② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

- ・ 平成28年から一貫して高値（4点以上）で推移している属性はなく、低値（3点未満）で推移している属性は表4-16のとおりでした。
- ・ 職業別「会社役員・団体役員」及び居住年数別「10～20年未満」を除く属性において、一貫して低値で推移しており、本分野について、令和7年補足調査の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」として選択された項目において、「あまり感じない・感じない」と回答した人が選択した上位3位の項目は、「自分の収入・所得額（年金を含む）」、「家族の収入・所得額（年金を含む）」、「自分の支出額」でした。
- ・ 本分野において、令和6年までに過去2回以上実感が低い要因として推測されたものは、「自分の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと」、「家族の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと」、「自分の金融資産の額が十分とは言えないこと」及び「自分の収入に比べて支出が多いこと、あるいは十分な支出ができないこと」でした。
- ・ 以上のことから、本分野において低値で推移している要因は、「自分の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと」、「家族の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと」、「自分の収入に比べて支出額が多いこと、あるいは十分な支出ができないこと」及び「自分の金融資産の額が十分とは言えないこと」であると推測されます。

表4-16 「必要な収入や所得」の実感において低値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
県計		2.44	2.58	2.45	2.65	2.56	2.77	2.57	2.53	2.48	2.50
性別	男性	2.46	2.60	2.47	2.68	2.55	2.75	2.55	2.50	2.50	2.53
	女性	2.43	2.56	2.43	2.61	2.58	2.79	2.59	2.55	2.47	2.48
年代	20～29 歳	2.48	2.51	2.44	2.66	2.49	2.68	2.40	2.30	2.47	2.50
	30～39 歳	2.44	2.47	2.42	2.51	2.36	2.71	2.50	2.47	2.27	2.43
	40～49 歳	2.51	2.56	2.52	2.66	2.50	2.82	2.62	2.57	2.40	2.33
	50～59 歳	2.46	2.52	2.49	2.60	2.52	2.75	2.58	2.53	2.49	2.56
	60～69 歳	2.37	2.57	2.40	2.63	2.59	2.77	2.54	2.55	2.53	2.49
	70 歳以上	2.46	2.70	2.45	2.75	2.65	2.80	2.61	2.55	2.52	2.55

表 4-16 「必要な収入や所得」の実感において低値で推移している属性(続き)

属性		H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
職業	自営業主	2.53	2.69	2.58	2.86	2.63	2.86	2.62	2.57	2.54	2.67
	常用雇用者	2.58	2.66	2.55	2.72	2.60	2.86	2.67	2.60	2.52	2.53
	臨時雇用者	2.20	2.31	2.30	2.56	2.39	2.65	2.38	2.40	2.30	2.34
	学生+その他	2.49	2.73	2.63	2.80	2.55	2.94	2.80	2.78	2.81	2.62
	専業主婦・主夫	2.37	2.48	2.34	2.46	2.67	2.89	2.61	2.58	2.51	2.45
	60歳以上の無職	2.25	2.46	2.29	2.37	2.46	2.42	2.41	2.33	2.40	2.35
世帯構成	ひとり暮らし	2.52	2.65	2.53	2.65	2.57	2.75	2.49	2.55	2.53	2.56
	夫婦のみ	2.59	2.72	2.43	2.76	2.68	2.92	2.63	2.59	2.64	2.61
	2世代世帯	2.41	2.54	2.51	2.62	2.54	2.71	2.56	2.50	2.40	2.45
	3世代世帯	2.49	2.56	2.52	2.72	2.55	2.82	2.62	2.54	2.45	2.43
子どもの数	1人	2.41	2.52	2.48	2.70	2.53	2.78	2.61	2.38	2.28	2.47
	2人	2.48	2.61	2.49	2.71	2.62	2.86	2.58	2.62	2.53	2.53
	3人	2.52	2.70	2.48	2.69	2.59	2.83	2.67	2.65	2.53	2.48
	4人以上	2.36	2.54	2.31	2.48	2.58	2.86	2.56	2.54	2.65	2.48
	子どもはいない	2.37	2.44	2.40	2.53	2.42	2.59	2.46	2.38	2.44	2.50
居住年数	20年以上	2.42	2.57	2.44	2.66	2.54	2.75	2.56	2.53	2.48	2.50
広域振興圏	県央広域振興圏	2.47	2.59	2.50	2.73	2.62	2.87	2.63	2.64	2.55	2.45
	県南広域振興圏	2.39	2.53	2.42	2.54	2.58	2.70	2.54	2.53	2.46	2.55
	沿岸広域振興圏	2.52	2.63	2.51	2.71	2.53	2.76	2.53	2.41	2.38	2.48
	県北広域振興圏	2.37	2.57	2.34	2.60	2.48	2.76	2.60	2.53	2.54	2.51

(9) 「歴史・文化への誇り」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.27 点であり、基準年より 0.04 点上昇しています。

t 検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

イ 属性別の状況

(ア) 令和 7 年県民意識調査における属性別平均点の状況

- ・ 性別では、「男性」が低く、「女性」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、「県北広域振興圏」が低く、「県央広域振興圏」が高くなりました。

(イ) 令和 7 年と基準年の調査結果の比較

基準年と比較して有意に変化した属性は表 4-17 のとおりでした。

表 4-17 「歴史・文化への誇り」の実感において基準年と比較し有意な変化があった属性と基準年差

属性		R5	R7	R7-R5 (対基準年差)
県計		3.23	3.27	0.04※
年代	20～29 歳	3.07	3.39	0.32
子の数	子どもはいない	3.16	3.30	0.14

※ 県計は有意な変化はない。

② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

- ・ 平成 28 年から一貫して高値（4 点以上）又は低値（3 点未満）で推移している属性はありませんでした。

(10) 「自然のゆたかさ」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 4.23 点であり、基準年より 0.02 点上昇しています。

t 検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

イ 属性別の状況

(ア) 令和 7 年県民意識調査における属性別平均点の状況

- ・ 性別では、「男性」が低く、「女性」が高くなりました。
- ・ 年代では、「70 歳以上」が低く、「20～29 歳」が高くなりました。
- ・ 職業では、「60 歳以上の無職」が低く、「常用雇用者」が高くなりました。
- ・ 子どもの数では、「2 人」が低く、「子どもはいない」が高くなりました。

(イ) 令和 7 年と基準年の調査結果の比較

基準年と比較して有意に変化した属性は表 4-18 のとおりでした。

表 4-18 「自然のゆたかさ」の実感において基準年と比較し有意な変化があった属性と基準年差

属性		R5	R7	R7-R5 (対基準年差)
県計		4.21	4.23	0.02※
年代	20～29 歳	4.24	4.53	0.29

※ 県計は有意な変化はない。

② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

- ・ 平成 29 年から一貫して低値（3 点未満）で推移している属性はなく、高値（4 点以上）で推移している属性は表 4-19 のとおりです。
- ・ 全ての属性において高値で推移しており、本分野について、令和 7 年補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、「感じる・やや感じる」と回答した人が選択した上位 3 位の項目は、「緑の量(豊か)」、「空気の状態(綺麗)」及び「水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗)」でした。
- ・ 本分野において、令和 6 年までに過去 2 回以上実感が高い要因として推測されたものは、「緑の量が豊かであること」、「空気の状態が綺麗であること」及び「水(河川、池、地下水など)の状態が綺麗であること」でした。
- ・ 以上のことから、本分野において高値で推移している要因は、「緑の量が豊かであること」、「空気の状態が綺麗であること」及び「水(河川、池、地下水など)の状態が綺麗であること」であると推測されます。

表 4-19 「自然のゆたかさ」の実感において高値で推移している属性

属性		H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
県計		4.26	4.27	4.21	4.16	4.18	4.23	4.21	4.21	4.23
性別	男性	4.23	4.25	4.19	4.13	4.16	4.20	4.16	4.19	4.20
	女性	4.29	4.28	4.23	4.18	4.20	4.25	4.24	4.24	4.26
年代	20～29 歳	4.37	4.36	4.20	4.20	4.21	4.37	4.24	4.29	4.53
	30～39 歳	4.28	4.31	4.22	4.33	4.24	4.37	4.27	4.22	4.27
	40～49 歳	4.30	4.42	4.30	4.16	4.22	4.36	4.33	4.32	4.33
	50～59 歳	4.30	4.38	4.27	4.25	4.24	4.27	4.29	4.30	4.34
	60～69 歳	4.24	4.18	4.17	4.09	4.19	4.19	4.16	4.22	4.17
	70 歳以上	4.20	4.14	4.17	4.10	4.08	4.10	4.10	4.11	4.12
職業	自営業主	4.29	4.29	4.21	4.22	4.19	4.32	4.29	4.31	4.27
	会社役員・団体役員	4.28	4.26	4.28	4.20	4.30	4.32	4.29	4.20	4.30
	常用雇用者	4.30	4.33	4.25	4.21	4.24	4.31	4.30	4.31	4.35
	臨時雇用者	4.36	4.31	4.31	4.22	4.16	4.23	4.13	4.21	4.20
	学生＋その他	4.37	4.59	4.33	4.09	4.34	4.38	4.40	4.35	4.30
	専業主婦・主夫	4.22	4.29	4.21	4.15	4.21	4.19	4.24	4.24	4.22
	60 歳以上の無職	4.09	4.04	4.09	4.04	4.07	4.02	4.02	4.04	4.06
世帯構成	ひとり暮らし	4.18	4.22	4.18	4.16	4.07	4.09	4.11	4.18	4.16
	夫婦のみ	4.21	4.22	4.20	4.10	4.21	4.18	4.22	4.28	4.24
	2 世代世帯	4.29	4.28	4.22	4.19	4.16	4.29	4.23	4.20	4.25
	3 世代世帯	4.44	4.39	4.34	4.29	4.29	4.30	4.33	4.27	4.30
	その他	4.14	4.24	4.13	4.09	4.30	4.20	4.06	4.15	4.17
子どもの数	1 人	4.28	4.25	4.21	4.16	4.24	4.23	4.20	4.12	4.28
	2 人	4.24	4.25	4.25	4.16	4.19	4.20	4.21	4.22	4.20
	3 人	4.28	4.30	4.23	4.16	4.18	4.28	4.27	4.23	4.23
	4 人以上	4.32	4.28	4.25	4.22	4.18	4.23	4.25	4.29	4.27
	子どもはいない	4.27	4.30	4.14	4.19	4.18	4.28	4.21	4.26	4.31
居住年数	10～20 年未満	4.21	4.29	4.24	4.31	4.35	4.24	4.42	4.21	4.34
	20 年以上	4.27	4.27	4.22	4.15	4.17	4.23	4.21	4.22	4.23
広域振興圏	県央広域振興圏	4.26	4.28	4.19	4.20	4.16	4.23	4.27	4.26	4.27
	県南広域振興圏	4.22	4.26	4.15	4.11	4.15	4.17	4.17	4.13	4.19
	沿岸広域振興圏	4.25	4.25	4.26	4.13	4.21	4.24	4.15	4.23	4.22
	県北広域振興圏	4.37	4.27	4.31	4.23	4.22	4.31	4.28	4.25	4.24

※「自然のゆたかさ」は平成 29 年からの設問

5.1 主観的幸福感について

令和7年県民意識調査結果に、「幸福だと感じている」から「幸福だと感じていない」の5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点したところ、県全体の実感平均値は3.50点となり、基準年より0.01点上昇しています。

t検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、主観的幸福感、基準年に比べて横ばいと考えられます。

基準年と比較して上昇した属性は、広域振興圏では「沿岸広域振興圏」であり、低下した属性は、年代では「40～49歳」でした。

なお、計画開始年と比較すると0.08点上昇しており、t検定を行った結果、計画開始年に比べて有意に上昇していることから、主観的幸福感、計画開始年に比べて上昇していると考えられます。

また、幸福を判断するに当たっては、「健康状況」や「家族関係」を特に重視する傾向にあります。

5.2 基準年（令和5年）と比較した分野別実感の分析について

分野別実感の平均値は、基準年と比較して、1分野で上昇、10分野で横ばい、1分野で低下となりました。

5.2.1 実感が上昇した分野

(1) 「余暇の充実」の実感

令和7年県民意識調査における実感平均値は、基準年より0.07点上昇して3.00点であり、t検定を行った結果、基準年に比べて有意に上昇しているため、「余暇の充実」の実感は上昇していると考えられます。

基準年と比較して上昇した属性は、性別では「女性」、年代では「20～29歳」、子どもの数では「3人」、居住年数では「20年以上」であり、低下した属性はありませんでした。

当該分野の実感が上昇した要因として、補足調査の結果から、「自由な時間を十分に確保できたこと」、「家族との交流が増えたこと」、「知人・友人との交流が増えたこと」、「自然（山・海など）と触れ合う場所や機会があったこと」及び「趣味・娯楽活動の場所・機会が増えたこと」であると推測されます。

平成28年から一貫して高値（4点以上）で推移している属性はなく、低値（3点未満）で推移している属性は、年代別では「40～49歳」、「50～59歳」、職業別では「常用雇用者」、世帯構成別では「2世代世帯」であり、令和7年補足調査及びこれまでの調査結果から、自由な時間が十分に確保できなかったこと、「趣味・娯楽活動の場所・機会が少ないこと」及び「知人・友人との交流が少ないこと」であると推測されます。なお、子どもの数別「子どもはいない」は、平成28年から令和6年まで一貫して低値（3点未満）でしたが、令和7年調査では初めて3点以上（3.05）となりました。

5.2.2 実感が低下した分野

(1) 「地域の安全」の実感

令和7年県民意識調査における実感平均値は、基準年より0.07点低下して3.62点であり、t検定を行った結果、基準年に比べて有意に低下しているため、「地域の安全」の実感は低下していると考えられます。

基準年と比較して低下した属性は、性別では「女性」、世帯構成では「夫婦のみ」「3世

代世帯」、居住年数では「20 年以上」、広域振興圏では「沿岸広域振興圏」であり、上昇した属性はありませんでした。

当該分野の実感が低下した要因として、補足調査の結果から、「野生鳥獣の出没や被害の発生が多いこと」、「犯罪の発生状況に不安があること」及び「自然災害の発生が多く、被害も大きくなっていること」であると推測されます。

平成 28 年から一貫して高値（4 点以上）又は低値（3 点未満）で推移している属性はありませんでした。

5. 2. 3 実感が横ばいの分野

(1) 「心身の健康」の実感

令和 7 年県民意識調査における実感平均値は、基準年より 0.03 点上昇して 3.21 点であり、t 検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、「心身の健康」の実感は横ばいと考えられます。

基準年と比較して有意に変化した属性はありませんでした。

平成 28 年から一貫して高値（4 点以上）又は低値（3 点未満）で推移している属性はありませんでした。

(2) 「家族関係」の実感

令和 7 年県民意識調査における実感平均値は、基準年と同点の 3.91 点であり、t 検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、「家族関係」の実感は横ばいと考えられます。

基準年と比較して低下した属性は、年代では「50～59 歳」であり、上昇した属性は年代では「40～49 歳」でした。

平成 28 年から一貫して低値（3 点未満）で推移している属性はなく、高値（4 点以上）で推移している属性は、世帯構成別では「夫婦のみ世帯」であり、令和 7 年補足調査及びこれまでの調査結果から、その要因は、「会話の頻度が多いこと」、「同居（別居）がうまくいっていること」、「困ったときに助け合えていること」及び「家族がよい精神的影響（貢献）を自分にもたらしていること」であると推測されます。

(3) 「子育て」の実感

令和 7 年県民意識調査における実感平均値は、基準年より 0.01 点上昇して 3.07 点であり、t 検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、「子育て」の実感は横ばいと考えられます。

基準年と比較して有意に変化した属性はありませんでした。

平成 28 年から一貫して高値（4 点以上）で推移している属性はなく、低値（3 点未満）で推移している属性は、子どもの数別では「子どもはいない」であり、令和 7 年補足調査及びこれまでの調査結果から、その要因は、「子どもの教育にかかる費用が高いこと」、「子育てにかかる費用が高いこと」、「自分の就業状況（労働時間、休業・休暇など）に不満があること」及び「子育てサービス支援の内容が十分とは言えないこと」であると推測されます。

(4) 「子どもの教育」の実感

令和 7 年県民意識調査における実感平均値は、基準年より 0.01 点上昇して 3.15 点であり、t 検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、「子どもの教育」の実感は横ばいと考えられます。

基準年と比較して有意に変化した属性はありませんでした。

平成 28 年から一貫して高値（4 点以上）で推移している属性はなく、低値（3 点未満）

で推移している属性は、子どもの数別では「子どもはいない」であり、令和7年補足調査及びこれまでの調査結果から、その要因は、「人間性、社会性を育むための教育内容が十分とは言えないこと」、「学力を育む教育内容が十分とは言えないこと」、「学校の選択の幅（高校・大学など）が狭いこと」及び「不登校やいじめなどの対応が十分とは言えないこと」であると推測されます。

(5) 「住まいの快適さ」の実感

令和7年県民意識調査における実感平均値は、基準年より0.01点上昇して3.30点であり、t検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、「住まいの快適さ」の実感は横ばいと考えられます。

基準年と比較して有意に変化した属性はありませんでした。

平成28年から一貫して高値（4点以上）又は低値（3点未満）で推移している属性はありませんでした。

(6) 「地域社会とのつながり」の実感

令和7年県民意識調査における実感平均値は、基準年より0.05点上昇して3.12点であり、t検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、「地域社会とのつながり」の実感は横ばいと考えられます。

基準年と比較して上昇した属性は、広域振興圏では「沿岸広域振興圏」であり、低下した属性はありませんでした。

平成28年から一貫して高値（4点以上）又は低値（3点未満）で推移している属性はありませんでした。

(7) 「仕事のやりがい」の実感

令和7年県民意識調査における実感平均値は、基準年より0.02点上昇して3.41点であり、t検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、「仕事のやりがい」の実感は横ばいと考えられます。

基準年と比較して有意に変化した属性はありませんでした。

平成28年から一貫して高値（4点以上）又は低値（3点未満）で推移している属性はありませんでした。

(8) 「必要な収入や所得」の実感

令和7年県民意識調査における実感平均値は、基準年より0.03点低下して2.50点であり、t検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、「必要な収入や所得」の実感は横ばいと考えられます。

基準年と比較して低下した属性は、年代では「40～49歳」、子の数では「3人」、広域振興圏では「県央広域振興圏」であり、上昇した属性はありませんでした。

平成28年から一貫して高値（4点以上）で推移している属性はなく、低値（3点未満）で推移している属性は、職業別「会社役員・団体役員」及び居住年数別「10～20年未満」を除く全ての属性であり、令和7年補足調査及びこれまでの調査結果から、その要因は、「自分の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと」、「家族の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと」、「自分の収入に比べて支出額が多いこと、あるいは十分な支出ができないこと」及び「自分の金融資産の額が十分とは言えないこと」であると推測されます。

(9) 「歴史・文化への誇り」の実感

令和7年県民意識調査における実感平均値は、基準年より0.04点上昇して3.27点であり、t検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、「歴史・文化への誇り」の実感は横ばいと考えられます。

基準年と比較して上昇した属性は、年代では「20～29 歳」、子の数では「子どもはいない」であり、低下した属性はありませんでした。

平成 28 年から一貫して高値（4 点以上）又は低値（3 点未満）で推移している属性はありませんでした。

(10) 「自然のゆたかさ」の実感

令和 7 年県民意識調査における実感平均値は、基準年より 0.02 点上昇して 4.23 点であり、t 検定を行った結果、基準年に比べて有意な変化は見られなかったことから、「自然のゆたかさ」の実感は横ばいと考えられます。

基準年と比較して上昇した属性は、年代では「20～29 歳」であり、低下した属性はありませんでした。

平成 29 年から一貫して低値（3 点未満）で推移している属性はなく、高値（4 点以上）で推移している属性は全ての属性であり、令和 7 年補足調査及びこれまでの調査結果から、その要因は、「緑の量が豊かであること」、「空気の状態が綺麗であること」及び「水（河川、池、地下水など）の状態が綺麗であること」であると推測されます。

【追加分析】

追 1 主観的幸福感と生活満足度との関係について

追 2 属性別の生活時間（行動時間）の配分について

追 3 生活時間（行動時間）と主観的幸福感・生活満足度との関係について

追 1 主観的幸福感と生活満足度との関係について

追 1. 1 生活満足度の調査概要

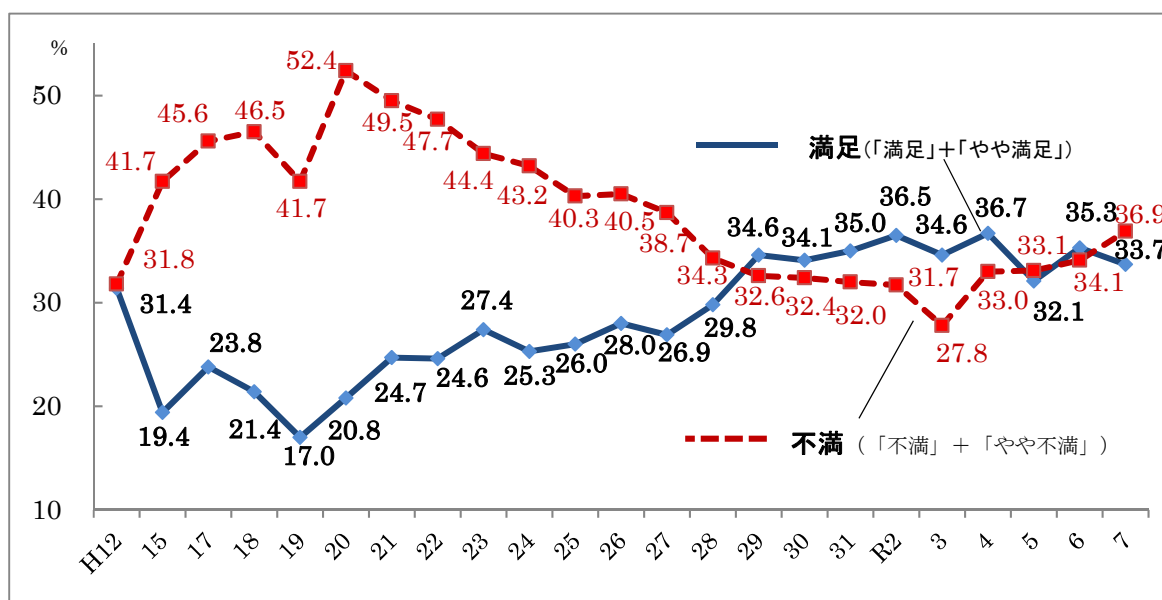
県民意識調査では、「今の生活全般についてどのように感じているか」について、「満足できる状態にある」、「やや満足できる状態にある」、「どちらともいえない」、「やや不満な状態にある」、「不満な状態にある」との選択肢を示し、回答を求めています。

追 1. 2 令和 7 年県民意識調査に係る生活満足度の調査結果

県民意識調査における、満足（「満足」＋「やや満足」）の割合と不満（「不満」＋「やや不満」）の割合の経年変化を図：追 1-1 に示します。

令和 7 年の県計では、満足（「満足」＋「やや満足」）の割合が 33.7% となっており、不満（「不満」＋「やや不満」）の割合は 36.9% となっていました。

また、令和 6 年調査と比較すると、満足の割合は 35.3% から 1.6 ポイント減少し、不満の割合は 34.1% から 2.8 ポイント増加していました。

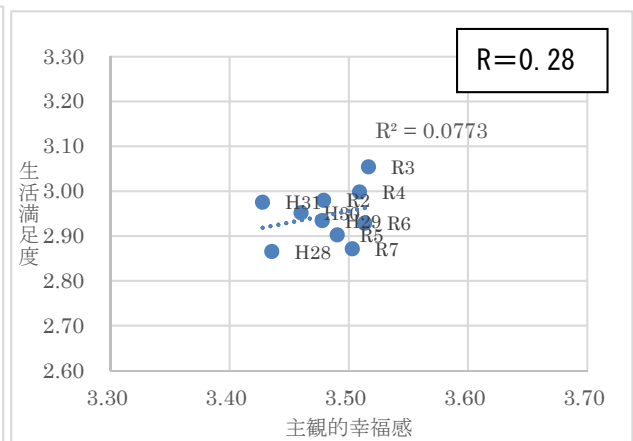
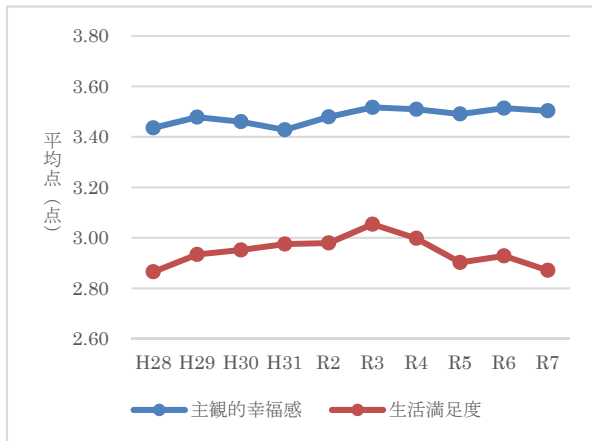


図：追 1-1 【県民意識調査】生活満足度の経年変化

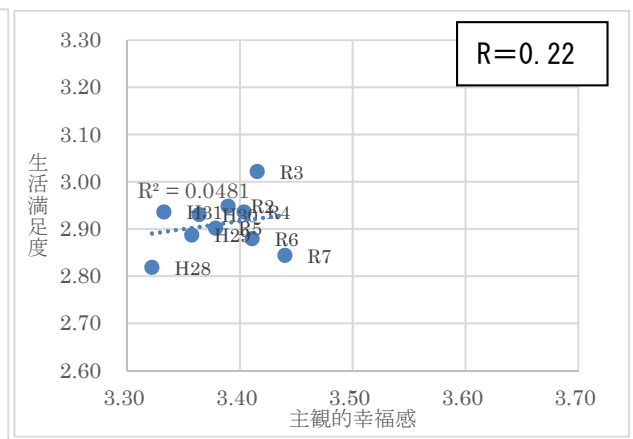
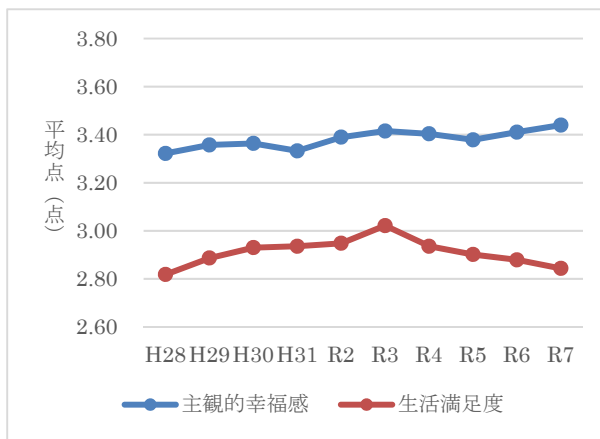
追 1. 3 主観的幸福感及び生活満足度との関係性

毎年の主観的幸福感と生活満足度の経年変化と相互関係について、回答者の男女別、年代別で図：追 1-2 ～追 1-10 に示しました。その結果、年に関わらず、県計を含む全ての属性において主観的幸福感が生活満足度を上回っていました。また、それぞれの関係性については、「40～49 歳」（図：追 1-7）で強い正の相関があった（相関係数 0.77）ほかは、多くの属性で弱い正の相関となっていました。このことから、主観的幸福感と生活満足度については、強く関係しているとまでは言えないと考えられます。

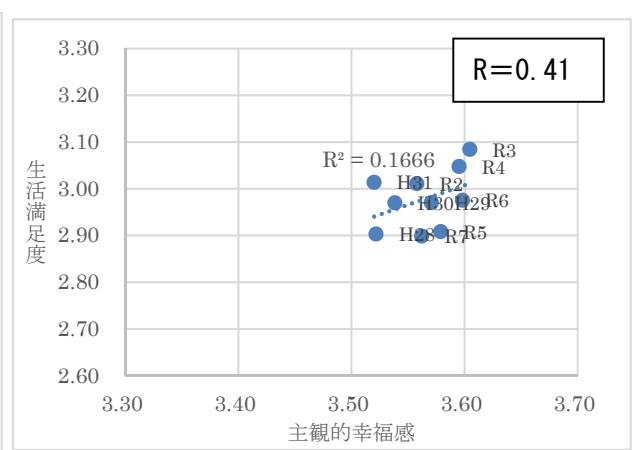
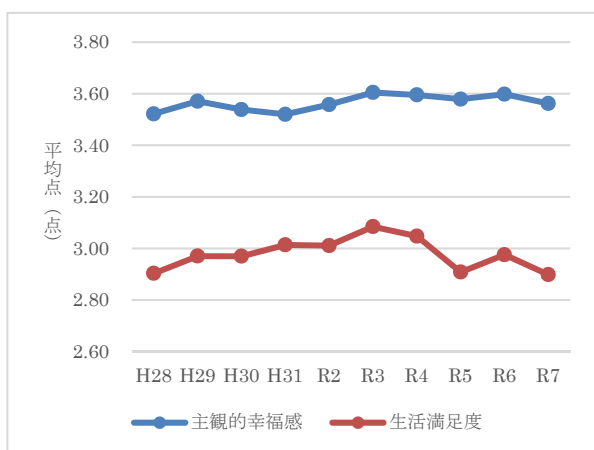
ただし、H28～R7 の 10 サンプルによる相関分析であることから、その評価については留意が必要です。



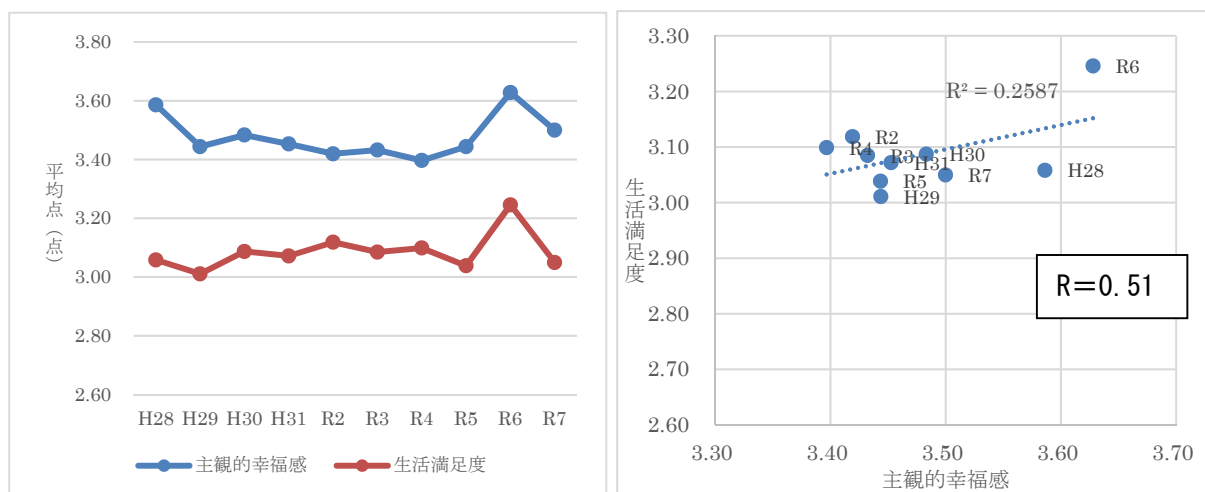
図：追 1-2 【県民意識調査】主観的幸福感と生活満足度の経年変化と相互関係（県計）



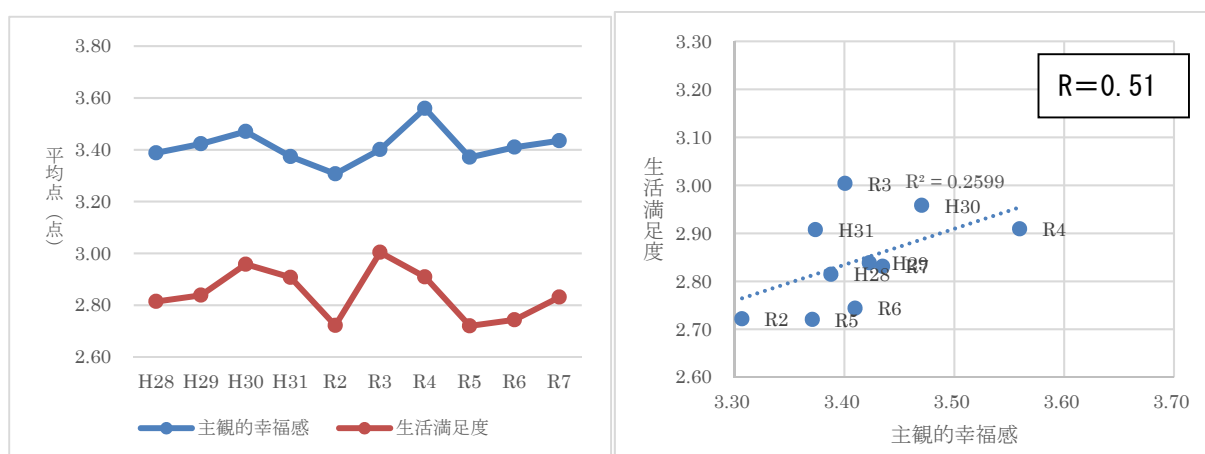
図：追 1-3 【県民意識調査】主観的幸福感と生活満足度の経年変化と相互関係（男性）



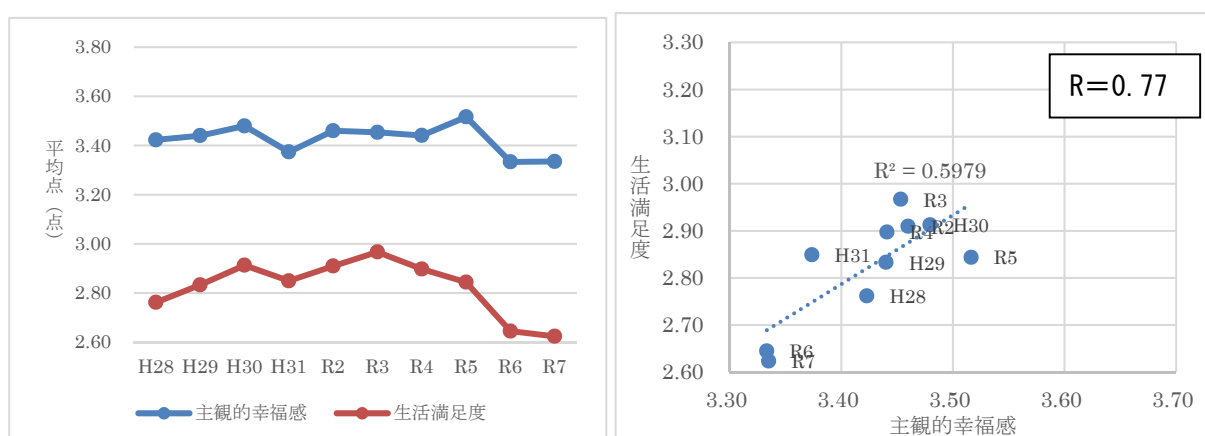
図：追 1-4 【県民意識調査】主観的幸福感と生活満足度の経年変化と相互関係（女性）



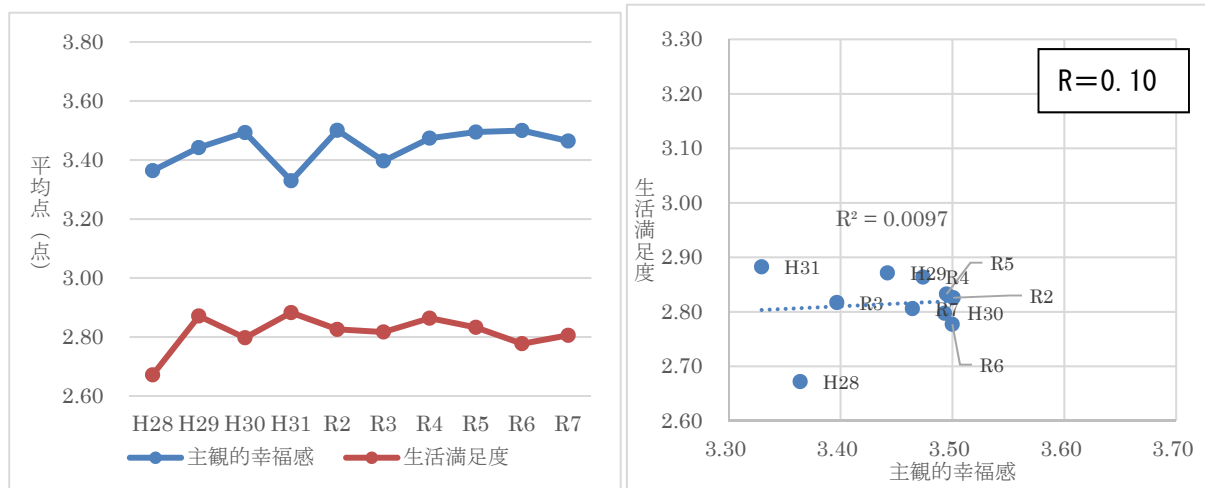
図：追 1-5【県民意識調査】主観的幸福感と生活満足度の経年変化と相互関係（20～29 歳）



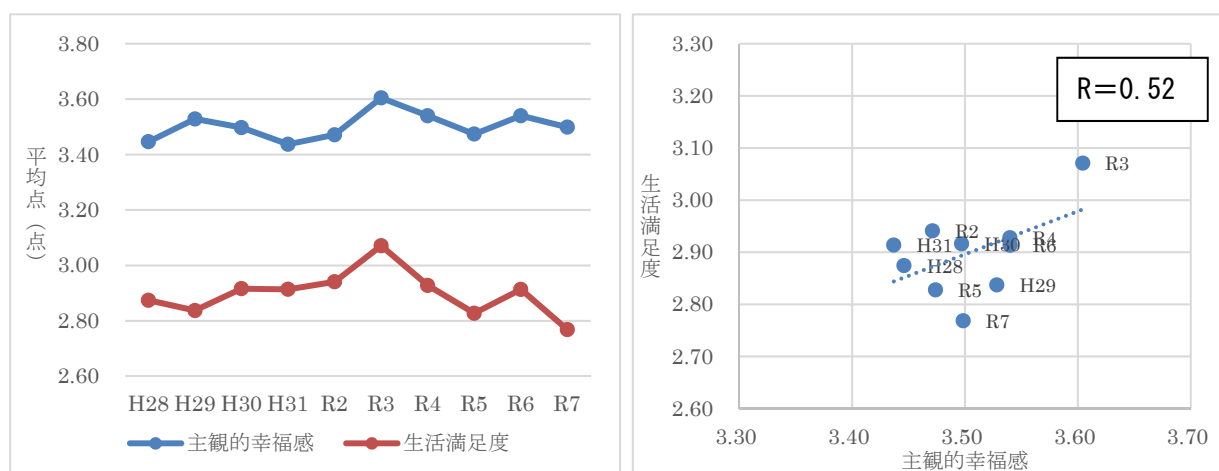
図：追 1-6【県民意識調査】主観的幸福感と生活満足度の経年変化と相互関係（30～39 歳）



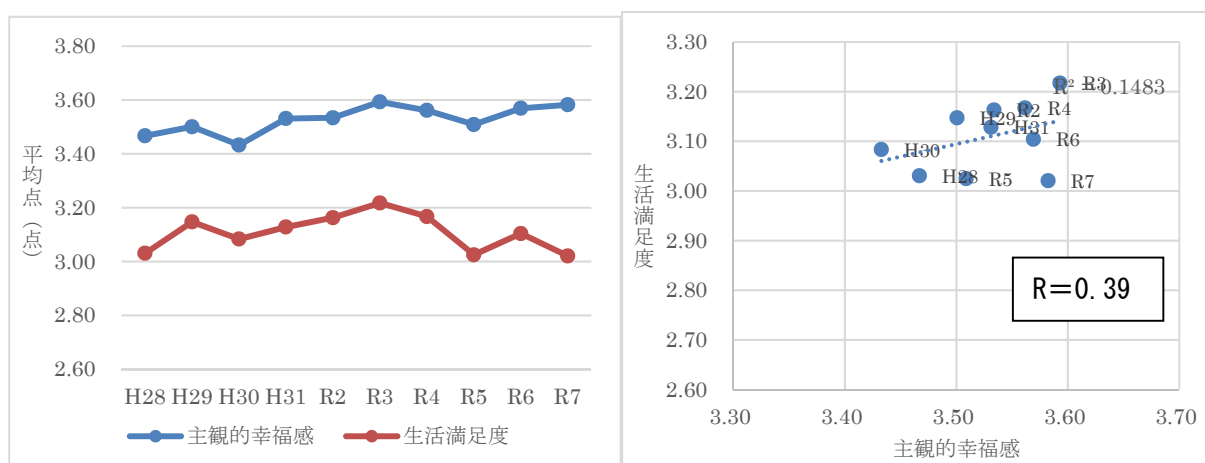
図：追 1-7【県民意識調査】主観的幸福感と生活満足度の経年変化と相互関係（40～49 歳）



図：追 1-8【県民意識調査】主観的幸福感と生活満足度の経年変化と相互関係（50～59 歳）



図：追 1-9【県民意識調査】主観的幸福感と生活満足度の経年変化と相互関係（60～69 歳）



図：追 1-10【県民意識調査】主観的幸福感と生活満足度の経年変化と相互関係（70 歳以上）

追 2 属性別の生活時間（行動時間）の配分について

追 2. 1 生活時間（行動時間）の調査概要

県民意識調査（問 5）と補足調査（問 4）において、行動の種類別に 1 日あたりの普段の生活における生活時間（行動時間）を調査しています。更に、県民意識調査では夫婦世帯について、自身と併せて配偶者の家事時間も調査しています。（表：追 2-1）

なお、本調査においては表：追 2-2 に示す条件に当てはまる回答があった場合には、集計から、当該行動だけでなく、当該回答者の生活時間に係る全ての回答を除いています。

表：追 2-1 回答対象の行動・家事の種類

	行動・家事の種類	県民意識調査			補足調査	
		夫婦世帯		夫婦世帯以外		
		回答者本人	回答者の配偶者			
1次活動（生理的に必要な活動）	①睡眠	○	－	○	○	
	②身の回りの用事	○	－	○	○	
	③食事（注1）	○	－	○	○	
2次活動（社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動）	④通勤・通学	○	－	○	○	家事労働
	⑤仕事（収入を伴う仕事）	○	－	○	○	
	⑥学業（学生が学校の授業やそれに関連して行う学習活動）	○	－	○	○	
	⑦食事の用意・後片付け	○	○	○	○	
	⑧掃除・洗濯	○	○	○	○	
	⑨介護・看護	○	○	○	○	
	⑩育児	○	○	○	○	
	⑪買い物	○	○	○	○	
	⑫その他（⑦～⑪以外の家事）	○	○	○	○	
3次活動	1次活動及び2次活動以外	※	－	※	※	

※ 1 次活動及び 2 次活動時間の残り時間から算出。

表：追 2-2 回答から除く条件

- ・「睡眠」が 120 分以下
- ・「睡眠」、「食事」のどちらか又は両方が空欄
- ・1 次活動時間が 0 分にも関わらず 2 次活動時間あり
- ・「育児」、「介護・看護」以外で 10 時間を越える
- ・「食事」が 10 分以下
- ・「通勤・通学」1 分以上で「仕事」0 分
- ・合計 24 時間越え

追 2. 2 生活時間（行動時間）の調査結果（該当行動無しを含む総平均時間）

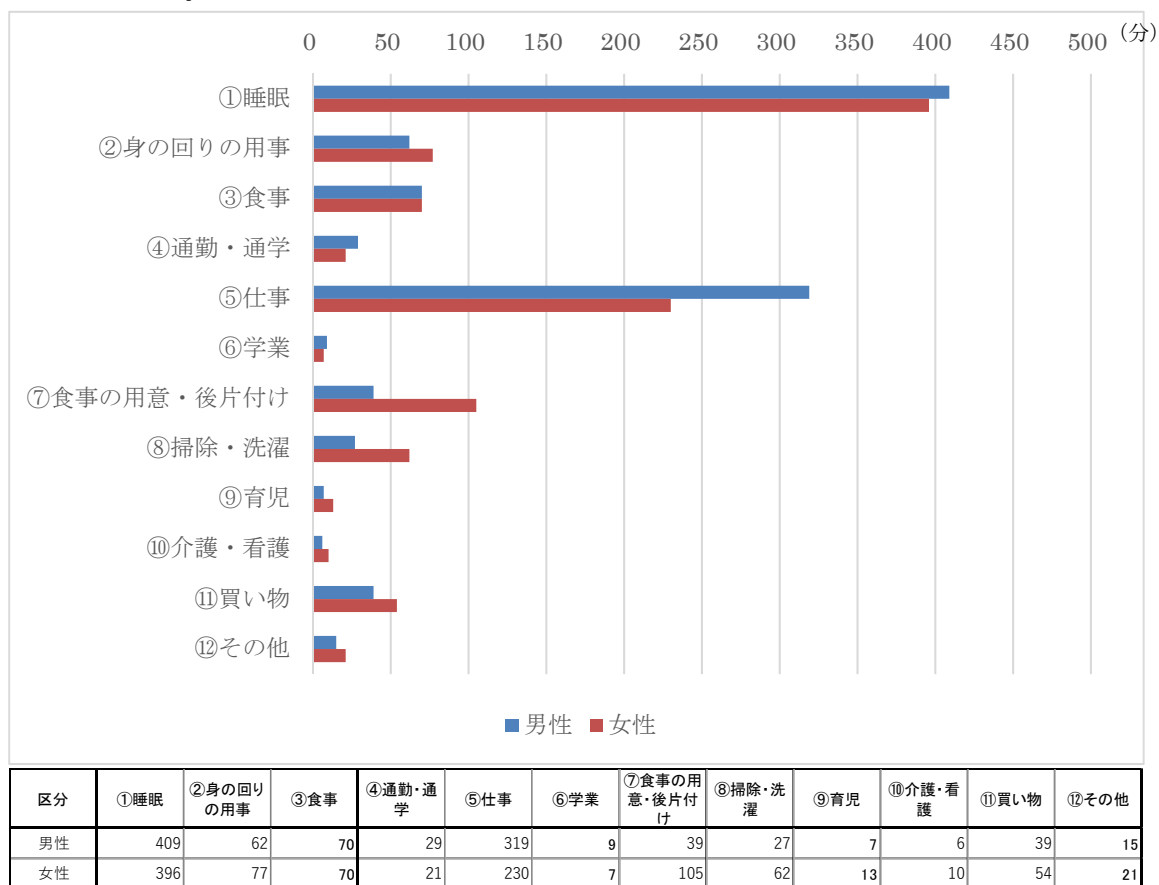
県民意識調査・補足調査の結果に基づき、該当生活（行動）を行っていない回答者の回答も含んだ生活時間の調査結果を示します。ここでは、該当生活（行動）を行っていない場合には、「0分」として平均値を算出していることから、該当者が限られる「育児」や「介護・看護」等については、実際に従事している回答者のみを抽出して算出した生活時間（行動時間）とは差異があることに留意が必要です。

追 2. 2. 1 県民意識調査における生活時間（行動時間）調査結果

(1) 令和7年県民意識調査における男女別生活時間（行動時間）

令和7年県民意識調査における、生活時間（行動時間）回答の男女別平均値を図：追2-1に示します。

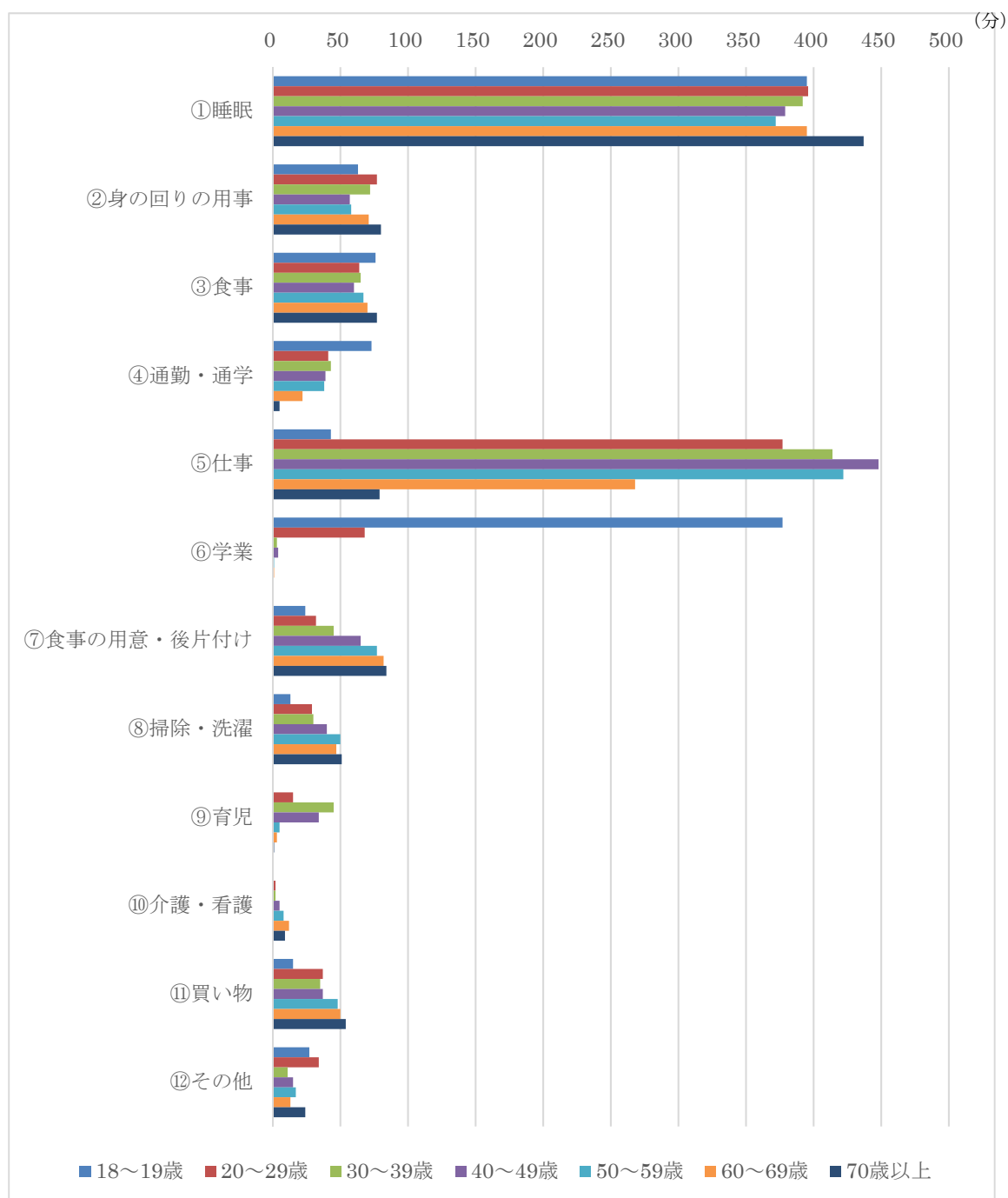
生活時間（行動時間）は、行動種類別に見ると、「睡眠」、「仕事」の順に長く、男女別で比較して見ると、男性は女性より「仕事」が長い一方、「食事の用意・後片付け」、「掃除・洗濯」等の家事労働が短い傾向にあります。また、「食事」については男女で差は見られませんでした。



図：追2-1 【R7 県民意識調査】生活時間（行動時間）男女別

(2) 令和7年県民意識調査における年代別生活時間（行動時間）

令和7年県民意識調査における、生活時間（行動時間）回答の年代別平均値を図：追2-2に示します。「睡眠」は40～49歳や50～59歳が短く、「育児」を除く家事労働は年代が高いほど長い傾向が見られる結果となりました。



図：追2-2 【R7 県民意識調査】生活時間（行動時間）年齢別

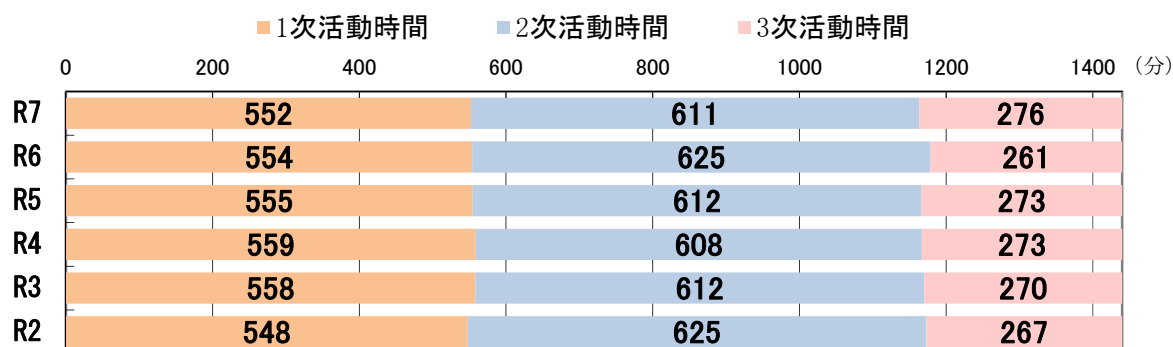
追2.2.2 補足調査における生活時間（行動時間）調査結果

(1) 1次、2次、3次活動時間別経年変化（男女別）

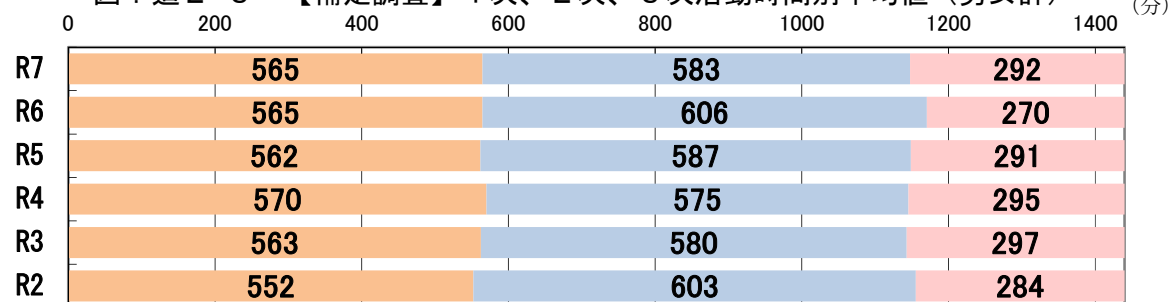
令和2年（R2）から令和7年（R7）までの補足調査結果の行動種類別平均値の経年変化を1次活動時間（睡眠、食事など生理的に必要な活動）、2次活動時間（仕事、家事など社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動）、3次活動時間（1次活動、2次活動以外の活動）別に男女計、男性、女性に分けて示しました。なお、3次活動時間は、1次、2次活動時間の残り時間から算出したものです。

図：追2-3のとおり、調査開始以来、各活動時間の変動は、1次活動で11分（548分～559分）、2次活動で17分（608分～625分）、3次活動で15分（261分～276分）の範囲内となっており、各活動全体の時間と比較すると、年による大きなばらつきは無いと推定されました。

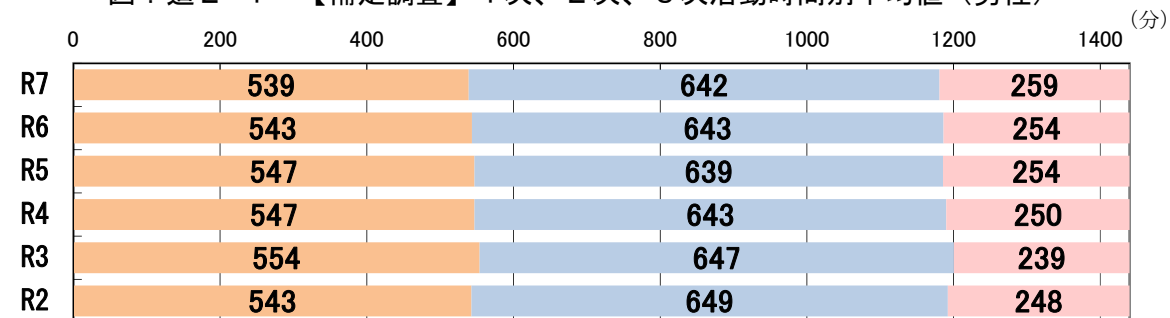
図：追2-4、追2-5を比較すると、全ての年で、男性より女性の2次活動時間が長く、1次活動時間及び3次活動時間が短くなっていました。2次活動時間はいわゆる「家事労働」を含んでおり、追2.2.1で示した通り、経年で比較しても、現状として男性に比べ、女性の家事労働時間が長く、3次活動時間が短いことが分かりました。ただ、女性の3次活動時間はわずかではありますが、年々増加傾向にあります。



図：追2-3 【補足調査】 1次、2次、3次活動時間別平均値（男女計）



図：追2-4 【補足調査】 1次、2次、3次活動時間別平均値（男性）



図：追2-5 【補足調査】 1次、2次、3次活動時間別平均値（女性）

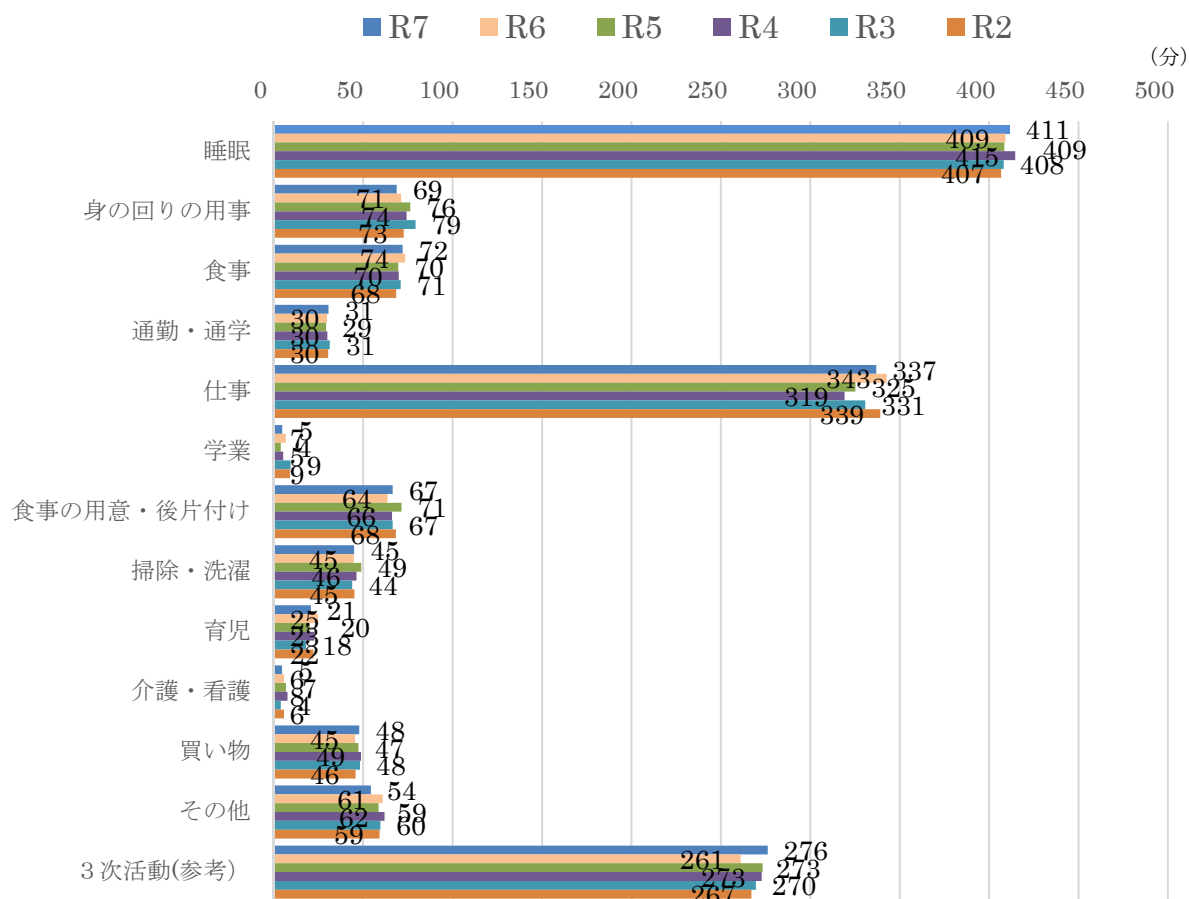
1次活動：睡眠、食事など生理的に必要な活動
 2次活動：仕事、家事など社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動
 3次活動：1次活動、2次活動以外の活動

(2) 行動種類別経年変化（男女別）

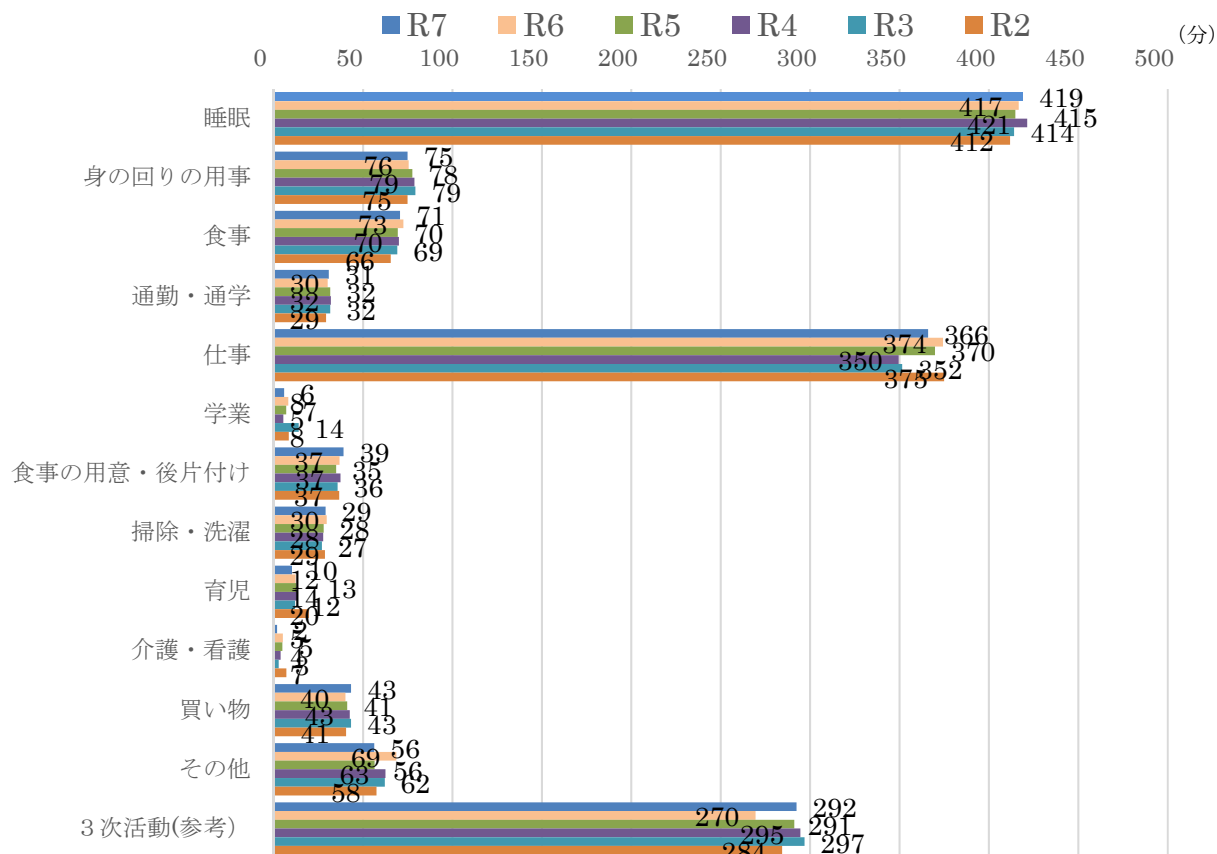
令和2年（R2）から令和7年（R7）までの補足調査結果の行動種類別平均値の経年変化を行動種類別に男女計、男性、女性に分けて示しました。

図：追2-6のとおり、睡眠、仕事、3次活動の順に長くなっており、行動種類別においても年による大きな変動は無いと推定されました。

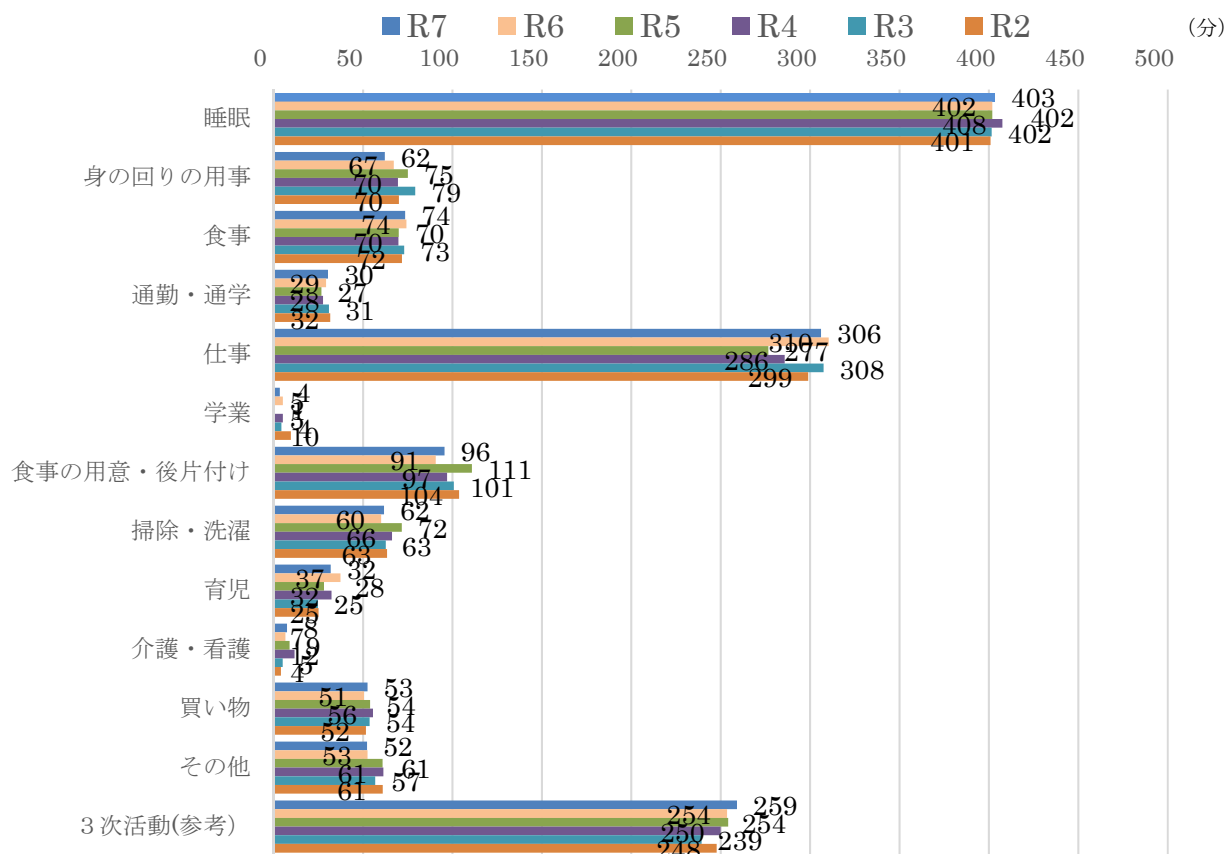
図：追2-7、追2-8を比較すると、全ての年で、男性より女性の「食事の用意・後片付け」、「掃除・洗濯」、「育児」、「買い物」などのいわゆる「家事労働」時間が長く、「睡眠」、「仕事」、「3次活動」が短くなっていました。また、女性の「3次活動」を除き、年によって大きな変動は見られませんでした。



図：追2-6 【補足調査】行動種類別平均値（男女計・該当行動無し含む）



図：追2-7 【補足調査】行動種類別平均値（男性・該当行動無し含む）



図：追2-8 【補足調査】行動種類別平均値（女性・該当行動無し含む）

2.3 生活時間（行動時間）の調査結果（該当行動有りのみの総平均時間）

ここでは、実際に該当行動を行っている回答者のみの生活時間（行動時間）を把握するため、県民意識調査・補足調査結果から、該当行動を行っていない（「0分」と回答したケース）回答者を除き、平均値を算出し、比較しました。なお、①睡眠、③食事は該当行動無しを含む総平均時間と同じ結果です。

2.3.1 県民意識調査における生活時間（行動時間）調査結果

(1) 令和7年県民意識調査における男女別、年齢層別等生活時間（行動時間）

令和7年県民意識調査結果を基に、年代を、「若年齢層」（18～39歳）、「中年年齢層」（40～69歳）、「高年齢層」（70歳以上）の3区分に分類した結果及び職業「常勤雇用者」の男女別の主な行動時間を表：追2-3に、全年齢層の男女の平均値の差を図：追2-9に、行動別の男女の平均値の差を図：追2-10～図：追2-22に示しました。なお、「3次活動」は全ての生活時間（行動時間）の残り時間から算出したものです。

表：追2-3 男女別等生活時間（分）（主な行動を抜粋）

分		1次活動		2次活動						3次活動	2次活動							
		睡眠	食事	仕事	家事労働					3次活動	回答者の家事労働			配偶者の家事労働				夫婦世帯家事労働時間比(男/女)
					食事の用意・後片付け	掃除・洗濯	育児	介護・看護	買い物		夫婦世帯計	夫婦世帯以外計	全体計	家事労働			合計	
														食事の用意・後片付け	掃除・洗濯	買い物		
合計	男性	412.3	69.7	470.5	44.2	31.3	57.9	59.2	45.8	408.8	118.0	167.2	134.7	114.7	67.0	56.7	265.2	44.5%
	女性	398.0	69.4	415.0	112.0	67.1	142	90.5	62.3	370.0	283.8	256.6	271.7	24.7	16.2	26.9	79.2	27.9%
	男女差(女-男)	-14.3	-0.3	-55.4	67.8	35.8	84.4	31.3	16.5	-38.8	165.8	89.4	137.0	-90.0	-50.8	-29.8	-186.1	-16.6%
	合計	404.8	69.4	443.7	81.0	50.9	98.4	78.7	54.9	389.8	198.8	220.3	207.3	69.8	41.7	41.9	173.1	36.4%
若年齢層	男性	391.7	65.8	490.0	36.9	33.4	104	120.0	45.8	267.4	137.0	125.9	129.3	94.5	58.2	49.1	336.1	40.8%
	女性	396.6	64.8	448.8	59.2	44.3	250	135.0	49.6	242.6	341.8	152.8	210.0	37.8	24.9	29.6	153.3	44.9%
	男女差(女-男)	4.9	-1.0	-41.1	22.3	10.9	146.0	15.0	3.8	-24.7	204.8	26.9	80.6	-56.7	-33.3	-19.5	-182.8	4.1%
	合計	394.1	65.3	470.0	48.3	39.1	176	127.5	47.7	255.3	235.6	139.1	168.6	65.8	41.5	39.6	247.0	43.3%
中年年齢層	男性	396.0	66.0	497.2	40.5	29.6	46.1	51.4	40.4	346.3	104.2	174.7	127.5	110.9	65.7	54.9	264.0	39.5%
	女性	378.5	66.1	423.4	113.6	65.9	112	91.6	58.1	313.3	283.9	261.1	275.5	20.7	14.8	24.0	68.8	24.2%
	男女差(女-男)	-17.5	0.2	-73.8	73.1	36.4	65.7	40.2	17.7	-33.0	179.6	86.4	148.0	-90.1	-50.9	-30.8	-195.2	-15.3%
	合計	386.6	66.1	460.1	80.8	49.5	77.5	75.5	50.0	329.1	197.1	223.3	206.3	63.6	39.0	38.8	162.0	31.5%
高年齢層	男性	447.4	77.1	343.5	53.0	33.6	35	67.6	55.7	570.8	134.2	198.5	148.4	123.8	69.7	60.3	254.4	52.7%
	女性	430.8	75.9	305.5	125.3	75.7	108	85.2	74.7	503.1	272.9	297.6	284.9	30.4	17.4	32.8	86.5	31.7%
	男女差(女-男)	-16.6	-1.2	-38.0	72.3	42.0	73.0	17.6	19.0	-67.7	138.7	99.1	136.5	-93.4	-52.3	-27.5	-167.9	-21.1%
	合計	438.5	76.4	329.8	92.7	57.0	68.2	75.9	66.0	534.2	195.1	270.0	222.4	81.7	46.1	47.9	180.3	43.3%
常勤雇用者	男性	388.6	64.7	512.6	36.1	28.0	54.2	21.1	34.9	265.3	95.9	137.1	111.1	105.9	62.3	52.5	265.3	36.1%
	女性	376.3	60.3	476.9	85.3	51.8	134	52.1	48.9	203.0	249.0	192.0	223.3	27.3	21.1	22.7	92.3	37.1%
	男女差(女-男)	-12.4	-4.4	-35.8	49.2	23.8	79.6	31.0	14.1	-62.2	153.1	54.9	112.1	-78.6	-41.2	-29.8	-173.0	0.9%
	合計	382.8	62.7	496.3	60.0	39.5	87.3	37.8	41.8	236.4	161.3	165.7	163.1	71.2	44.1	39.4	188.3	37.2%

※「夫婦世帯家事労働時間比（男/女）」：夫婦世帯における男性の家事労働時間÷女性の家事労働時間。100%で男女の家事労働時間が同時間。100%未満では女性の家事労働時間が長いことを表す。

(2) 全年齢層の男女差

表：追2-3、図：追2-9を見ると、全年齢層では、女性が「睡眠」で約14分、「仕事」で約55分男性より短くなっていました。

家事労働に関しては、女性が「食事の用意・後片付け」で約68分、「掃除・洗濯」で約36分、男性より長くなっていました。また、「育児」で約84分、それらを含む「家事労働（全体計）」では女性が約137分（2時間17分）男性より長く、特に夫婦世帯では約166分（2時間46分）、男性より長い結果でした。また、夫婦世帯が配偶者の家事労働について回答した結果によっても、女性が約186分（3時間10分）、男性より長くなっていました。

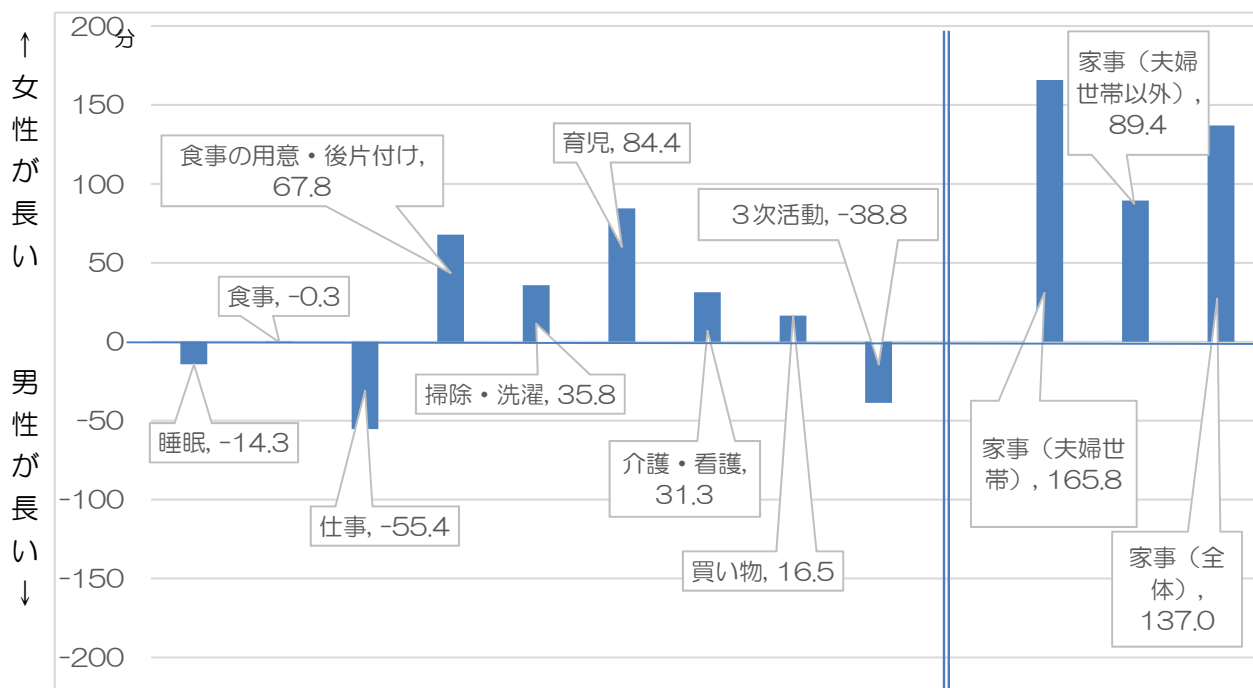
また、「3次活動」については、女性が約39分、男性より短くなっていました。

以上より、特に家事労働に関し、男性に比べ、女性が2時間以上かけており、性別により

大きなギャップが生じていることが分かりました。

また、女性は睡眠や3次活動が男性に比べて短く、女性が家事労働に時間を割いていることから、それらにかかる時間が短くなっている可能性があることが推察されました。

一方で、男性の仕事時間は女性に比べて長く、そのことが家事労働の短さに反映されているとも考えられ、男性の労働時間削減もジェンダーギャップ解消には有効であることが示唆されました。



図：追2-9 全年齢層の男女の平均値の差（分）

(3) 年齢層別の男女差

① 睡眠（図：追2-10）

若年齢層では男女差は数分程度となっていました。中年年齢層、高年齢層について、女性が約17分短い結果でした。また、「常勤雇用者」だけを見ても、女性が約12分短くなっていました。

② 食事（図：追2-11）

年齢層別でも、男女間の差は1分程度と大きな差は見られませんでした。

③ 仕事（図：追2-12）

特に中年年齢層で男性が約74分長く、若年齢層、高年齢層でも男性が約40分長くなっていました。

④ 食事の用意・後片付け（図：追2-13）

中年年齢層・高年齢層で女性が約73分長い一方、若年齢層ではその差は約22分と比較的少なくなっていました。

⑤ 掃除・洗濯（図：追2-14）

年齢が上がるほど女性の時間が長くなっており、男女差は若年齢層では約11分であったところ、高年齢層では約42分と年齢層により約30分の開きがありました。

⑥ 育児（図：追2-15）

育児に携わる年齢層は若年齢層に多いと推察されますが、その若年齢層では女性が約146分（2時間26分）長くなっていました。

⑦ 介護・看護（図：追2-16）

中年年齢層で女性が約40分長くなっており、常勤雇用者においても女性が31分長くなっていました。

⑧ 買い物（図：追2-17）

中年年齢層・高年齢層で女性が約18～19分長くなっていましたが、若年齢層ではその差は約4分と比較的小さくなっていました。

⑨ 3次活動（図：追2-18）

年齢層が上がるにつれ、男女の3次活動時間の差は大きくなっており、若年齢層では約25分、高年齢層では約68分（1時間8分）男性が長くなっていました。

⑩ 家事労働（夫婦世帯）（図：追2-19）

家事労働時間を夫婦世帯のみで見ると、女性が若年齢層で約205分（3時間25分）、最も差の小さい高年齢層でも約139分（2時間19分）長くなっており、夫婦世帯においてはどの年齢層においても大きなジェンダーギャップが生じていることが分かりました。⑥の結果より、若年齢層で女性の家事労働時間が長いのは、「育児」によるものが大きいと推察されます。

⑪ 家事労働（夫婦世帯以外）（図：追2-20）

夫婦世帯以外での家事労働では、夫婦世帯（⑩）とは異なり、年齢層が上がるにつれ、女性の家事労働時間が男性より長くなっており、若年齢層で約27分のところ、高年齢層で約99分（1時間39分）となっていました。

⑫ 家事労働（全体）（図：追2-21）

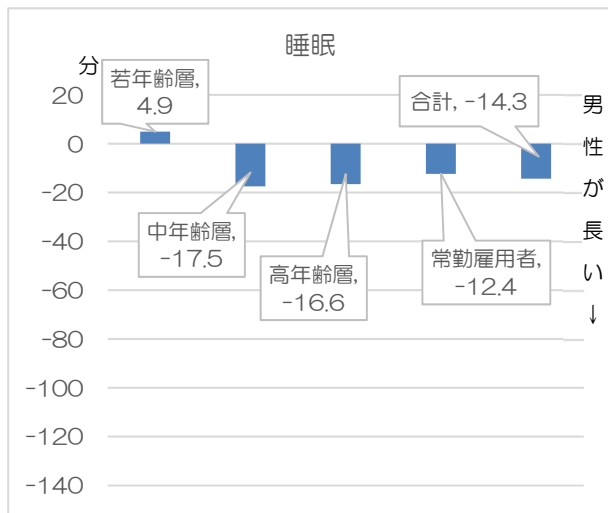
家事労働全体（⑩と⑪の合計）でも、女性の家事労働時間が男性より長くなっており、その差が最も小さい若年齢層で約81分（1時間21分）、最も大きい中年年齢層で約148分（2時間28分）となっており、家事労働全体でも、どの年齢層においても大きなジェンダーギャップが生じていることが分かりました。また、その差は若年齢層では比較的小さくなっていました。

⑬ 夫婦世帯家事労働時間比（男/女）（図：追2-22）

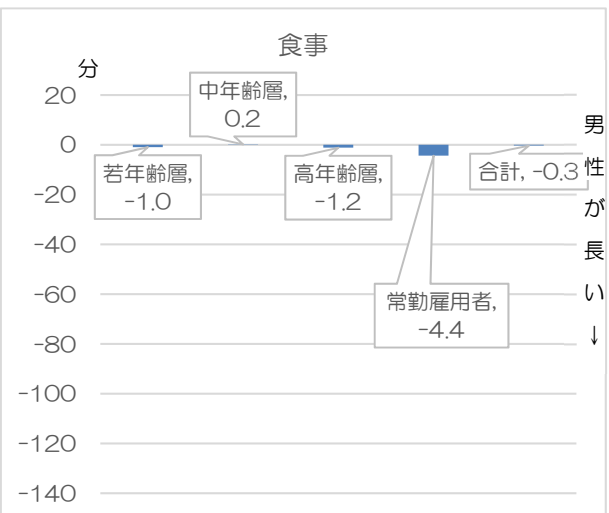
夫婦世帯における家事労働時間比率（男性の家事労働時間÷女性の家事労働時間）の平均値は約36%となっており、夫婦世帯において男性の家事労働時間は女性の4割以下となっていました。中年年齢層、高年齢層では、男性が回答者である場合と女性が回答者である場合の家事労働時間比率の差が約15～21%あり、男女間で、配偶者の家事労働時間に対する認識にギャップ（女性（妻）の視点で見れば、男性（夫）は本人に比べて全く家事を行っていないように見えている。男性（夫）の視点で見れば、比較的本人は家事を行っていると思っている。）が生じていることが示唆されました。このことは、性別によるアンコンシャス・バイアス（「家事や育児は女性がすべき」など）が関係している可能性もあります。

一方、若年齢層ではその差は約4%となっており、家事労働に対する男女間の見え方

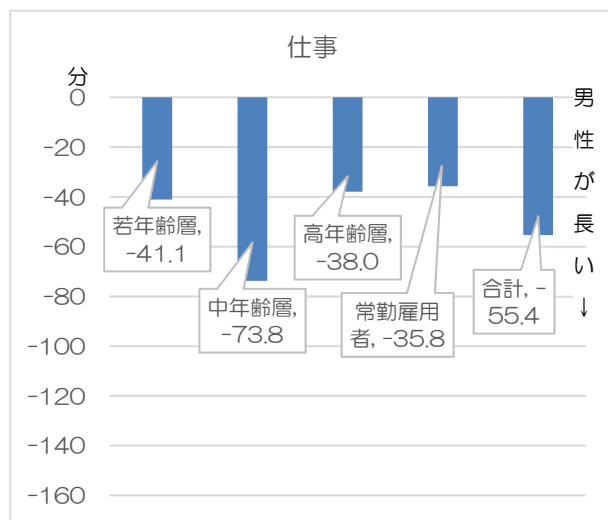
が均等になってきている可能性があることが推測されます。



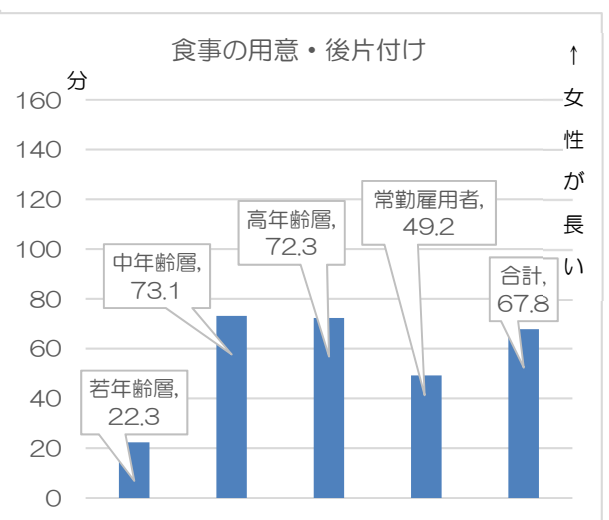
図：追2-10 「睡眠」男女の平均値の差



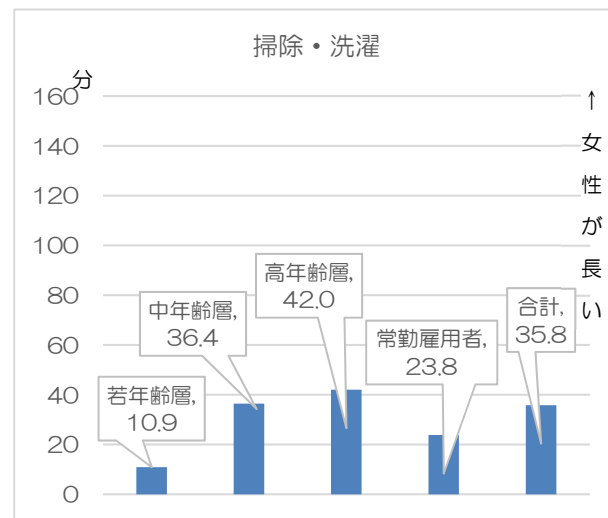
図：追2-11 「食事」男女の平均値の差



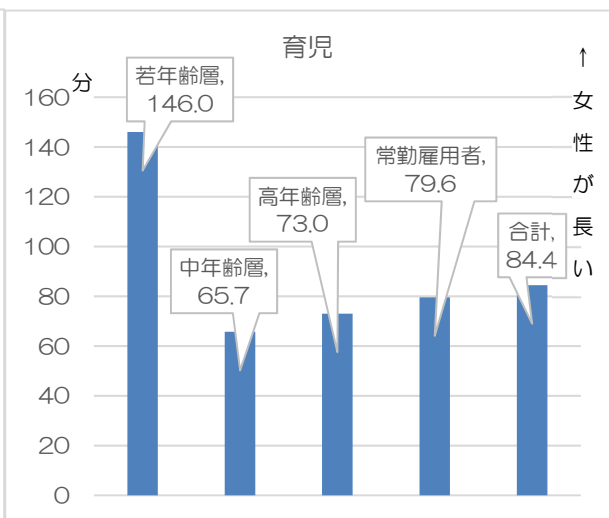
図：追2-12 「仕事」男女の平均値の差



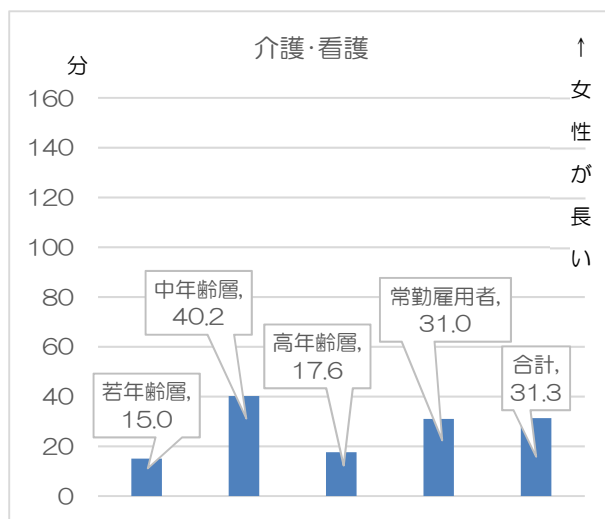
図：追2-13 「食事の用意・後片付け」男女の平均値の差



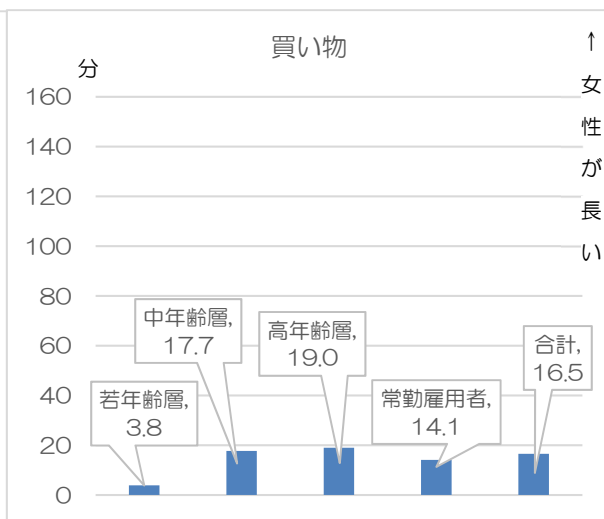
図：追2-14 「掃除・洗濯」男女の平均値の差



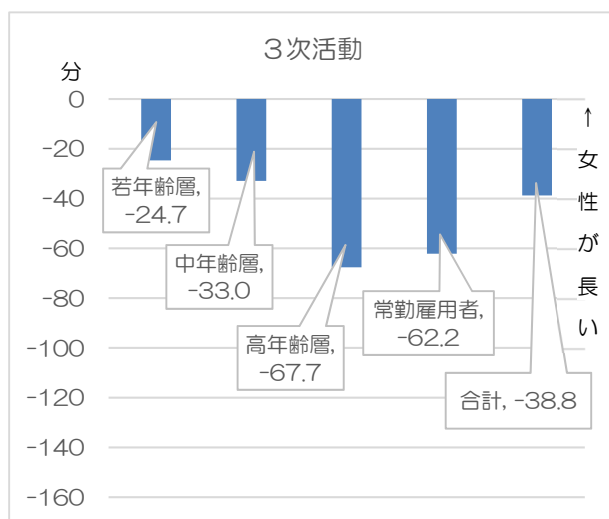
図：追2-15 「育児」男女の平均値の差



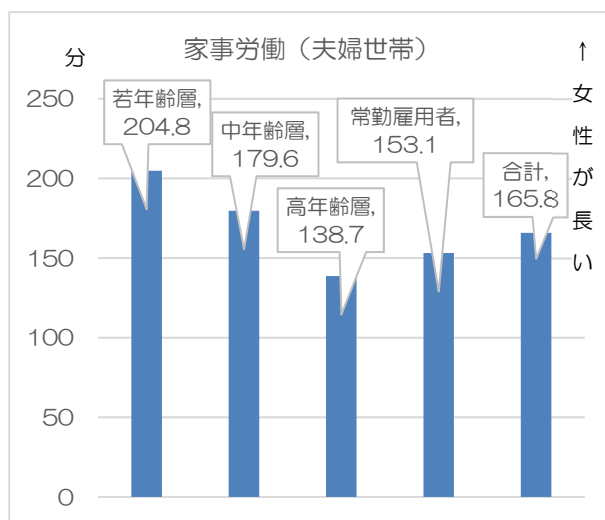
図：追2-16 「介護・看護」男女の平均値の差



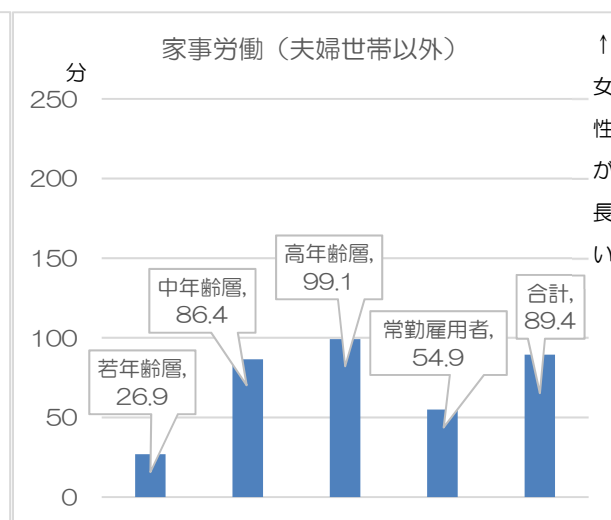
図：追2-17 「買い物」男女の平均値の差



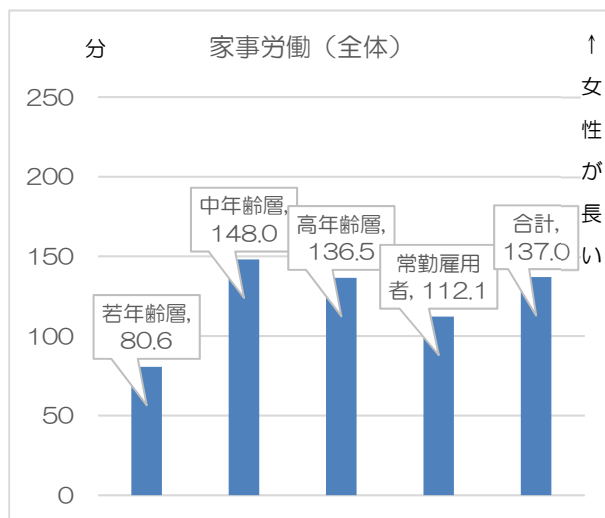
図：追2-18 「3次活動」男女の平均値の差



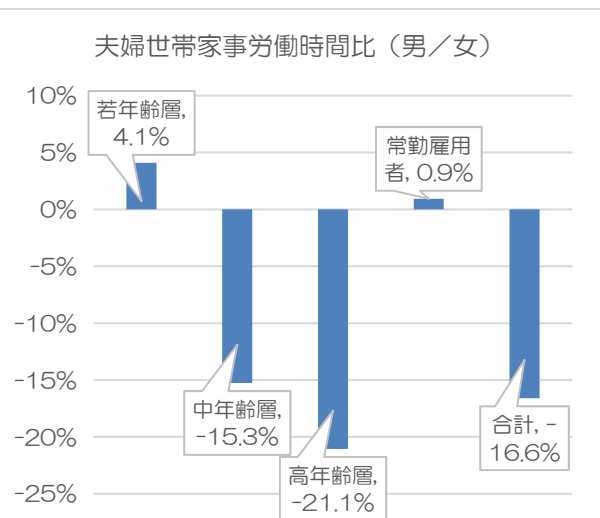
図：追2-19 「家事労働（夫婦世帯）」男女の平均値の差



図：追2-20 「家事労働（夫婦世帯以外）」男女の平均値の差



図：追2-21 「家事労働（全体）」男女の平均値の差



図：追2-22 「夫婦世帯家事労働時間比（男／女）」男女の平均値の差

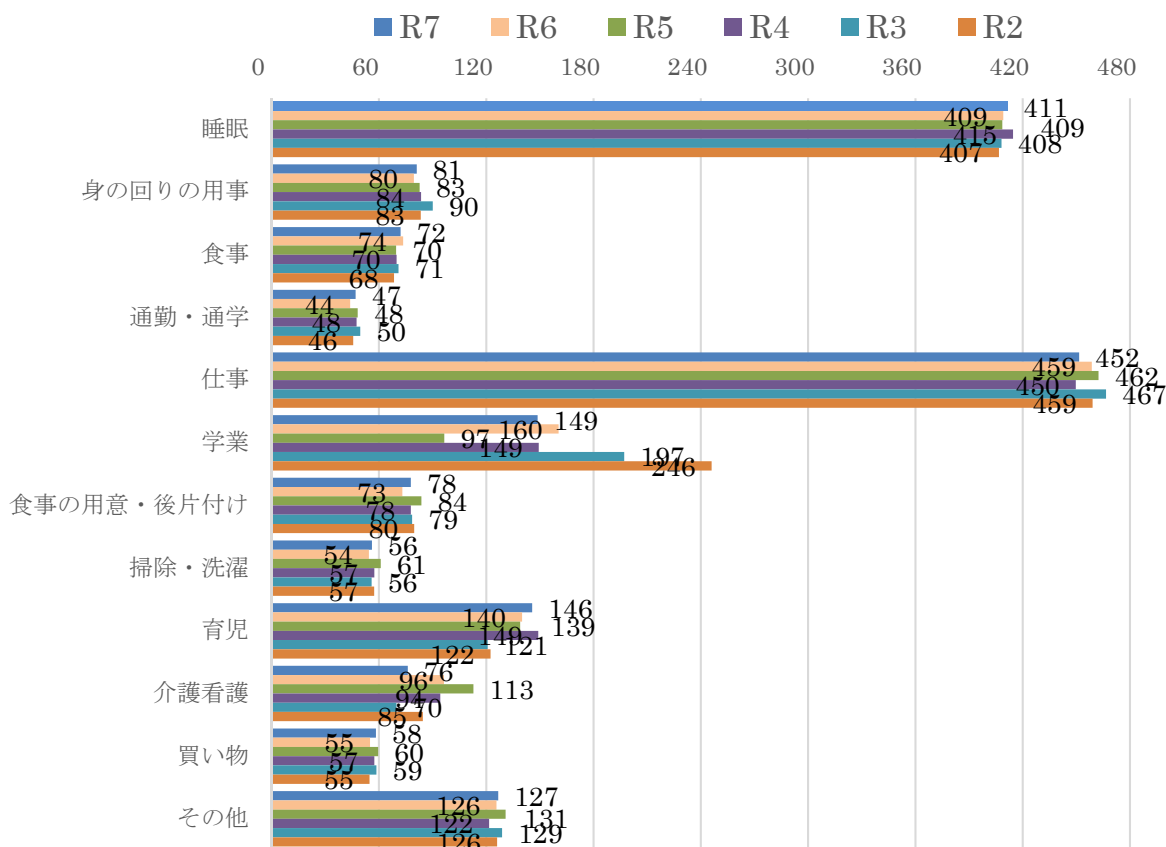
追2.3.2 補足調査における生活時間（行動時間）調査結果

(1) 行動種類別経年変化（男女別）

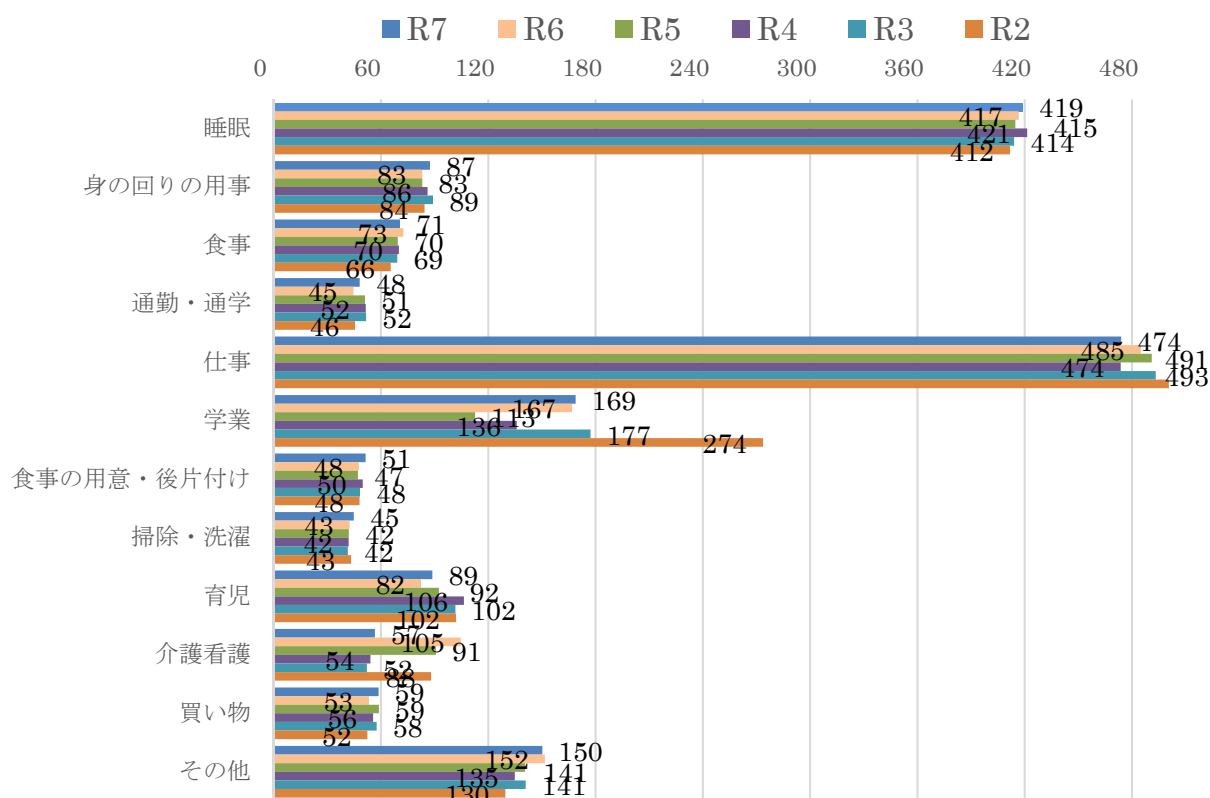
図：追2-23～図：追2-25に男女計、男女別に平均値を算出した結果を示します。

図：追2-23によると、「仕事」は約460分（約7時間40分）で最も長く、次いで「睡眠」となっていました。また、育児に従事している人の平均は約140分（約2時間20分）でした。2.2の結果と同様に、どの行動種類においても経年的に大きな変動は見られませんでした。

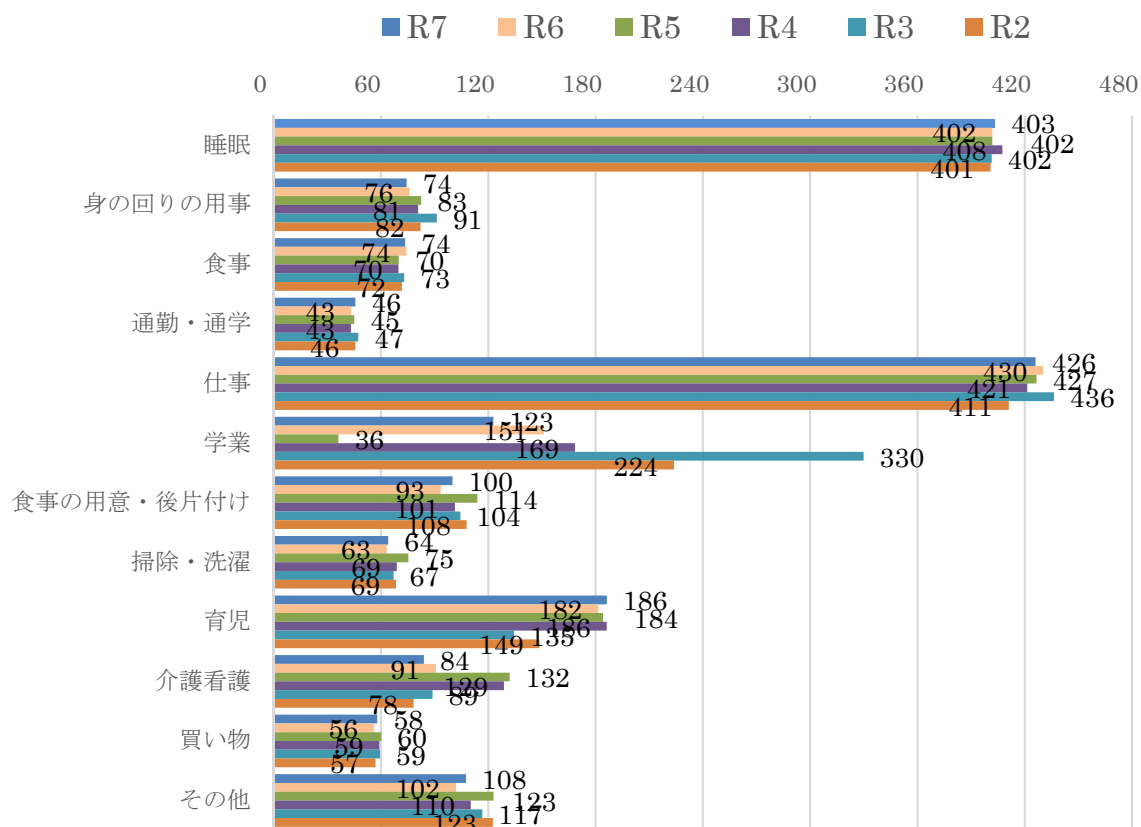
図：追2-24と図：追2-25を比較すると、全ての年で、男性と比較し、女性の「食事の用意・後片付け」、「掃除・洗濯」、「育児」、「買い物」などのいわゆる「家事労働」が長く、「睡眠」、「仕事」、「3次活動」が短くなっていました。また、育児に従事している人の平均は女性が約180分（約3時間）である一方、男性は約90分（約1時間30分）と女性の半分の時間となっていました。なお、2.2の結果と同様に、どの行動種類においても経年的に大きな変動は見られませんでした。



図：追2-23 【補足調査】行動種類別平均値（男女計・該当行動有りのみ）



図：追2-24 【補足調査】行動種類別平均値（男性・該当行動有りのみ）



図：追2-25 【補足調査】行動種類別平均値（女性・該当行動有りのみ）

(2) 行動種類別生活時間（行動時間）平均値、該当行動有の割合の経年変化（男女別）

図：追 2-26～図：追 2-34 に行動種別毎に男女別での生活時間（行動時間）平均値、該当行動有りの人の割合を示しました。

①「睡眠」（図：追 2-26）

生活時間（行動時間）平均値は、全ての年で男性より女性が短く、例えば令和 7 年では約 15 分女性が短い結果となっていました。

②「身の回りの用事」（図：追 2-27）

生活時間（行動時間）平均値は 74～91 分で、どの年も男女間に大きな差はありませんでした。

③「食事」（図：追 2-28）

生活時間（行動時間）平均値は 66～74 分で、どの年も男女間に大きな差はありませんでした。

④「通勤・通学」（図：追 2-29）

生活時間（行動時間）平均値は 43～52 分、該当行動有の割合は 59～69%で、どの年でも男女間に大きな差はありませんでした。

⑤「仕事」（図：追 2-30）

生活時間（行動時間）平均値は男性で 474～501 分、女性で 411 分～436 分とどの年も男性が約 60 分（1 時間）長くなっていました。ただし、男性は令和 2 年と比較すると近年は減少しているとも言える一方、女性は年毎の変化は見られないことから、令和 2 年には仕事時間の男女差が約 90 分であったところ、令和 7 年は約 50 分と少なくなっていました。

その一方、該当行動有の割合は男性が 71～77%、女性が 65～73%とどの年でも男女間に大きな差はありませんでした。

⑥「食事の用意・片付け」（図：追 2-31）

生活時間（行動時間）平均値は男性で 47～51 分、女性で 93 分～114 分とどの年も女性が約 50 分長くなっていました。

また、該当行動有の割合も男性が 74～77%となっていたのに対し、女性が 96～97%とどの年もほぼ全ての女性が食事の用意・片付けを行っている一方、男性の約 1 / 4 は食事の用意・片付けを行っていないという結果となりました。

⑦「掃除・洗濯」（図：追 2-32）

生活時間（行動時間）平均値は男性で 42～45 分、女性で 63 分～75 分とどの年も女性が約 20 分長くなっていました。

また、該当行動有の割合も男性が 65～70%となっていたのに対し、女性が 93～96%と、「食事の用意・片付け」と同様に、「掃除・洗濯」においても、どの年もほぼ全ての女性が行っている一方、男性の約 1 / 3 は掃除・洗濯を行っていないという結果となりました。

⑧「育児」（図：追 2-33）

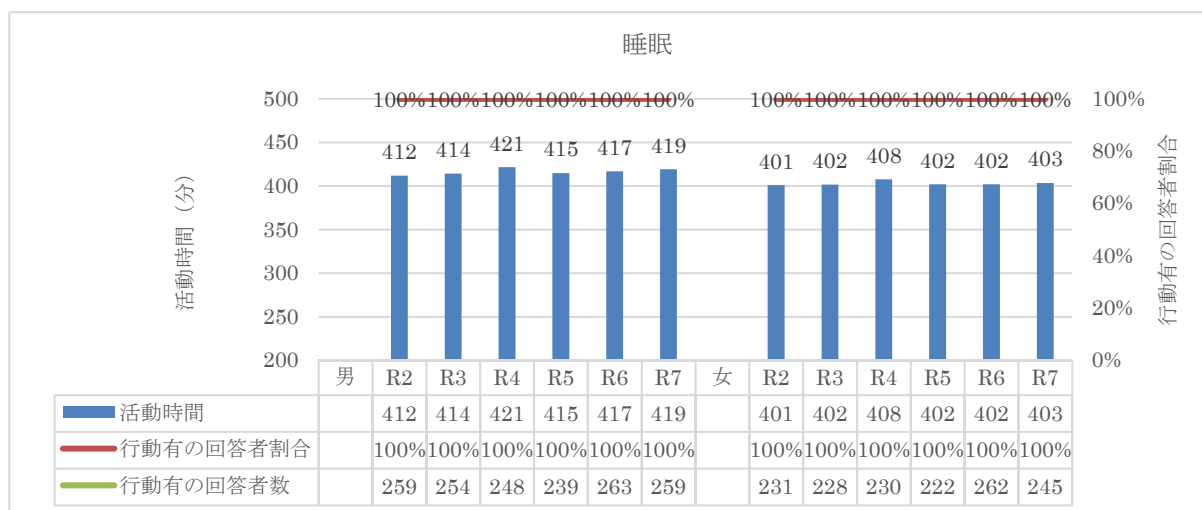
生活時間（行動時間）平均値は男性で 82～106 分、女性で 135 分～186 分と女性が約 50 分～100 分長くなっていました。

その一方、該当行動有の割合は男性が 12～19%、女性が 15～21%と大きな差はありませんでした。育児については、男性も女性も行っている一方、従事時間は女性が長くなっていることが分かりました。

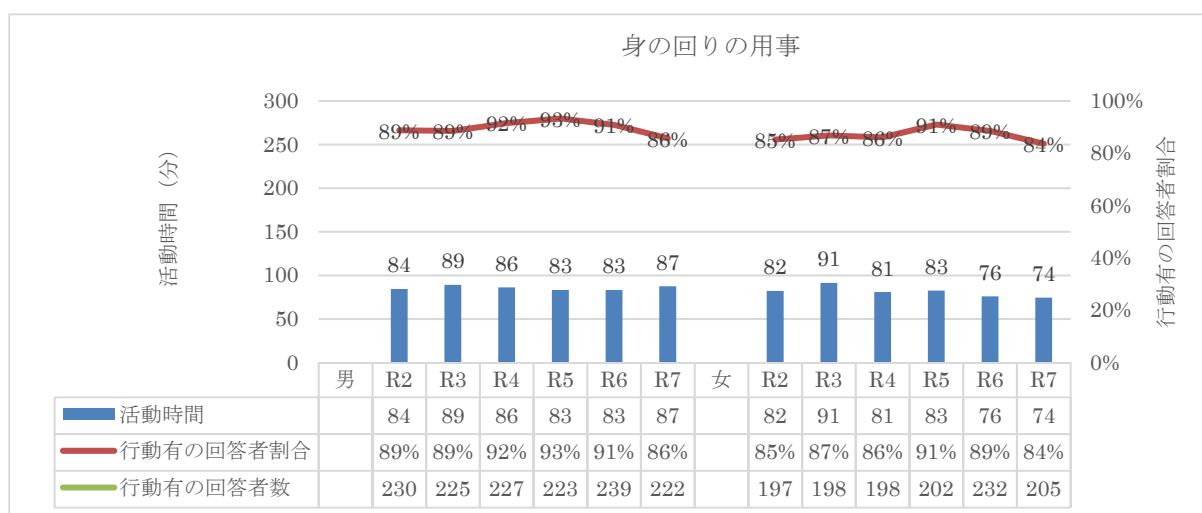
⑨「買い物」（図：追 2-34）

生活時間（行動時間）平均値は男性で 52～59 分、女性で 56 分～60 分とどの年でも男女間に大きな差はありませんでした。

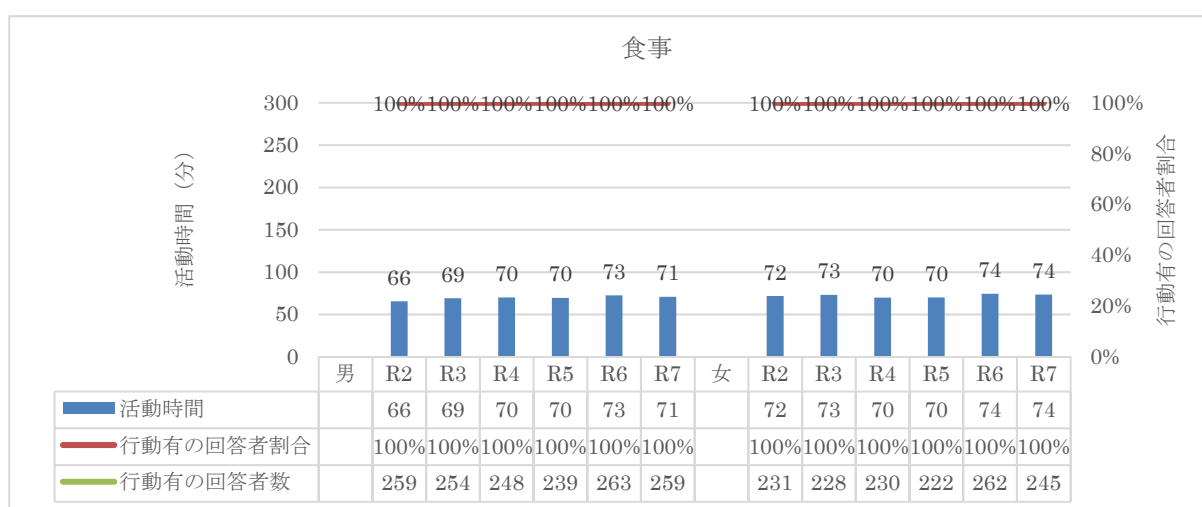
その一方、該当行動有の割合は男性が 70%～77%、女性が 90%～94%と女性が高い割合となっていました。



図：追2-26 「睡眠」男女の平均値と該当者割合

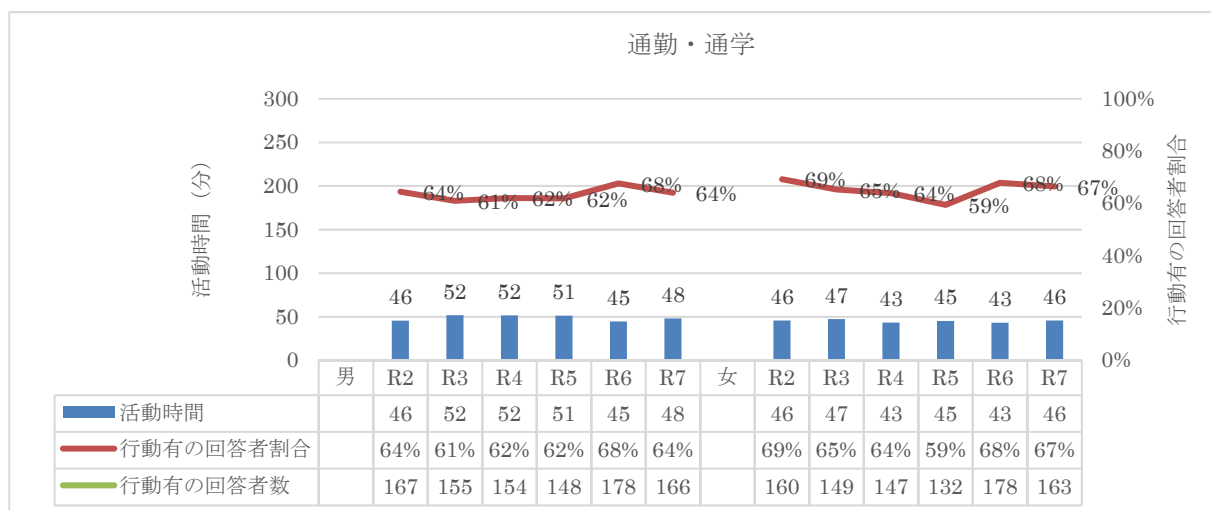


図：追2-27 「身の回りの用事」男女の平均値と該当者割合

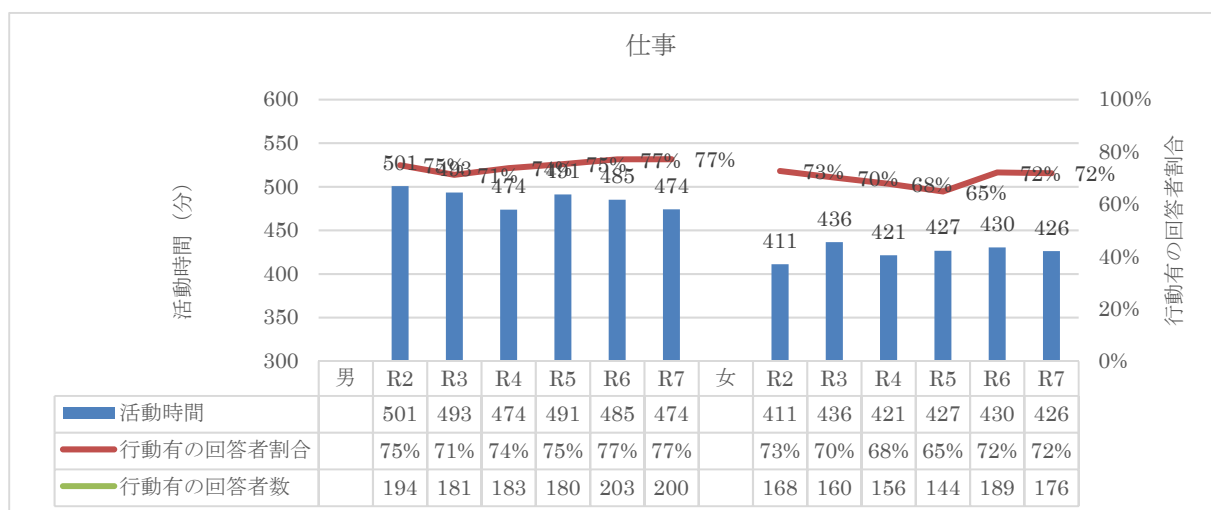


図：追2-28 「食事」男女の平均値と該当者割合

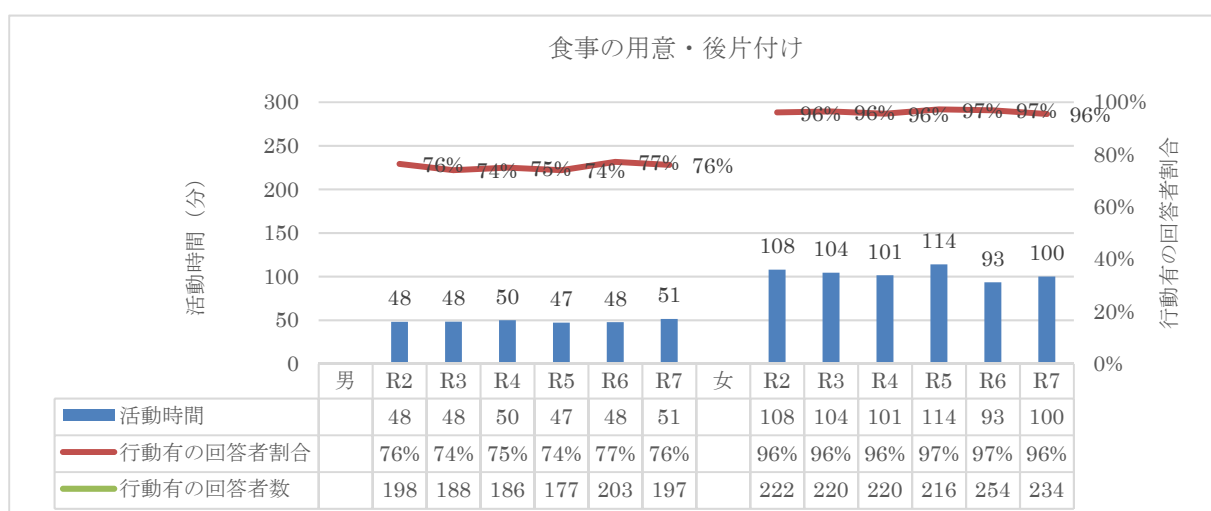
		R2	R3	R4	R5	R6	R7		R2	R3	R4	R5	R6	R7
回答者総数	男	259	254	248	239	263	259	女	231	228	230	222	262	245



図：追2-29 「通勤・通学」男女の平均値と該当者割合

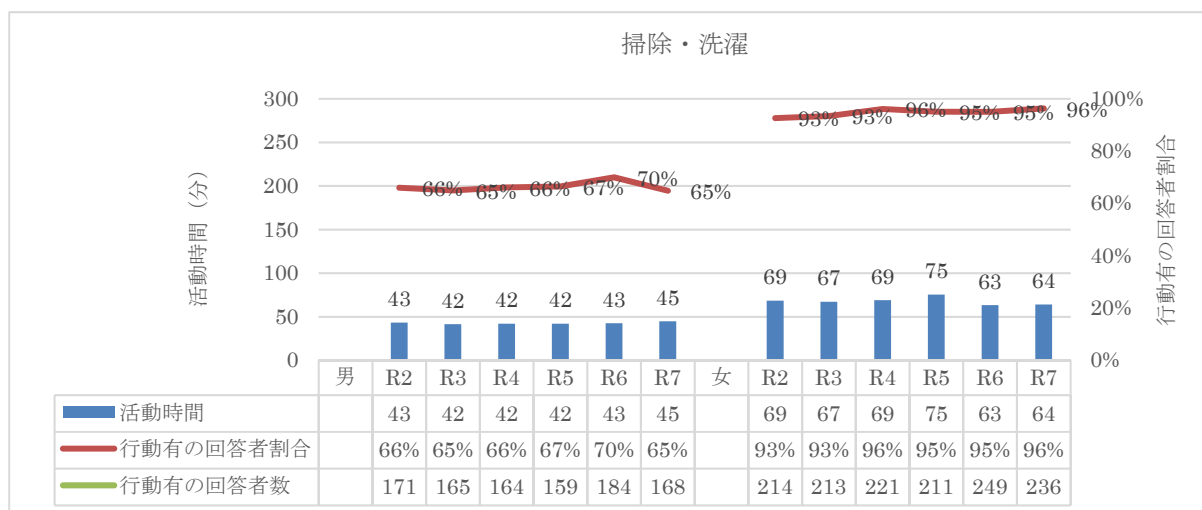


図：追2-30 「仕事」男女の平均値と該当者割合

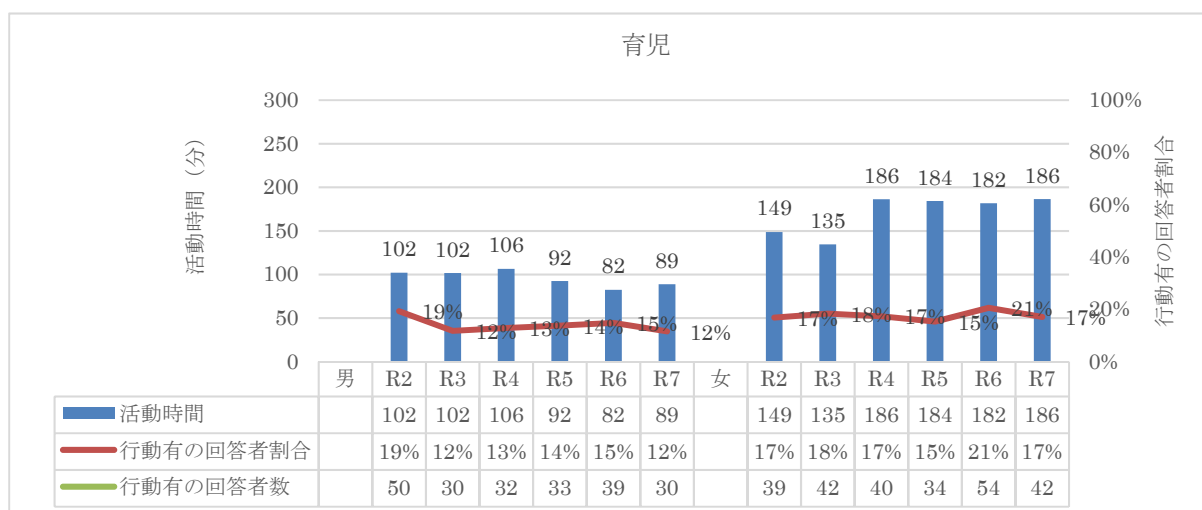


図：追2-31 「食事の用意・後片付け」男女の平均値と該当者割合

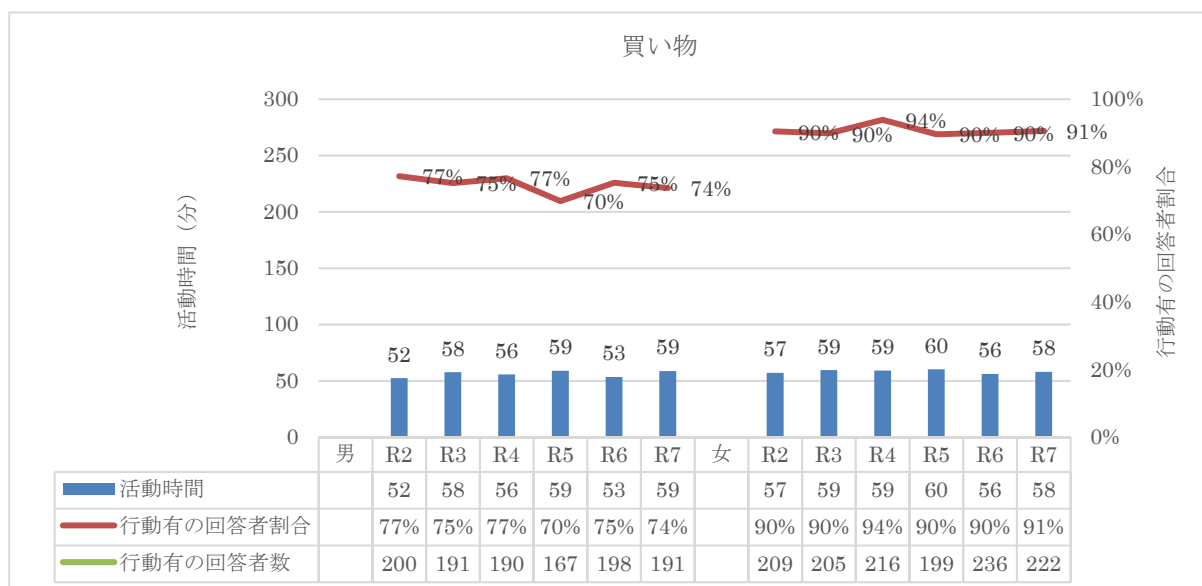
		R2	R3	R4	R5	R6	R7		R2	R3	R4	R5	R6	R7
回答者総数	男	259	254	248	239	263	259	女	231	228	230	222	262	245



図：追2-32 「掃除・洗濯」男女の平均値と該当者割合



図：追2-33 「育児」男女の平均値と該当者割合



図：追2-34 「買い物」男女の平均値と該当者割合

		R2	R3	R4	R5	R6	R7		R2	R3	R4	R5	R6	R7
回答者総数	男	259	254	248	239	263	259	女	231	228	230	222	262	245

追3 生活時間（行動時間）と主観的幸福感・生活満足度との関係性について

追3.1 目的

令和7年県民意識調査結果を用いて、種類別の生活時間（行動時間）と主観的幸福感及び生活満足度との関係性を性別、年齢層別、就業形態に着目して明らかにします。

注：本分析は岩手県立大学宮古短期大学部和川央准教授（岩手県総合計画審議会県民の幸福感に関する分析部会 副部会長）の助言により行いました。

追3.2 分析内容

追3.2.1 分析データ

(1) 対象調査及び対象データ

令和7年県民意識調査の回答数3,159のうち、表：追2-2に示す条件に当てはまる回答者に係る回答及び無回答を除いています。

(2) 対象設問

① 目的変数

- ア 主観的幸福感（問3-2 1～5の段階評価）
- イ 生活満足度（問1 1～5の段階評価）

② 説明変数

ア 生活時間（行動時間）（問5）

- ・ 「家事労働」は、「食事の用意・後片付け」、「掃除・洗濯」、「育児」、「介護・看護」、「買い物」、「その他」の総和。さらに、「家事労働」は「全体」のほか、「夫婦世帯」、「夫婦世帯以外」、夫婦世帯の「配偶者」についても分析。（詳細は表：追2-1参照）
- ・ 該当生活時間（行動時間）が無い（0分）の場合にはサンプルから除外。ただし、夫婦世帯の「家事労働」（「食事の用意・後片付け」、「掃除・洗濯」、「育児」、「介護・看護」、「買い物」、「その他」）については、回答者または配偶者の生活時間（行動時間）がある場合で、相手の回答が「0分」または生活時間（行動時間）が無い場合には、相手の回答を「0分」としてサンプルに組み入れ
- ・ 「3次活動」は、24時間（1,440分）と全ての活動の時間の総和の差

イ 個人属性（問8）

（ア） 性別

（イ） 年齢（「18～39歳」（以下「若年齢層」という。）、「40～69歳」（以下「中年年齢層」という。）、「70歳以上」（以下「高年齢層」という。）の3区分に分類）

（ウ） 職業（「常勤雇用者」）

追3.2.2 分析方法

生活時間（行動時間）と主観的幸福感及び生活満足度の関係性を分かりやすく把握するため、表：追3-1のとおり、1、2を統合しネガティブ、4、5を統合してポジティブとし、ネガティブとポジティブ間の平均値の差が統計的に偶然ではないか、2群間の平均値の差の検定（t検定）を行い、評価しました。また、サンプル数が50未満の場合には、結果の信頼性が低いと判断し、評価の対象としませんでした。

表：追3-1 平均値の差の検定（t検定）に用いたポジティブ・ネガティブの設定

		主観的幸福感	生活満足度
ネガティブ	1	感じない	不満な状態にある
	2	あまり感じない	やや不満な状態にある
	3	どちらともいえない	どちらともいえない
ポジティブ	4	やや感じる	やや満足できる状態にある
	5	感じる	満足できる状態にある

追3.3 分析結果

追3.3.1 主観的幸福感のネガティブとポジティブ間の平均値間の差の検定（t検定）

主観的幸福感について追3.2.2の検定を行い、5%水準で有意に生活時間（行動時間）の差が確認できた行動とその属性について、表：追3-2に示しました。

1次活動では「睡眠」が、「中年年齢層」、「常勤雇用者」を中心とした属性で時間が長いほど幸福感が高い結果となりました。また、「食事」では、「女性」の「中年年齢層」、「高年齢層」で時間が長いほど幸福感が高くなりました。

2次活動について、「仕事」では、「男性」の「若年齢層」では時間が長いほど幸福感が高くなりましたが、「女性」では逆に、特に「常勤雇用者」で時間が短いほど幸福感が高くなりました。

2次活動のうち家事労働では「掃除・洗濯」、「買い物」、また、それらを含む「家事労働（全体）」について、主に「男性」で時間が短い方が幸福感が高い結果となりました。「買い物」については「女性」の「中年年齢層」でも同様の結果となりました。また、「介護・看護」でも、「中年年齢層」において同様に時間が短いほど幸福感が高くなりました。

夫婦世帯に着目すると、「男性」の特に「高年齢層」において、自身の家事労働時間が短い方が幸福感が高く、「男性」の「中年年齢層」については、「配偶者の食事の用意・後片付け」や「配偶者の掃除・洗濯」が長い方が幸福感が高くなっていました。一方で、「女性」については、「家事労働」時間と幸福感との間に有意な関係は確認されませんでした。

「常勤雇用者」については、男性の夫婦世帯以外においても「家事労働」が短いほど幸福感が高くなっていました。

表：追3-2 主観的幸福感のネガティブ・ポジティブ間の平均値の差の検定（t検定）結果

	有意な差が確認された属性	1次活動			2次活動							3次活動	2次活動					
		睡眠	身の回りの用事	食事	通勤・通学	仕事	学業	家事労働				3次活動	回答者の家事労働			配偶者の家事労働		
								食事の用意・後片付け	掃除・洗濯	介護・看護	買い物		夫婦世帯計	夫婦世帯以外計	全体計	食事の用意・後片付け	掃除・洗濯	買い物
男女計	全年齢層	++++		++++				-***	-**	-***			-**		-**			
	若年齢層							-***	-**	-***					-**			
	中年年齢層	++++	-**	++++				-***	-**	-***					-**		+++	
	高年齢層										-**							
	常勤雇用者	++++						-***	-**	-***							+++	+++
男性	全年齢層	++++	-**					-***	-***	-***			-**	-**	-***			
	若年齢層					+++		-***	-***	-**					-**			
	中年年齢層	+++	-***					-***	-***	-**					-***	+++	+++	+++
	高年齢層							-***	-**	-***			-**		-***			
	常勤雇用者	++++						-***	-***	-***	-**			-**	-***		+++	+++
女性	全年齢層	++++		++++		-**		++++										
	若年齢層																	
	中年年齢層	++++		+++							-**							
	高年齢層		++++	++++								-**						
	常勤雇用者					-**												

(凡例)	有意確率	時間が長いほど幸福感が高い	時間が短いほど幸福感が高い
	1%未満	++++	-***
	5%未満	+++	-**

※ 有意確率が低い方が、統計的に偶然ではなく、意味のある結果と判断されます。

追3.3.2 生活満足度のネガティブとポジティブ間の平均値間の差の検定（t検定）

生活満足度について追3.2.2の検定を行い、5%水準で有意に生活時間（行動時間）の差が確認できた行動とその属性について、表：追3-3に示しました。

1次活動では「睡眠」が、「女性」の「中年年齢層」、「常勤雇用者」を中心とした属性で時間が長いほど生活満足度が高い結果となりました。主観的幸福感では関係性のあった「男性」については、生活満足度では有意な関係は確認できませんでした。また、「食事」では、主観的幸福感の高かった「女性」の「高年齢層」に加え、男性の「中年年齢層」、「高年齢層」でも時間が長いほど生活満足度が高くなりました。

2次活動について、「仕事」では、主観的幸福感と同様に、「男性」の「若年齢層」で時間が長いほど生活満足度が高くなりましたが、「女性」は、主観的幸福感とは異なり、生活満足度では有意な差は確認できませんでした。

2次活動のうち家事労働では「掃除・洗濯」、「買い物」、また、それらを含む「家事労働（全体）」について、主観的幸福感では、主に男性のみが時間が短いほど主観的幸福感が高い結果となっていました。生活満足度では、男女問わず、主に「中年年齢層」で時間が短い方が生活満足度が高くなっていました。また、「男性」の「若年齢層」では、「食事の用意・後片付け」についても時間が短いほど生活満足度が高くなっていました。「介護・看護」については、生活満足度との有意な関係は見られませんでした。

夫婦世帯に着目すると、「女性」の「中年年齢層」で「家事労働」が短いほど生活満足度が高くなっていました。また、主観的幸福感においては、特に「男性」の「中年年齢層」において、「配偶者の家事労働」との関係が見られましたが、生活満足度については、特に関係性は見られませんでした。

「常勤雇用者」については、「介護・看護」を含む「家事労働」が短いほど生活満足度が高くなっていました。

表：追3-3 生活満足度のネガティブ・ポジティブ間の平均値の差の検定（t検定）結果

有意な差が確認された属性	1次活動			2次活動							3次活動	2次活動					
	睡眠	身の回りの用事	食事	通勤・通学	仕事	学業	家事労働				3次活動	回答者の家事労働			配偶者の家事労働		
							食事の用意・後片付け	掃除・洗濯	介護・看護	買い物		夫婦世帯計	夫婦世帯以外計	全体計	食事の用意・後片付け	掃除・洗濯	買い物
男女計	全年齢層	****		****	***		****			***							
	若年齢層																
	中年年齢層	****	***	****				***		***				***			
	高年齢層		****								***						
	常勤雇用者	****						***	***	***				***			
男性	全年齢層							***		***				***			
	若年齢層			***	***		***										
	中年年齢層			***				***		***				***			
	高年齢層																
	常勤雇用者						***	***						***			
女性	全年齢層	****		***						***							
	若年齢層																
	中年年齢層	****								***		***		***			
	高年齢層			***							***				***		
	常勤雇用者	****								***							

(凡例)	有意確率	時間が長いほど幸福感が高い	時間が短いほど幸福感が高い
	1%未満	****	***
	5%未満	***	***

※ 有意確率が低い方が、統計的に偶然ではなく、意味のある結果と判断されます。

追4 まとめ

追4.1 主観的幸福感と生活満足度との関係について

主観的幸福感と生活満足度の経年変化（H28～R7）について、男女別・年齢別に相関分析を行いました。その結果、主観的幸福感と生活満足度については、強く関係しているとまでは言えないと考えられました。

このことから、県民が主観的幸福感と生活満足度を回答するに当たり想起する具体事象がそれぞれ異なるものとして捉えている可能性が高いことが示唆されました。

追4.2 生活時間（行動時間）について

県民意識調査結果及び補足調査において、生活時間（行動時間）を調査しました。主な結果は以下のとおりでした。

- ・ 全ての行動について、年毎に大きな変動は無い。
- ・ 「睡眠」は男性より女性が約14分短い。
- ・ 「食事」は男女間で大きな差は無い。
- ・ 「仕事」は、男性の特に中年年齢層の従事時間が女性に比べ約70分長い、従事者割合では男女間で大きな差は無い。
- ・ 「食事の用意・後片付け」は、特に女性の中年年齢層、高年齢層で男性に比べ従事時間が約73分長い、若年齢層ではその差は小さくなる。また、男性の約1/4は「食事の用意・後片付け」に従事していない。
- ・ 「掃除・洗濯」は、特に女性の高年齢層で男性に比べ、従事時間が約42分長い、若年齢層ではその差は少なくなる。また、男性の約1/3は「掃除・洗濯」に従事していない。
- ・ 「育児」は特に女性の若年齢層で従事時間が男性より約146分長い、従事する人の割合に男女間の大きな差は無い。
- ・ 「買い物」は、女性の従事時間が長い、若年齢層ではその差は少なくなる。従事する人の割合も女性が高い。
- ・ 「3次活動」は全ての年齢層で男性に比べ、女性が短く、特に高年齢層で約68分短い。
- ・ 「家事労働（夫婦世帯）」は、男性に比べ、特に女性の若年齢層で約205分（3時間25分）長い。
- ・ 「家事労働（全体）」は差が最も小さい若年齢層でも女性が男性に比べ、約81分長い。
- ・ 「夫婦世帯の家事労働時間比」を見ると、女性に比べ、男性の家事労働従事時間は4割以下。また、配偶者の「家事労働」時間に対する、男女の捉え方に差がある可能性がある。

以上から、特に「食事の用意・後片付け」や「掃除・洗濯」をはじめとする家事労働において、男女間で大きな差、いわゆるジェンダーギャップが生じていることが分かりました。これには、以下の要因が影響している可能性があります。

- ・ 男性、女性ともに無意識のうちに、「家事は女性の仕事」と考えてしまう、いわゆる「アンコンシャスバイアス」により、家事労働の役割分担の固定化がされていること。
- ・ 男性の長時間労働により、男性が家事労働にかかる時間が短くなっていること。

また、「睡眠」、「3次活動」においても、男性に比べ女性の生活時間が少なくなっており、ここにもジェンダーギャップが生じています。これは、女性は、たとえ常勤雇用者であっても男性に比べ、家事労働に多くの時間をかけているため、その分、「睡眠」、「3次

活動」の時間が短くなっている可能性があると考えられます。

追4.3 生活時間（行動時間）と主観的幸福感・生活満足度との関係性について

令和7年県民意識調査結果に基づき、主観的幸福感・生活満足度と生活時間（行動時間）との関係性について分析を行いました。主な結果は以下のとおりでした。

ただし、本結果は令和7年の調査結果に基づき分析した結果であり、主観的幸福感・生活満足度と生活時間（行動時間）との関係性については、引き続き検討が必要です。

追4.3.1 主観的幸福感について

- ・ 「睡眠」について、男女問わず主に「中年齢層」で時間が長いほど幸福感が高い。
- ・ 「仕事」について、「女性」の「常勤雇用者」で時間が短い方が幸福感が高い。
- ・ 「家事労働」について、主に「男性」で時間が短い方が幸福感が高い一方、「女性」では時間と幸福感との間に有意な関係は確認できない。
- ・ 配偶者の「家事労働」について、「男性」の「中年齢層」や「常勤雇用者」で時間が長い方が幸福感が高いのに対し、「女性」については、有意な関係は確認できない。

以上より、男女間で家事労働時間と幸福感の関係に大きな差が生じていることも明らかになりました。このことは、男性、女性ともに無意識のうちに「家事は女性の仕事」と考えてしまう、いわゆる「アンコンシャスバイアス」が影響している可能性があります。

追4.3.2 生活満足度について

- ・ 「睡眠」は、「女性」の主に「中年齢層」、「常勤雇用者」で時間が長いほど生活満足度が高い。「男性」は時間と生活満足度の間に有意な関係は確認できない。
- ・ 「家事労働」では男女問わず、主に「中年齢層」で時間が短い方が生活満足度が高い。また、配偶者の「家事労働」では、男女問わず時間と生活満足度の関係は確認できない。
- ・ 「常勤雇用者」では、「介護・看護」を含む「家事労働」が短いほど生活満足度が高い。

追4.4 まとめ

県民意識調査・補足調査の生活時間に係る分析結果から、男女間で特に家事労働時間について、大きなギャップが生じていることや、男女間で家事労働時間と幸福感等の関係性に差があること、夫婦世帯では、男女間で配偶者の家事労働時間に対する認識にギャップが生じていることが示されました。このことは、男性、女性ともに無意識のうちに「家事は女性の仕事」と考えてしまう、いわゆる「アンコンシャスバイアス」が影響している可能性があります。

このことから、特に、女性に偏っている家事労働の分担を見直すことや、男性の長時間労働を是正すること、更に、男女間でお互いの家事労働に理解を深め、アンコンシャスバイアスを解消していくことなどにより、主観的幸福感・生活満足度の向上が図られる可能性が示唆されました。

男女間のギャップの解消を始めとする幸福度の向上につながる効果的な取組を検討する手がかりとして、今後も様々な分析を行っていくとともに、今回の分析結果が取組の推進に活用されることを期待しています。

【補足資料】

補 1 計画開始年（平成 31 年）と比較した分野別実感について

補 2 広域振興圏別の主観的幸福感及び分野別実感の推移

補 3 「子育て」に関する分野別実感の推移

〔補足資料 1〕 計画開始年（平成 31 年）と比較した分野別実感について

幸福に関する実感について、長期的な視点で維持・向上を図るという観点から、計画開始年の調査結果との比較した結果や長期的な変動要因について分析しました。

分析方針等については、「4. 1 分析方針等について」と同様としています。

補 1. 1 補足調査結果の概要（計画開始年と比較）

平成 31 年県民意識調査回答時と令和 7 年補足調査回答時を比較し、実感に変動があった人の回答を「実感が上昇した人の回答」、「実感が横ばいの人の回答」、「実感が低下した人の回答」の 3 つに区分し、「分野別実感に対する回答理由と関連が強い要因」として選択された項目を回答が多い順に整理した結果、表：補 1-1 のとおりとなりました。

表：補 1-1 【補足調査】分野別実感的回答理由と関連が強い要因として選択された主な項目〔平成 31 年から令和 7 年の実感の変化別〕

分 野	実感が上昇した人の回答	実感が横ばいの人の回答	実感が低下した人の回答
1-① からだの健康	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 健康診断の結果 ウ こころの健康状態	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 健康診断の結果 ウ 持病の有無	ア 持病の有無 イ 健康診断の結果 ウ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) エ 歩行などの行動の制限の有無 オ こころの健康状態
1-② こころの健康	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 仕事・学業におけるストレスの有無 ウ 充実した余暇の有無(仕事・学業以外の趣味など)	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無 ウ からだの健康状態	ア 仕事・学業におけるストレスの有無 イ からだの健康状態 ウ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス)
2 余暇の充実	ア 自由な時間の確保 イ 家族との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会	ア 自由な時間の確保 イ 家族との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会 エ 知人・友人との交流	ア 自由な時間の確保 イ 趣味・娯楽活動の場所・機会 ウ 知人・友人との交流
3 家族関係	ア 同居の有無 イ 困った時に助け合えるかどうか ウ 会話の頻度(多い・少ない)	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 同居の有無 ウ 困った時に助け合えるかどうか	ア 家族が自分にもたらす精神的影響(貢献・負担) イ 会話の頻度(多い・少ない) ウ 困った時に助け合えるかどうか
4 子育て	ア 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など) イ 子どもを預けられる場所の有無(保育所など) ウ 子どもに関する医療機関(小児科など)の充実	ア 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など) イ 自分の就業状況(労働時間、休養・休暇など) ウ 子どもを預けられる場所の有無(保育所など)	ア 子どもの教育にかかる費用 イ 子育てにかかる費用 ウ わからない(身近に子どもがいない、子育てに関わっていないなど)
5 子どもの教育	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 学力を育む教育内容 ウ 健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 学力を育む教育内容 ウ 健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 学力を育む教育内容 ウ 学校の選択の幅(高校、大学など)
6 住まいの快適さ	ア 居住形態(持ち家か借家か) イ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など) ウ 住宅の延床面積(広さ・狭さ)	ア 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など) イ 居住形態(持ち家か借家か) ウ 住宅の延床面積(広さ・狭さ)	ア 住宅の機能性(バリアフリー、室内の温熱環境など) イ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など) ウ 住宅の安全性(耐震、耐火、浸水対策など)
7 地域社会とのつながり	ア その地域で過ごした年数 イ 隣近所との面識・交流 ウ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など)	ア その地域で過ごした年数 イ 隣近所との面識・交流 ウ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など)	ア 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など) イ 隣近所との面識・交流 ウ 地域の行事への参加(お祭り、スポーツ大会など)
8 地域の安全	ア 犯罪の発生状況 イ 自然災害の発生状況 ウ 交通事故の発生状況	ア 犯罪の発生状況 イ 自然災害の発生状況 ウ 交通事故の発生状況	ア 野生鳥獣の出没状況や被害の発生状況(シカ、イノシシ、クマなど) イ 自然災害の発生状況 ウ 犯罪の発生状況
9 仕事のやりがい	ア 現在の職種・業務の内容 イ 職場の人間関係 ウ 現在の収入・給料の額	ア 現在の職種・業務の内容 イ 現在の収入・給料の額 ウ 職場の人間関係	ア 現在の収入・給料の額 イ 現在の職種・業務の内容 ウ 将来の収入・給料の額の見込み
10 必要な収入や所得	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 自分の支出額	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 生活の程度	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 自分の支出額 ウ 家族の収入・所得額(年金を含む)
11 歴史・文化への誇り	ア 地域のお祭り・伝統芸能 イ その地域で過ごした年数 ウ 郷土の歴史的偉人	ア 地域のお祭り・伝統芸能 イ その地域で過ごした年数 ウ 郷土の歴史的偉人	ア その地域で過ごした年数 イ 誇りを感じる歴史や文化が見当たらない ウ 地域のお祭り・伝統芸能
12 自然のゆたかさ	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 空気の状態(綺麗・汚い) ウ 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い)	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 空気の状態(綺麗・汚い) ウ 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い)	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 公園・緑地、水辺などの周辺環境 ウ 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い)

補 1. 2 県民意識調査から得られた分野別実感の平均値の状況

県民意識調査結果から得られた分野別実感の平均値の状況について、平成 31 年（計画開始年）と令和 7 年を比較し、統計的に有意な差が確認された属性を表：補 1-2 に示しています。

表：補 1-2 【県民意識調査】属性別平均値一覧表（平成 31 年調査と令和 7 年調査の差）

		主観的 幸福感	心身の健康	余暇の充実	家族関係	子育て
令和7年調査 平均値		3.50	3.21	3.00	3.91	3.07
平成 31 年 調 査 と 令 和 7 年 調 査 の 差	県計(3,159)	0.08	0.20	-	0.07	-
	性別	男性(1,395)	0.11	0.23	-	-
		女性(1,718)	-	0.18	-	0.09
		その他(参考)(6)				
	年代	18～19歳(参考)(26)	0.80	-	-	-
		20～29歳(128)	-	0.39	0.39	0.33
		30～39歳(234)	-	0.41	0.30	0.23
		40～49歳(384)	-	-	-	-
		50～59歳(544)	-	0.22	-	-
		60～69歳(708)	-	0.18	-	-
		70歳以上(1,094)	-	0.14	▲ 0.27	-
	職業	自営業主(256)	0.23	-	-	-
		家族従業員(参考)(87)	-	-	-	-
		会社役員・団体役員(193)	-	-	0.28	-
		常用雇用者(870)	0.12	0.26	-	-
		臨時雇用者(363)	-	0.17	-	-
		学生+その他(139)	-	-	-	-
		専業主婦・主夫(312)	-	-	-	0.30
		60歳未満の無職(参考)(64)	-	0.55	-	-
		60歳以上の無職(661)	-	0.20	▲ 0.24	-
	世帯 構成	ひとり暮らし(405)	-	-	-	-
		夫婦のみ(663)	0.14	0.18	▲ 0.16	-
		2世代世帯(1,233)	-	0.20	-	0.12
		3世代世帯(405)	-	-	-	-
		その他(161)	-	0.34	-	-
	子ども の数	1人(355)	-	0.25	-	-
		2人(1,121)	-	-	▲ 0.14	-
		3人(587)	-	0.26	-	-
		4人以上(136)	-	0.42	-	0.34
		子どもはいない(682)	0.18	0.28	-	0.14
	居住 年数	10年未満(参考)(83)	0.34	-	-	-
		10～20年未満(109)	-	-	-	-
		20年以上(2,768)	0.08	0.20	-	0.07
	広域 振興 圏	県央(920)	-	0.11	▲ 0.12	-
		県南(959)	0.19	0.34	-	0.11
		沿岸(732)	-	0.14	-	-
		県北(548)	-	0.17	-	0.19

表；補１－２【県民意識調査】属性別平均値一覧表（平成３１年調査と令和７年調査の差）（続き）

■:上昇、□:横ばい、■:低下

子どもの教育	住まいの快適さ	地域社会とのつながり	地域の安全	仕事のやりがい	必要な収入や所得	歴史・文化への誇り	自然のゆたかさ
3.15	3.30	3.12	3.62	3.41	2.50	3.27	4.23
-	-	▲ 0.23	▲ 0.20	▲ 0.12	▲ 0.15	-	-
-	-	▲ 0.23	▲ 0.16	▲ 0.10	▲ 0.15	-	-
-	-	▲ 0.22	▲ 0.23	▲ 0.13	▲ 0.13	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	0.33
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	▲ 0.33	▲ 0.23	-	▲ 0.33	-	-
-	-	▲ 0.23	▲ 0.24	-	-	-	-
0.14	-	▲ 0.31	▲ 0.29	▲ 0.14	▲ 0.14	-	-
-	▲ 0.11	▲ 0.25	▲ 0.22	▲ 0.29	▲ 0.20	▲ 0.15	-
-	-	-	▲ 0.25	-	-	-	-
-	-	-	▲ 0.40	-	-	-	0.26
-	-	▲ 0.30	-	-	-	-	-
-	-	▲ 0.29	▲ 0.21	-	▲ 0.19	-	0.09
-	-	▲ 0.25	▲ 0.16	-	▲ 0.22	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
0.20	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	▲ 0.28	▲ 0.26	▲ 0.18	-	-	-
-	-	▲ 0.29	▲ 0.15	-	-	-	-
-	-	▲ 0.21	▲ 0.26	-	▲ 0.15	-	-
-	-	▲ 0.23	▲ 0.15	▲ 0.14	▲ 0.17	-	-
-	▲ 0.21	▲ 0.33	▲ 0.27	▲ 0.22	▲ 0.29	▲ 0.19	-
-	-	▲ 0.31	▲ 0.25	-	-	-	-
-	-	▲ 0.26	▲ 0.19	-	▲ 0.23	-	-
-	▲ 0.10	▲ 0.26	▲ 0.22	▲ 0.11	▲ 0.17	-	-
-	-	▲ 0.23	▲ 0.21	▲ 0.30	▲ 0.21	-	-
-	-	-	▲ 0.32	-	-	-	-
0.16	-	▲ 0.22	-	-	-	0.13	0.17
0.38	0.53	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	▲ 0.07	▲ 0.25	▲ 0.22	▲ 0.12	▲ 0.17	-	-
-	-	▲ 0.22	▲ 0.20	▲ 0.13	▲ 0.29	0.12	0.09
-	-	▲ 0.26	▲ 0.13	-	-	-	-
-	-	▲ 0.23	▲ 0.26	▲ 0.21	▲ 0.23	▲ 0.14	-
-	-	▲ 0.21	▲ 0.25	-	-	-	-

補 1. 3 主観的幸福感について

① 主観的幸福感の推移（P 7 図 3-1 及び図 3-2 参照）

計画開始年と比較すると 0.08 点上昇しており、t 検定を行った結果、計画開始年に比べて有意に上昇していることから、主観的幸福感、計画開始年に比べて上昇していると考えられます。また、「幸福だと感じている」又は「やや幸福だと感じている」と回答した人の割合は、計画開始年より 4.7 ポイントの上昇、計画開始年より 1.7 ポイントの低下でした。

② 属性別の状況（令和 7 年と計画開始年調査結果との比較）

有意に変化した属性は表：補 1-3 のとおりでした。

表：補 1-3 主観的幸福感において計画開始年と比較し有意な変化があった属性と計画開始年差

属性		H31	R 7	R7-H31※ (対計画開始年差)
県計		3.43	3.50	0.08
性別	男性	3.33	3.44	0.11
職業	自営業主	3.41	3.63	0.23
	常用雇用者	3.38	3.50	0.12
世帯構成	夫婦のみ	3.60	3.74	0.14
子どもの数	子どもはいない	3.12	3.30	0.18
居住年数	20 年以上	3.42	3.50	0.08
広域振興圏	県南広域振興圏	3.31	3.50	0.19

※ 四捨五入の関係から R7 と H31 の差が一致しない場合がある

補 1. 4 計画開始年（平成 31 年）と比較した分野別実感について

令和 7 年県民意識調査結果から得られた分野別実感の平均値は表：補 1-4 のとおりであり、計画開始年（平成 31 年）と比較し、2 分野で上昇、6 分野で横ばい、4 分野で低下となりました。

表：補 1-4 【県民意識調査】分野別実感の時系列分析結果（計画開始年比較）

政策分野	分野別実感	平均値の推移						
		H31 (計画開始年)	R2	R3	R4	R5	R6	R7 (当該年)
Ⅰ健康・余暇	(1) 心身の健康	3.00	3.15	3.07	3.20	3.18	3.22	3.21
			↑ (0.15)	↑ (0.07)	↑ (0.20)	↑ (0.17)	↑ (0.22)	↑ (0.20)
	(2) 余暇の充実	3.05	2.93	2.97	2.96	2.93	3.02	3.00
			↓ (Δ0.12)	↓ (Δ0.08)	↓ (Δ0.09)	↓ (Δ0.11)	- (Δ0.02)	- (Δ0.04)
Ⅱ家族・子育て	(3) 家族関係	3.84	3.86	3.85	3.91	3.91	3.88	3.91
			- (0.02)	- (0.01)	↑ (0.07)	↑ (0.07)	- (0.04)	↑ (0.07)
	(4) 子育て	3.08	3.07	3.16	3.16	3.06	3.03	3.07
			- (Δ0.01)	↑ (0.08)	↑ (0.08)	- (Δ0.02)	- (Δ0.05)	- (Δ0.01)
Ⅲ教育	(5) 子どもの教育	3.10	3.09	3.20	3.18	3.14	3.13	3.15
			- (Δ0.01)	↑ (0.10)	↑ (0.08)	- (0.03)	- (0.03)	- (0.05)
Ⅳ居住環境・コミュニティ	(6) 住まいの快適さ	3.34	3.29	3.31	3.31	3.29	3.31	3.30
			- (Δ0.05)	- (Δ0.02)	- (Δ0.03)	- (Δ0.04)	- (Δ0.02)	- (Δ0.04)
	(7) 地域社会とのつながり	3.35	3.16	3.09	3.10	3.07	3.10	3.12
			↓ (Δ0.19)	↓ (Δ0.25)	↓ (Δ0.25)	↓ (Δ0.28)	↓ (Δ0.25)	↓ (Δ0.23)
Ⅴ安全	(8) 地域の安全	3.82	3.66	3.76	3.72	3.69	3.66	3.62
			↓ (Δ0.16)	↓ (Δ0.06)	↓ (Δ0.10)	↓ (Δ0.13)	↓ (Δ0.16)	↓ (Δ0.20)
Ⅵ仕事・収入	(9) 仕事のやりがい	3.54	3.38	3.49	3.41	3.39	3.39	3.41
			↓ (Δ0.16)	- (Δ0.05)	↓ (Δ0.12)	↓ (Δ0.15)	↓ (Δ0.15)	↓ (Δ0.12)
	(10) 必要な収入や所得	2.65	2.56	2.77	2.57	2.53	2.48	2.50
			↓ (Δ0.09)	↑ (0.13)	↓ (Δ0.07)	↓ (Δ0.11)	↓ (Δ0.16)	↓ (Δ0.15)
Ⅶ歴史・文化	(11) 歴史・文化への誇り	3.28	3.25	3.18	3.27	3.23	3.28	3.27
			- (Δ0.03)	↓ (Δ0.11)	- (Δ0.01)	↓ (Δ0.06)	- (0.00)	- (Δ0.02)
Ⅷ自然環境	(12) 自然のゆたかさ	4.21	4.16	4.18	4.23	4.21	4.21	4.23
			↓ (Δ0.05)	- (0.03)	- (0.02)	- (0.00)	- (0.00)	- (0.02)

(注) ①() は計画開始年調査との差。

なお、四捨五入の関係から年平均値とその差の合計が一致しない場合があります。

② t 検定の結果、5%水準で有意な変化が確認できた分野は、網掛けと矢印で表記しています。

補 1. 4. 1 実感が上昇した分野

(1) 「心身の健康」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.21 点であり、計画開始年より 0.20 点上昇しています。

t 検定を行った結果、計画開始年に比べて有意に上昇していることから、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

イ 属性別の状況

計画開始年と比較して有意に変化した属性は表：補 1-5 のとおりでした。

表：補 1-5 「心身の健康」の実感において計画開始年と比較して有意な変化があった属性と計画開始年差

属性		H31	R7	R7-H31※ (対計画開始年差)
県計		3.00	3.21	0.20
性別	男性	2.97	3.20	0.23
	女性	3.03	3.21	0.18
年代	20～29 歳	3.04	3.44	0.39
	30～39 歳	2.80	3.21	0.41
	50～59 歳	2.90	3.12	0.22
	60～69 歳	3.05	3.22	0.18
	70 歳以上	3.13	3.27	0.14
職業	常用雇用者	2.91	3.17	0.26
	臨時雇用者	3.04	3.22	0.17
	60 歳以上の無職	2.90	3.11	0.20
世帯構成	夫婦のみ	2.96	3.30	0.18
	2 世代世帯	3.00	3.20	0.20
	その他	2.82	3.16	0.34
子どもの数	1 人	3.13	3.20	0.25
	3 人	3.02	3.28	0.26
	4 人以上	2.83	3.25	0.42
	子どもはいない	2.82	3.10	0.28
居住年数	20 年以上	2.98	3.18	0.20
広域振興圏	県央広域振興圏	3.09	3.21	0.11
	県南広域振興圏	2.92	3.27	0.34
	沿岸広域振興圏	3.03	3.17	0.14
	県北広域振興圏	2.96	3.13	0.17

※ 四捨五入の関係から R7 と H31 の差が一致しない場合があります。以降の各分野においても同様であるもの。

② 計画開始年と比較して分野別実感が上昇した要因

- ・ 県民意識調査の結果、計画開始年と比較して実感が有意に上昇した属性は、表：補 1-5 のとおりであり、このうち上昇幅が大きい傾向にある属性は、性別「男性」、年代「20～29 歳」、「30～39 歳」及び「50～59 歳」、職業「常用雇用者」、「60 歳以上の無職」、世帯構成「2 世代世帯」、その他世帯、子どもの数「1 人」、「3 人」、「4 人

以上」及び「子どもはいない」、居住年数「20 年以上」、広域振興圏「県南広域振興圏」でした。

- ・ 実感の変動については、「心身の健康」で把握していますが、補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」については、「からだの健康」と「こころの健康」に分けて調査を行っており、計画開始年と比較して実感が上昇した人が選択した上位 3 位の項目は、以下のとおりでした。

【からだの健康】

- a 睡眠・休養・仕事・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）
- b 健康診断の結果
- c こころの健康状態

【こころの健康】

- a 睡眠・休養・仕事・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）
- b 仕事・学業におけるストレスの有無
- c 充実した余暇の有無

- ・ 補足調査結果において、計画開始年と比較して実感が低下した人と実感が上昇した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」のうち、上位 3 項目以外を比較すると、「からだの健康」については「食事の制限の有無」において、また、「こころの健康」については「仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無」、「相談相手の有無」において、それぞれ実感が上昇した人の回答が多い一方で、実感が低下した人で回答が少ないことから、当該理由も実感が上昇した要因の一つと推測されます。

- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が計画開始年と比較して上昇した要因は、「からだの健康」が「睡眠・休養・仕事・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）が良かったこと」、「健康診断の結果が良かったこと」、「こころの健康状態が良かったこと」及び「食事の制限がないこと」であると推測されます（表：補 1-6）。

また、「こころの健康」が「睡眠・休養・仕事・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）が良かったこと」、「仕事・学業におけるストレスが無かったこと」、「充実した余暇（仕事・学業以外の趣味など）があること」、「からだの健康状態が良かったこと」、「仕事・学業以外の私生活におけるストレスが無かったこと」及び「相談相手がいること」であると推測されます（表：補 1-7）。

表：補 1-6 「心身の健康（からだの健康）」の実感が計画開始年と比較して低下した要因とその具体的な内容

実感が低下した要因	具体的な内容（補足調査の自由記載）
睡眠・休養・仕事・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）が良かったこと	休日のんびりする時間を作って体を休めている、やりがいのある仕事と趣味が両立している など
健康診断の結果が良かったこと	持病なく健康である。食事内容や量に気をつけている、再検査項目が無いため など
こころの健康状態が良かったこと	仕事も私生活もストレスなく過す事が出来ている、家庭の問題が解決した など
食事の制限がないこと	～を食べてはいけないという事が無い など

表：補 1-7 「心身の健康（こころの健康）」の実感が計画開始年と比較して低下した要因とその具体的な内容

実感が低下した要因	具体的な内容（補足調査の自由記載）
睡眠・休養・仕事・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）が良かったこと	バランスのとれた生活をしている、自分に適した仕事に従事している など
仕事・学業におけるストレスが無かったこと	仕事でストレスがあまりない など
充実した余暇（仕事・学業以外の趣味など）があること	推し活が楽しい、休日登山など楽しめる など
仕事・学業以外の私生活におけるストレスが無かったこと	問題が解決したためストレスが少なくなった など
相談相手がいること	つらいことがあっても、いつも回りに支えてくれる人がある など

(2) 「家族関係」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.91 点であり、計画開始年より 0.07 点上昇しています。

t 検定を行った結果、計画開始年に比べて有意に上昇していることから、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

イ 属性別の状況

計画開始年と比較して有意に変化した属性は表：補 1-8 のとおりでした。

表：補 1-8 「家族関係」の実感において計画開始年と比較して有意な変化があった属性と計画開始年差

属性		H31	R7	R7-H31 (対計画開始年差)
県計		3.84	3.91	0.07
性別	女性	3.84	3.93	0.09
年代	20～29 歳	4.05	4.38	0.33
	30～39 歳	3.83	4.06	0.23
職業	会社役員・団体役員	3.73	4.01	0.28
世帯構成	2 世代世帯	3.82	3.94	0.12
子どもの数	4 人以上	3.69	4.03	0.34
	子どもはいない	3.73	3.88	0.14
居住年数	20 年以上	3.83	3.90	0.07
広域振興圏	県南広域振興圏	3.74	3.86	0.11
	県北広域振興圏	3.74	3.93	0.19

② 計画開始年と比較して分野別実感が上昇した要因

- ・ 県民意識調査の結果、計画開始年と比較して実感が有意に上昇した属性は、表：補 1-8 のとおりであり、このうち上昇幅が大きい傾向にある属性は、年代「20～29 歳」、「30～39 歳」、職業「会社役員・団体役員」、子どもの数「4 人以上」でした。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、計画開始年と比較して実感が上昇した人が選択した上位 3 位の項目は、以下のとお

りでした。

- a 同居の有無
- b 困った時に助け合えるかどうか
- c 会話の頻度(多い・少ない)
- ・ 補足調査結果において、計画開始年と比較して実感が低下した人と実感が上昇した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」のうち、上位3項目以外を比較すると、「家事負担のバランス」において、それぞれ実感が上昇した人の回答が多い一方で、実感が低下した人で回答が少ないことから、当該理由も実感が上昇した要因の一つと推測されます。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が計画開始年と比較して上昇した要因は、「同居がうまくいっていること」、「困った時に助け合えていること」、「会話の頻度が多いこと」及び「家事負担のバランス」であると推測されます(表：補1-9)。

表：補1-9 「家族関係」の実感が計画開始年と比較して低下した要因とその具体的な内容

実感が低下した要因	具体的な内容(補足調査の自由記載)
同居がうまくいっていること	ひとりでいる時より助けてもらえるであろう安心感、近くにいることで理解が深まる など
困った時に助け合えていること	困った時に相談できるから、困った時は直ぐ来てくれる など
会話の頻度が多いこと	帰宅が遅くなることが多いが家族との会話はストレスの発散になる など
家事負担のバランス	夫婦間で役割分担ができている など

補1.4.2 実感が低下した分野

(1) 「地域社会とのつながり」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は3.12点であり、計画開始年より0.23点低下しています。

t検定を行った結果、計画開始年に比べて有意に低下していることから、当該分野の実感は低下していると考えられます。

イ 属性別の状況

計画開始年と比較して有意に変化した属性は表：補1-10のとおりでした。

表：補1-10 「地域社会とのつながり」の実感において計画開始年と比較して有意な変化があった属性と計画開始年差

属性		H31	R7	R7-H31 (対計画開始年差)
県計		3.35	3.12	▲ 0.23
性別	男性	3.37	3.14	▲ 0.23
	女性	3.33	3.10	▲ 0.22
年代	40～49歳	3.22	2.89	▲ 0.33
	50～59歳	3.30	3.07	▲ 0.23
	60～69歳	3.37	3.06	▲ 0.31
	70歳以上	3.59	3.34	▲ 0.25

表：補 1-10 「地域社会のつながり」の実感において計画開始年と比較して有意な変化があった属性と計画開始年差（続き）

属性		H31	R7	R7-H31 (対計画開始年差)
職業	会社役員・団体役員	3.38	3.08	▲ 0.30
	常用雇用者	3.22	2.93	▲ 0.29
	臨時雇用者	3.27	3.01	▲ 0.25
	60 歳以上の無職	3.48	3.20	▲ 0.28
世帯構成	ひとり暮らし	3.15	2.86	▲ 0.29
	夫婦のみ	3.39	3.18	▲ 0.21
	2 世代世帯	3.34	3.12	▲ 0.23
	3 世代世帯	3.53	3.20	▲ 0.33
	その他	3.26	2.95	▲ 0.31
子どもの数	1 人	3.31	3.06	▲ 0.26
	2 人	3.45	3.18	▲ 0.26
	3 人	3.47	3.24	▲ 0.23
	子どもはいない	3.08	2.86	▲ 0.22
居住年数	20 年以上	3.37	3.12	▲ 0.25
広域振興圏	県央広域振興圏	3.24	3.02	▲ 0.22
	県南広域振興圏	3.40	3.13	▲ 0.26
	沿岸広域振興圏	3.43	3.21	▲ 0.23
	県北広域振興圏	3.33	3.12	▲ 0.21

② 計画開始年と比較して分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、計画開始年と比較して実感が有意に低下した属性は、表：補 1-10 のとおり全体的に低下幅が大きく、特に、年代では「40～49 歳」、「60～69 歳」、職業では「会社役員・団体役員」、世帯構成では「3 世代世帯」の低下幅が大きい傾向にあります。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、計画開始年と比較して実感が低下した人が選択した上位 3 位の項目は、以下のとおりでした。
 - 自治会・町内会活動への参加（環境美化、防犯・防災活動など）
 - 隣近所との面識・交流
 - 地域の行事への参加（お祭り、スポーツ大会など）
- ・ 補足調査結果において、計画開始年と比較して実感が低下した人と実感が上昇した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」のうち、上位 3 項目以外を比較しましたが、特徴的な要因は抽出できませんでした。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が計画開始年と比較して低下した要因は、「自治会・町内活動への参加（環境美化、防犯・防災活動など）が減ったこと」、「隣近所との面識・交流が減ったこと」及び「地域の行事への参加（お祭り、スポーツ大会など）が減ったこと」とであると推測されます（表：補 1-11）。

表：補 1-11 「地域社会とのつながり」の実感が計画開始年と比較して低下した要因とその具体的な内容

実感が低下した要因	具体的な内容（補足調査の自由記載）
自治会・町内活動への参加（環境美化、防犯・防災活動など）が減ったこと	隣人との交流はあるがコロナを機に町内の知人等との交流会がなくなってしまった など
隣近所との面識・交流が減ったこと	高齢化、少子化で近隣に人が住んでいても少なく会うこともない など
地域の行事への参加（お祭り、スポーツ大会など）が減ったこと	コロナ禍、高齢化、人口減少等で地域行事減。女性会解散など

(2) 「地域の安全」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.62 であり、計画開始年より 0.20 点低下しています。

t 検定を行った結果、計画開始年に比べて有意に低下していることから、当該分野の実感は低下していると考えられます。

イ 属性別の状況

計画開始年と比較して有意に変化した属性は表：補 1-12 のとおりでした。

表：補 1-12 「地域の安全」の実感において計画開始年と比較して有意な変化があった属性と計画開始年差

属性		H31	R7	R7-H31 (対計画開始年差)
県計		3.82	3.62	▲ 0.20
性別	男性	3.84	3.68	▲ 0.16
	女性	3.80	3.57	▲ 0.23
年代	40～49 歳	3.79	3.56	▲ 0.23
	50～59 歳	3.84	3.60	▲ 0.24
	60～69 歳	3.80	3.50	▲ 0.29
	70 歳以上	3.91	3.68	▲ 0.22
職業	自営業主	3.94	3.69	▲ 0.25
	常用雇用者	3.83	3.62	▲ 0.21
	臨時雇用者	3.71	3.55	▲ 0.16
	60 歳以上の無職	3.86	3.60	▲ 0.26
世帯構成	ひとり暮らし	3.72	3.57	▲ 0.15
	夫婦のみ	3.86	3.60	▲ 0.26
	2 世代世帯	3.81	3.66	▲ 0.15
	3 世代世帯	3.89	3.62	▲ 0.27
	その他	3.79	3.54	▲ 0.25
子どもの数	1 人	3.80	3.61	▲ 0.19
	2 人	3.85	3.63	▲ 0.22
	3 人	3.85	3.64	▲ 0.21
	4 人以上	3.92	3.61	▲ 0.32
居住年数	20 年以上	3.83	3.61	▲ 0.22

表：補 1-12 「地域の安全」の実感において計画開始年と比較して有意な変化があった属性と計画開始年差（続き）

属性		H31	R7	R7-H31 (対計画開始年差)
広域振興圏	県央広域振興圏	3.87	3.67	▲ 0.20
	県南広域振興圏	3.78	3.65	▲ 0.13
	沿岸広域振興圏	3.82	3.56	▲ 0.26
	県北広域振興圏	3.82	3.57	▲ 0.25

② 計画開始年と比較して分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、計画開始年と比較して実感が有意に低下した属性は、表：補 1-12 のとおり全体的に低下幅が大きく、特に、年代「60～69 歳」、職業「自営業主」及び「60 歳以上の無職」、世帯構成「夫婦のみ」及び「3 世代世帯」、子どもの数「4 人以上」、広域振興圏「沿岸広域振興圏」及び「県北広域振興圏」の低下幅が大きい傾向にあります。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、実感が低下した人が選択した上位 3 位の項目は、以下のとおりでした。
 - a 野生鳥獣の出没状況や被害の発生状況（シカ、イノシシ、クマなど）
 - b 自然災害の発生状況
 - c 犯罪の発生状況
- ・ 「野生鳥獣の出没状況や被害の発生状況」は、令和 6 年補足調査において自由記載が多かったことから、本年のより選択肢に加えています。
- ・ 補足調査結果において、実感が低下した人と実感が上昇した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」のうち、上位 3 項目以外を比較すると、「社会のインフラの老朽化（橋、下水道など）」において、それぞれ実感が低下した人の回答が多い一方で、実感が上昇した人で回答が少ないことから、当該理由も実感が上昇した要因の一つと推測されます。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が低下した要因は、「野生鳥獣の出没や被害の発生が多いこと」、自然災害の発生が多く、被害も大きくなっていること、「犯罪の発生状況に不安があること」及び「社会インフラが老朽化していること」とであると推測されます（表：補 1-13）。

表：補 1-13 「地域の安全」の実感が計画開始年と比較して低下した要因とその具体的な内容

実感が低下した要因	具体的な内容（補足調査の自由記載）
野生鳥獣の出没や被害の発生が多いこと	熊や猪の出没頻度が年々増えている、シカの増加で花壇や家庭菜園が荒らされる等 など
自然災害の発生が多く、被害も大きくなっていること	経験のない台風や大雨 など
犯罪の発生状況に不安があること	職業のように犯罪をしている人に個人では勝てない など
社会インフラが老朽化していること	-

(3) 「仕事のやりがい」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.41 点であり、計画開始年より 0.12 点低下しています。

t 検定を行った結果、計画開始年に比べて有意に低下していることから、当該分野の実感は低下していると考えられます。

イ 属性別の状況

計画開始年と比較して有意に変化した属性は表：補 1-14 のとおりでした。

表：補 1-14 「仕事のやりがい」の実感において計画開始年と比較して有意な変化があった属性と計画開始年差

属性		H31	R7	R7-H31 (対計画開始年差)
県計		3.54	3.41	▲ 0.12
性別	男性	3.53	3.43	▲ 0.10
	女性	3.54	3.41	▲ 0.13
年代	60～69 歳	3.53	3.39	▲ 0.14
	70 歳以上	3.72	3.44	▲ 0.29
職業	60 歳以上の無職	3.32	3.14	▲ 0.18
世帯構成	2 世代世帯	3.51	3.38	▲ 0.14
	3 世代世帯	3.60	3.38	▲ 0.22
子どもの数	2 人	3.57	3.46	▲ 0.11
	3 人	3.74	3.44	▲ 0.30
居住年数	20 年以上	3.53	3.41	▲ 0.12
広域振興圏	県央広域振興圏	3.58	3.45	▲ 0.13
	沿岸広域振興圏	3.57	3.36	▲ 0.21

② 計画開始年と比較して分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、計画開始年と比較して実感が有意に低下した属性は、表：補 1-15 のとおりであり、このうち低下幅が大きい傾向にある属性は、年代「70 歳以上」、世帯構成「3 世代世帯」、子どもの数「3 人」、広域振興圏「沿岸広域振興圏」でした。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、計画開始年と比較して実感が低下した人が選択した上位 3 位の項目は、以下のとおりでした。
 - a 現在の収入・給料の額
 - b 現在の職種・業務の内容
 - c 将来の収入・給料の額の見込み
- ・ 補足調査結果において、計画開始年と比較して実感が低下した人と実感が上昇した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」のうち、上位 3 項目以外を比較すると、「以前仕事をしていたが、今はしていない」において、実感が上昇した人の回答が少ない一方で、実感が低下した人で回答が多いことから、当該理由も実感が低下した要因の一つと推測されます。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が計画開始年と比較して低下した要因は、「現在の収入・給料の額が十分とは言えないこと」、「現在の職種・業務の内容に不満があること」、「将来の収入・給料の額の見込みに不安があること」及び「現在は仕事をしていないこと」であると推測されます（表：補 1-15）。

表：補 1-15 「仕事のやりがい」の実感が計画開始年と比較して低下した要因とその具体的な内容

実感が低下した要因	具体的な内容（補足調査の自由記載）
現在の収入・給料の額が十分とは言えないこと	物価が高いため今の給料の額でまかなうのが大変なため
現在の職種・業務の内容に不満があること	-
将来の収入・給料の額の見込みに不安があること	給料UPが見込めない、非正規で将来設計ができない など
現在は仕事をしていないこと	-

(4) 「必要な収入や所得」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 2.50 点であり、計画開始年より 0.15 点低下しています。

t 検定を行った結果、計画開始年に比べて有意に低下していることから、当該分野の実感は低下していると考えられます。

イ 属性別の状況

計画開始年と比較して有意に変化した属性は表：補 1-16 のとおりでした。

表：補 1-16 「必要な収入や所得」の実感において計画開始年と比較して有意な変化があった属性と計画開始年差

属性		H31	R7	R7-H31 (対計画開始年差)
県計		2.65	2.50	▲ 0.15
性別	男性	2.68	2.53	▲ 0.15
	女性	2.61	2.48	▲ 0.13
年代	40～49 歳	2.66	2.33	▲ 0.33
	60～69 歳	2.63	2.49	▲ 0.14
	70 歳以上	2.75	2.55	▲ 0.20
職業	常用雇用者	2.72	2.53	▲ 0.19
	臨時雇用者	2.56	2.34	▲ 0.22
世帯構成	夫婦のみ	2.76	2.61	▲ 0.15
	2 世代世帯	2.62	2.45	▲ 0.17
	3 世代世帯	2.72	2.43	▲ 0.29
子どもの数	1 人	2.70	2.47	▲ 0.23
	2 人	2.71	2.53	▲ 0.17
	3 人	2.69	2.48	▲ 0.21
居住年数	20 年以上	2.66	2.50	▲ 0.17
広域振興圏	県央広域振興圏	2.73	2.45	▲ 0.29
	沿岸広域振興圏	2.71	2.48	▲ 0.23

② 計画開始年と比較して分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、計画開始年と比較して実感が有意に低下した属性は、表：補 1-16 のとおりであり、このうち低下幅が大きい傾向にある属性は、年代「40～49

歳」及び「70 歳以上」、職業「臨時雇用者」、世帯構成「3 世代世帯」、子どもの数「1 人」及び「3 人」、広域振興圏「県央広域振興圏」及び「沿岸広域振興圏」でした。

- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、計画開始年と比較して実感が低下した人が選択した上位 3 位の項目は、以下のとおりでした。
 - a 自分の収入・所得額（年金を含む）
 - b 自分の支出額
 - c 家族の収入・所得額（年金を含む）
- ・ 補足調査結果において、計画開始年と比較して実感が低下した人と実感が上昇した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」のうち、上位 3 項目以外を比較しましたが、特徴的な要因は抽出できませんでした。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が計画開始年と比較して低下した要因は、「自分の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと」、「自分の支出額が多い、又は十分な支出ができないこと」及び「家族の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと」とであると推測されます（表：補 1-17）。

表：補 1-17 「必要な収入や所得」の実感が計画開始年と比較して低下した要因とその具体的な内容

実感が低下した要因	具体的な内容（補足調査の自由記載）
自分の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと	年金生活であるが引かれるものが多く手取が年々減っている、仕事の量の割には給料が少ない など
自分の支出額が多い、又は十分な支出ができないこと	物価高を感じる、物価の上昇。買い控え。節約している など
家族の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと	自分も夫も年金だけの生活になり、生活が少し苦しいと思う など

補 1. 4. 3 実感が横ばいの分野

(1) 「余暇の充実」の実感

① 分野別実感の推移

実感平均値は 3.00 点であり、計画開始年より 0.04 点低下しています。

t 検定を行った結果、計画開始年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

② 属性別の状況

計画開始年と比較して有意に変化した属性は表：補 1-18 のとおりでした。

表：補 1-18 「余暇の充実」の実感において計画開始年と比較して有意な変化があった属性と計画開始年差

属性		H31	R7	R7-H31 (対計画開始年差)
県計		3.05	3.00	▲ 0.04※
年代	20～29 歳	3.04	3.43	0.39
	30～39 歳	2.71	3.01	0.30
	70 歳以上	3.36	3.08	▲ 0.27
職業	60 歳以上の無職	3.26	3.02	▲ 0.24
世帯構成	夫婦のみ	3.24	3.08	▲ 0.16
子どもの数	2 人	3.10	2.96	▲ 0.14
広域振興圏	県央広域振興圏	3.17	3.05	▲ 0.12

※ 県計は有意な変化はない。

(2) 「子育て」の実感

① 分野別実感の推移

実感平均値は 3.07 点であり、計画開始年より 0.01 点低下しています。

t 検定を行った結果、計画開始年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

② 属性別の状況

計画開始年と比較して有意に変化した属性は表：補 1-19 のとおりでした。

表：補 1-19 「子育て」の実感において有意な変化があった属性と計画開始年差

属性		H31	R7	R7-H31 (対計画開始年差)
県計		3.08	3.07	▲ 0.01※
職業	専業主婦・主夫	3.04	3.34	0.30
子どもの数	子どもはいない	2.60	2.81	0.22

※ 県計は有意な変化はない。

(3) 「子どもの教育」の実感

① 分野別実感の推移

実感平均値は 3.15 点であり、計画開始年より 0.05 点上昇しています。

t 検定を行った結果、計画開始年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

② 属性別の状況

計画開始年と比較して有意に変化した属性は表：補 1-20 のとおりでした。

表：補 1-20 「子どもの教育」の実感において計画開始年と比較して有意な変化があった属性と計画開始年差

属性		H31	R7	R7-H31 (対計画開始年差)
県計		3.10	3.15	0.05※
年代	60～69 歳	2.95	3.09	0.14
職業	専業主婦・主夫	3.17	3.38	0.20
子どもの数	子どもはいない	2.84	2.99	0.16

※ 県計は有意な変化はない。

(4) 「住まいの快適さ」の実感

① 分野別実感の推移

実感平均値は 3.30 点であり、計画開始年より 0.04 点低下しています。

t 検定を行った結果、計画開始年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

② 属性別の状況

計画開始年と比較して有意に変化した属性は表：補 1-21 のとおりでした。

表：補 1-21 「住まいの快適さ」の実感において計画開始年と比較して有意な変化があった属性と計画開始年差

属性		H31	R7	R7-H31 (対計画開始年差)
県計		3.34	3.30	▲ 0.04※
年代	70 歳以上	3.54	3.44	▲ 0.11
世帯構成	3 世代世帯	3.42	3.21	▲ 0.21
子どもの数	2 人	3.40	3.30	▲ 0.10
居住年数	20 年以上	3.34	3.29	▲ 0.07

※ 県計は有意な変化はない。

(5) 「歴史・文化への誇り」の実感

① 分野別実感の推移

実感平均値は 3.27 点であり、計画開始年より 0.02 点低下しています。

t 検定を行った結果、計画開始年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

② 属性別の状況

計画開始年と比較して有意に変化した属性は表：補 1-22 のとおりでした。

表：補 1-22 「歴史・文化への誇り」の実感において計画開始年と比較して有意な変化があった属性と計画開始年差

属性		H31	R7	R7-H31 (対計画開始年差)
県計		3.28	3.27	▲ 0.02※
年代	70 歳以上	3.42	3.27	▲ 0.15
世帯構成	3 世代世帯	3.38	3.20	▲ 0.19
子どもの数	子どもはいない	3.17	3.30	0.13
広域振興圏	県央広域振興圏	3.27	3.39	0.12
	沿岸広域振興圏	3.30	3.16	▲ 0.14

※ 県計は有意な変化はない。

(6) 「自然のゆたかさ」の実感

① 分野別実感の推移

実感平均値は 4.23 点であり、計画開始年より 0.02 点上昇しています。

t 検定を行った結果、計画開始年に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

② 属性別の状況

計画開始年と比較して有意に変化した属性は、表：補 1-23 のとおりでした。

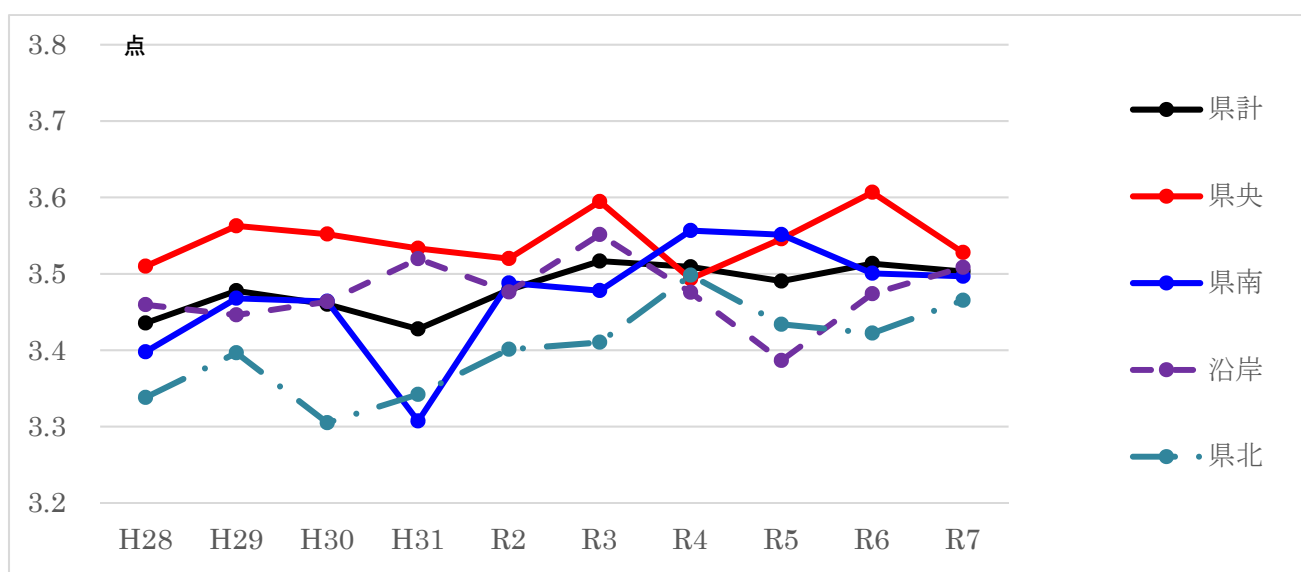
表：補 1-23 「自然のゆたかさ」の実感において計画開始年と有意な変化があった属性
と計画開始年差

属性		H31	R7	R7-H31 (対計画開始年差)
県計		4. 21	4. 23	0. 02※
年代	20～29 歳	4. 20	4. 53	0. 33
職業	常用雇用者	4. 25	4. 35	0. 09
子どもの数	子どもはいない	4. 14	4. 31	0. 17
広域振興圏	県央広域振興圏	4. 19	4. 27	0. 09

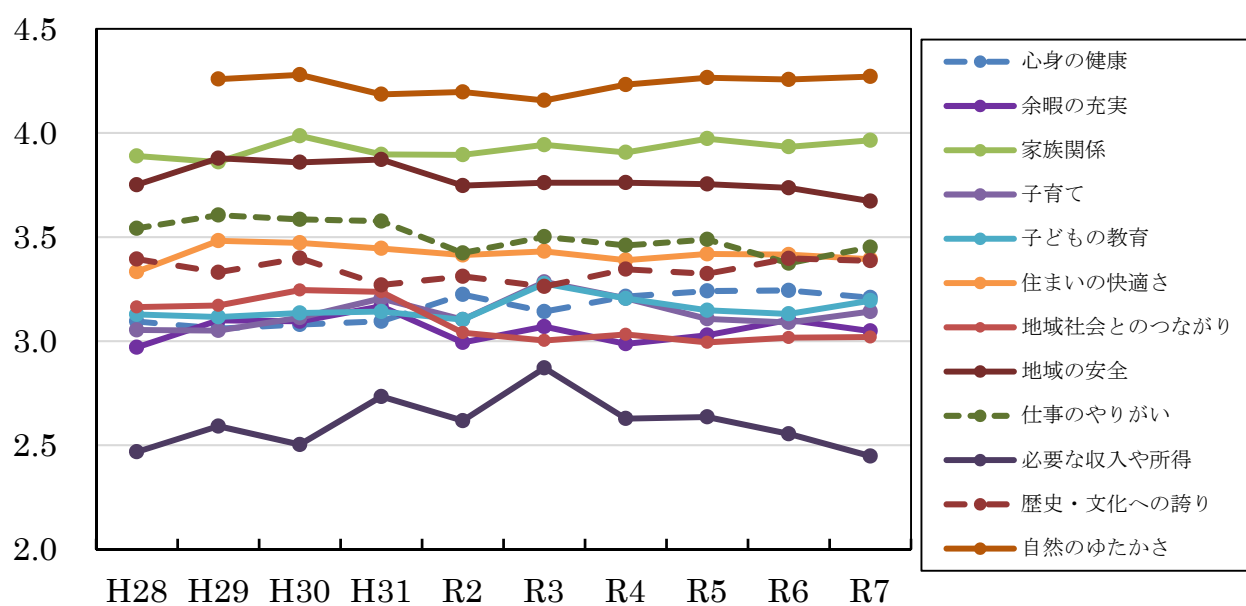
※ 県計は有意な変化はない。

[補足資料 2] 広域振興圏別の主観的幸福感及び分野別実感の推移

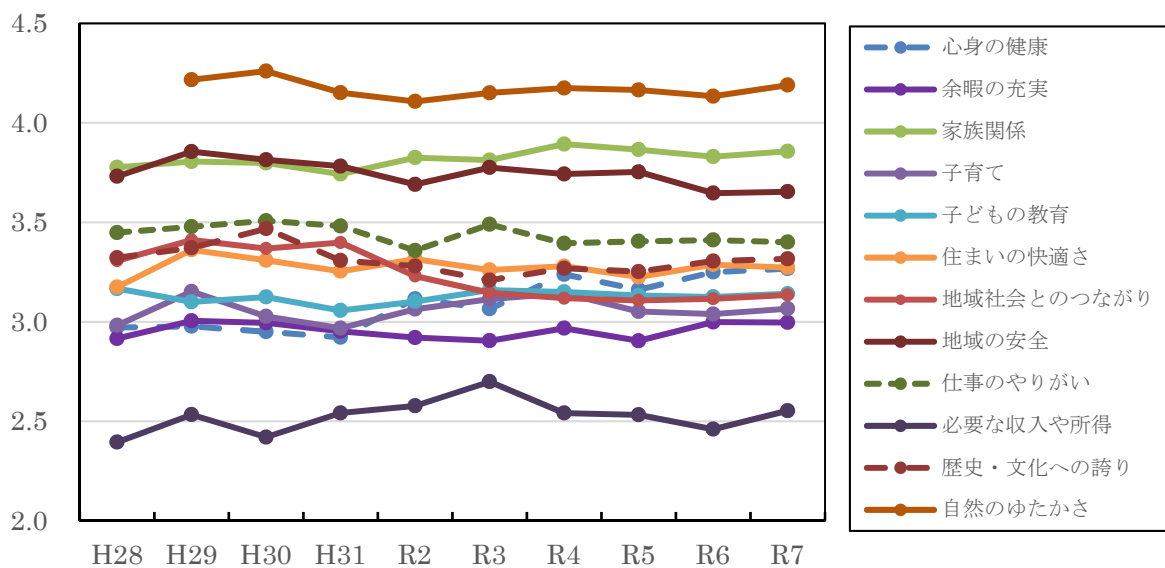
県民意識調査においては、平成 28 年から幸福感に関する質問を設けてきました。各広域振興圏における施策等を推進する上で参考となるよう、昨年度に引き続き、平成 28 年以降の広域振興圏別の主観的幸福感及び分野別実感の推移をまとめました。



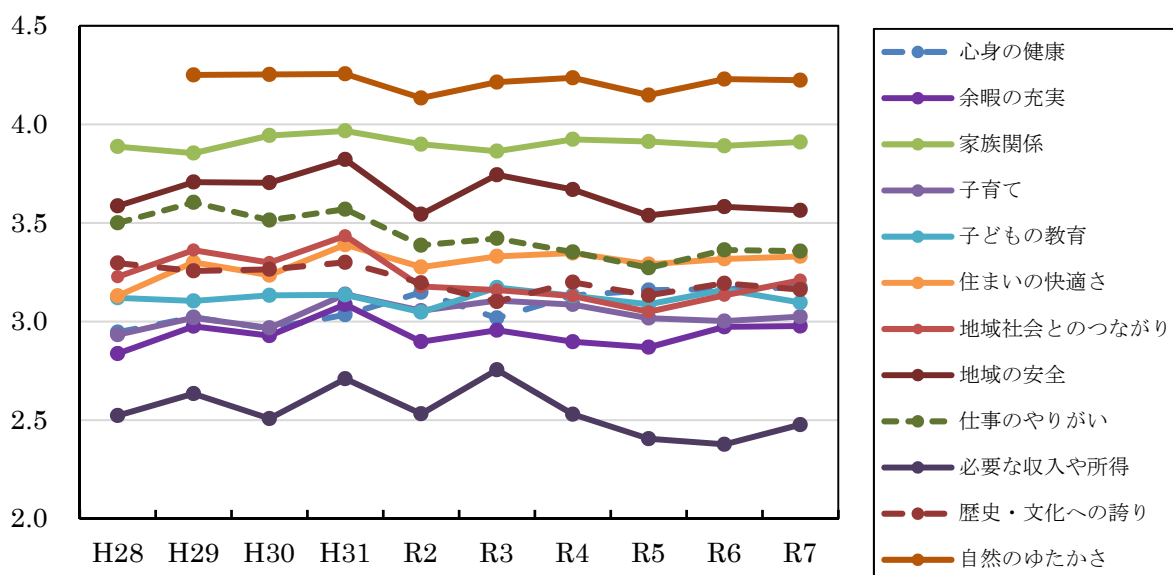
図：補 2-1 【県民意識調査】主観的幸福感の実感平均値の推移（広域振興圏別）



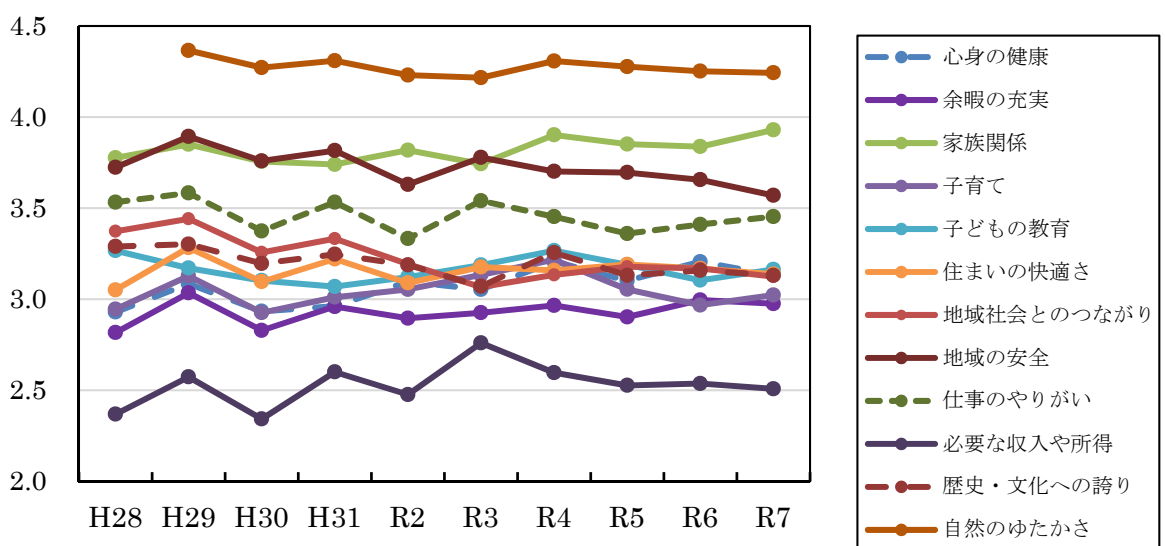
図：補 2-2 【県民意識調査】分野別実感の実感平均値の推移（県央広域振興圏）



図：補2-3 【県民意識調査】分野別実感の実感平均値の推移（県南広域振興圏）



図：補2-4 【県民意識調査】分野別実感の実感平均値の推移（沿岸広域振興圏）



図：補2-5 【県民意識調査】分野別実感の実感平均値の推移（県北広域振興圏）

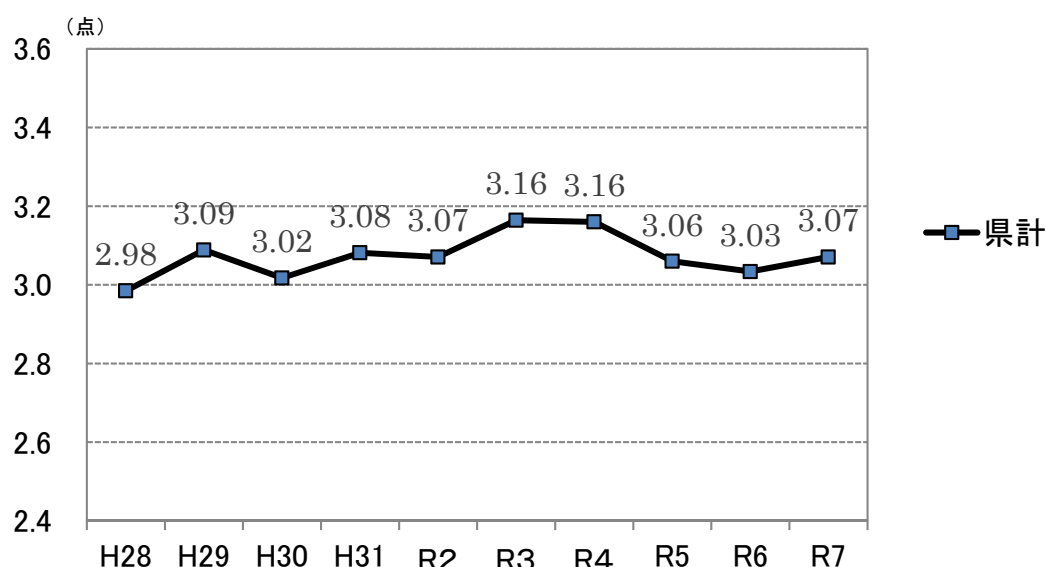
[補足資料3]「子育て」に関する分野別実感の推移

分析部会では、令和5年度の年次レポートにおける追加分析として、「子育て」に関する分野別実感の推移と変動要因について分析を行いました。このうち、分野別実感の推移の分析については、実感平均値の属性差を検証しましたが、昨年度に引き続き、今年度の年次レポートにおいても、令和7年県民意識調査の結果から属性別の分野別実感の平均値を更新し、その推移を確認しました。

なお、分野別実感の分析に当たっては、「子育てがしやすいと感じますか」との設問に対し、「感じる」、「やや感じる」、「どちらともいえない」、「あまり感じない」、「感じない」の5段階の回答に応じて5点から1点までを配点することで得点化しています（「わからない」及び未回答は、集計から除外）。従って、点数が高いほど子育てのしやすさを感じていることを表します。

(1) 分野別実感の推移

令和7年県民意識調査における「子育て」の分野別実感、3.07点であり、前年から0.04点上昇しました（図：補3-1）。

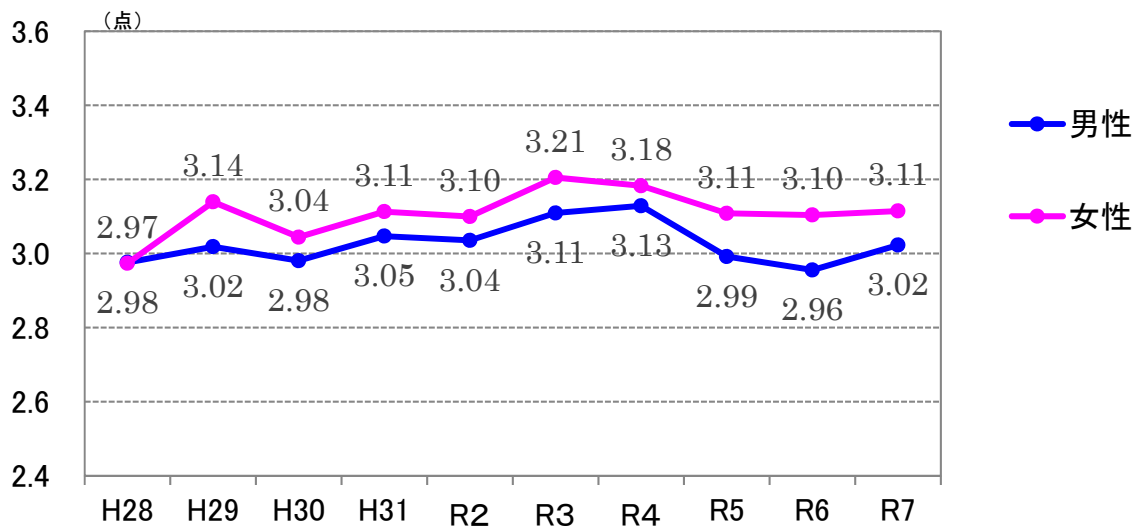


図：補3-1 【県民意識調査】「子育て」に関する分野別実感平均値（県計）の推移

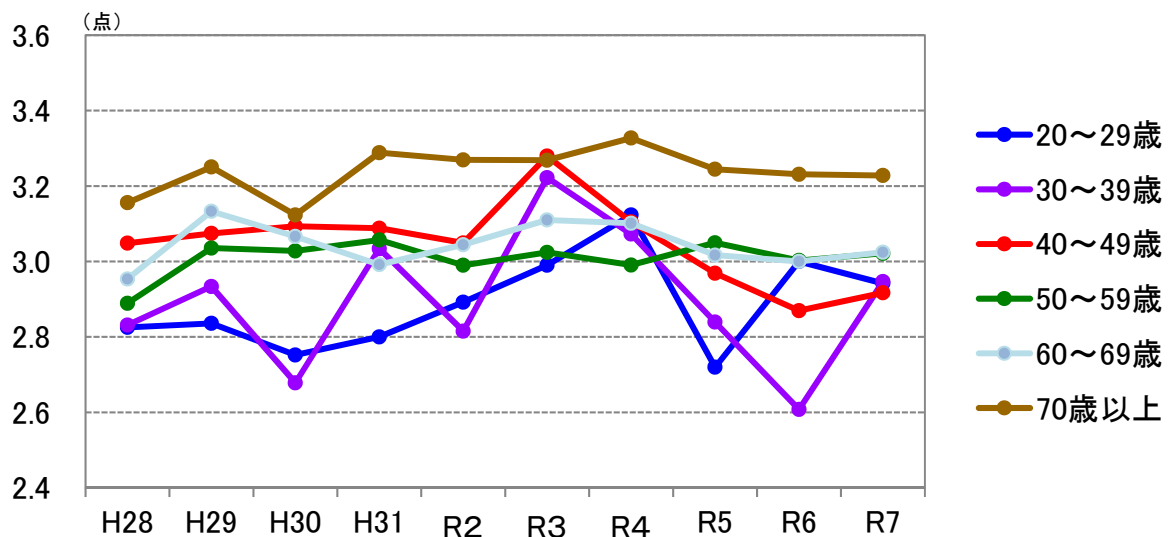
(2) 属性別の分野別実感の推移

- ・ 男女別では、引き続き「女性」が「男性」を上回っています（図：補3-2）。
- ・ 年代別では、「30～39歳」及び「40～49歳」において、実感が上昇しましたが、20～29歳が低下しました（図：補3-3）。
- ・ 子どもの数別では、子どもがいる（「1人」、「2人」、「3人」、「4人以上」）に比べ、「子どもはいない」が、引き続き低い値で推移していますが、令和6年に比べ0.1点上昇しました（図：補3-4）。

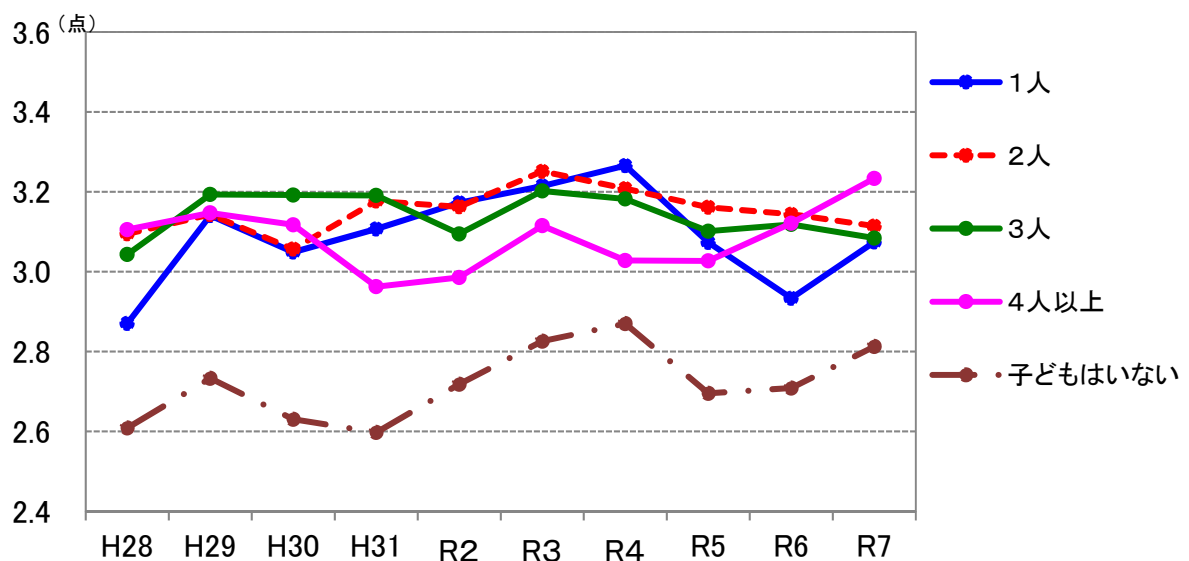
また、年代別と子どもの有無別での多重クロス集計では、「20～29歳」において「子どもはいない」が「子どもがいる（子どもの数が「1人」「2人」「3人」「4人以上」を統合し集計）」を上回りましたが、それ以外の年代では、「子どもはいない」が「子どもがいる」に比べて、一貫して低い値で推移する傾向が続いています（図：3-5）。



図：補 3-2 【県民意識調査】「子育て」に関する分野別実感平均値（性別）の推移

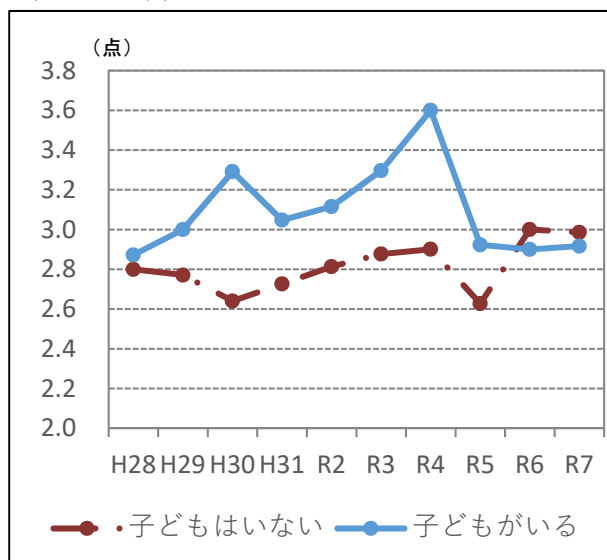


図：補 3-3 【県民意識調査】「子育て」に関する分野別実感平均値（年代別）の推移

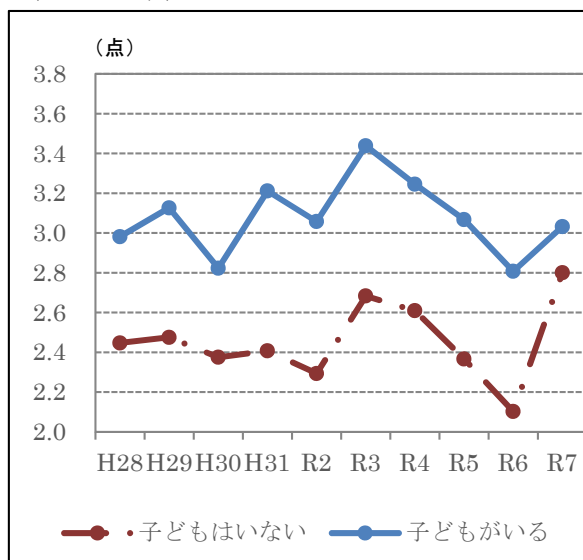


図：補 3-4 【県民意識調査】「子育て」に関する分野別実感平均値（子どもの数別）の推移

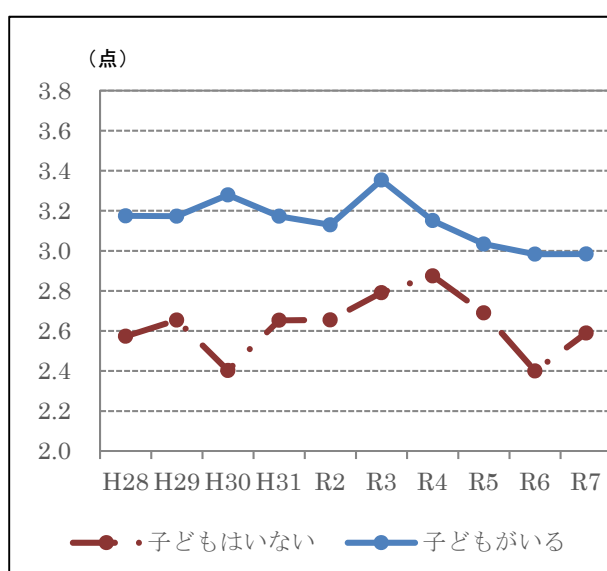
(20～29 歳)



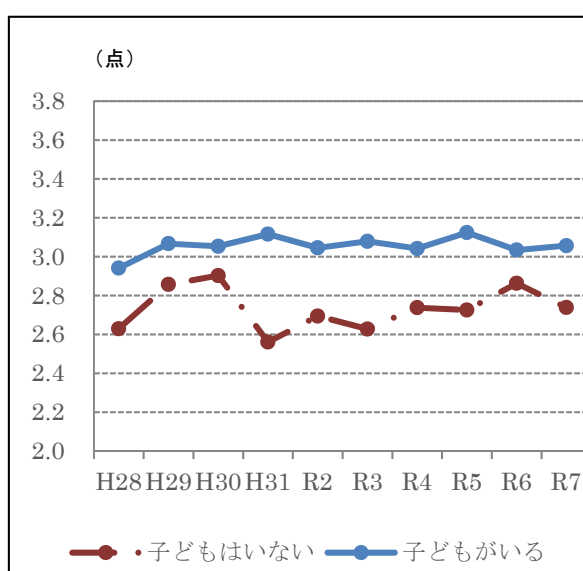
(30～39 歳)



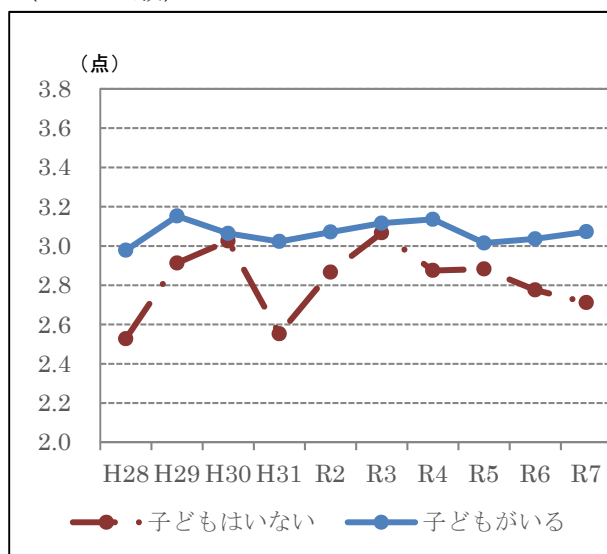
(40～49 歳)



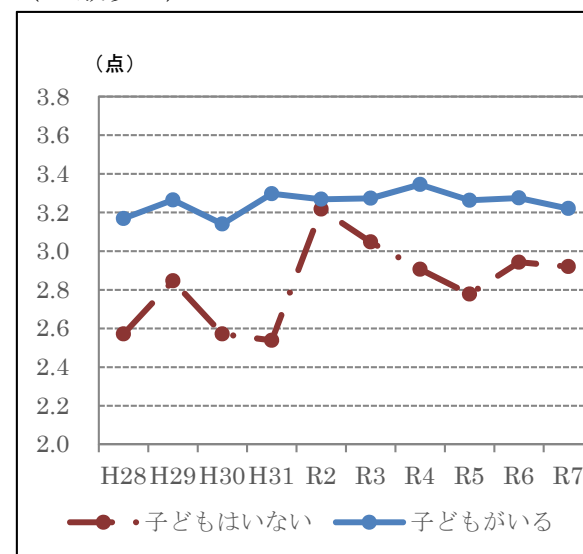
(50～59 歳)



(60～69 歳)



(70 歳以上)



図；補3-5 【県民意識調査】「子育て」に関する分野別実感平均値（年代別・子どもの有無別）の推移

＜参考＞

参考 1 県民の幸福感に関する分析部会運営要領

（設置）

第 1 条 岩手県附属機関条例（令和 5 年岩手県条例第 4 号）第 7 条第 1 項の規定に基づき、岩手県総合計画審議会に県民の幸福感に関する分析部会（以下「部会」という。）を置く。

（所掌）

第 2 条 部会の所掌事項は、次のとおりとする。

- （1） 「県の施策に関する県民意識調査」等で把握した、県民の幸福に対する実感の分析に関すること。
- （2） その他いわて県民計画の推進に当たって必要な事項に関すること。

（組織）

第 3 条 部会は、委員 7 名以内で組織し、岩手県総合計画審議会の委員及び専門委員をもって構成する。

- 2 委員の任期は、2 年とする。ただし、欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（部会長及び副部会長）

第 4 条 部会に、部会長及び副部会長を各 1 名置く。

- 2 部会長及び副部会長は、委員の互選によって定める。
- 3 部会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
- 4 副部会長は部会長を補佐し、部会長に事故があるとき又は部会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（オブザーバー）

第 5 条 部会にオブザーバーを置くことができる。

- 2 オブザーバーは、知事が任命する。
- 3 オブザーバーは、必要に応じて会議に出席し、意見を述べることができる。

（会議）

第 6 条 部会は、知事が招集する。

- 2 部会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 部会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（意見の聴取）

第 7 条 部会は、必要に応じて専門的知識を有する者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

（庶務）

第 8 条 部会の庶務は、政策企画部政策企画課において処理する。

（補則）

第 9 条 この要領に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、部会長が定める。

附 則

この要領は、令和元年 6 月 6 日から施行する。

附 則

この要領は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

参考2 県民の幸福感に関する分析部会委員等名簿

氏 名	現所属等	備 考
吉野 英岐	岩手県立大学総合政策学部 教授	部会長
和川 央	岩手県立大学宮古短期大学部 准教授	副部会長
蛸崎 奈津子	岩手医科大学看護学部 教授	
竹村 祥子	浦和大学社会学部 教授	
谷藤 邦基	岩手県立大学地域政策研究センター 客員教授	
Tee Kian Heng	岩手県立大学総合政策学部 教授	
渡部 あさみ	岩手大学人文社会科学部 准教授	
広井 良典	京都大学名誉教授	オブザーバー

参考3 令和7年度における部会開催状況等

月日	検討内容等
5月22日(木)	第1回部会開催 (1) 県民の幸福感に関する分析部会について(審議内容等) (2) 分析方針について (3) 分野別実感の分析について
5月26日(月)	第2回部会開催 (1) 分野別実感の分析について
6月2日(月)	第3回部会開催 (1) 分野別実感の分析について
6月19日(月)	第4回部会開催 (1) 分野別実感の分析について
8月6日(水)	第5回部会開催 (1) 令和7年度「幸福について考えるワークショップ」における意見等について (2) 「県民の幸福感に関する分析部会」令和7年度年次レポート(素案)について
9月9日(火)	第6回部会開催 (1) 「県民の幸福感に関する分析部会」令和7年度年次レポート(案)について (2) 令和8年県民意識調査(補足調査)について
11月〇日(〇)	第110回総合計画審議会 で分析結果を報告

岩手県総合計画審議会「県民の幸福感に関する分析部会」
令和7年度年次レポート

発 行 令和7年〇月

発行者 岩手県総合計画審議会 県民の幸福感に関する分析部会

事務局 岩手県政策企画部政策企画課

TEL 019-629-5181 FAX 019-629-6229

岩手県総合計画審議会「県民の幸福感に関する分析部会」
令和7年度年次レポート（素案）【概要版】

1 分析目的

県では、「いわて県民計画（2019～2028）」（以下「県民計画」という。）において、県民の幸福を守り育てることを基本目標に掲げ、10の政策分野を設定するとともに、各分野にいわて幸福関連指標を設定して取組を展開している。

県民計画の推進に当たり、アクションプランである「政策推進プラン」について、いわて幸福関連指標をはじめとする客観的指標の達成状況に加え、県民がどの程度幸福を実感しているかといった県民意識調査の結果や社会経済情勢を踏まえて政策を総合的に評価し、政策立案に反映させていくこととしている。

県民の幸福感に関する分析部会では、県民の幸福感を評価に反映させることを目的として、令和7年1月から2月に実施した県民意識調査結果について、第2期政策推進プランの開始直前である令和5年（以下「基準年」という。）の調査結果と比較し、幸福に関する分野別実感の変動要因等について分析を行った。

また、分野別実感などの主観的指標については、「短期的な数値の変動に着目するのではなく、長期的な視点での数値の維持・向上を図る」という観点で設定する^{（※）}こととされていることから、県民計画の開始直前の県民意識調査の調査年である平成31年（以下「計画開始年」という。）の調査結果と比較し、分野別実感の長期的な変動要因についても参考として掲載した。（※）「岩手の幸福に関する指標」研究会報告書（平成29年9月7日）
さらに、追加分析として、主観的幸福感と生活満足度との関係、生活時間（行動時間）、それぞれの関係について分析を行った

2 分析対象

以下の「県民意識調査」で把握した県民の幸福に関する実感について、「補足調査」の結果も踏まえながら、統計手法等を活用の上、分析を行った。

表 1 県民意識調査と補足調査

調査名	県の施策に関する県民意識調査		県の施策に関する県民意識調査（補足調査）
調査対象	県内に居住する18歳以上の個人		
対象者数	5,000人		602人 [※] （各広域振興圏約150人）
抽出方法	無作為抽出		固定 [※] （平成31年及び令和5年県民意識調査回答者から抽出）
調査時期		毎年1～2月	
調査項目	主観的幸福感、分野別実感 等	主観的幸福感や分野別実感の回答理由 等	

※ 令和6年補足調査より、対象者の追加・更新等を実施

3 分析結果

(1) 主観的幸福感の分析結果

- 令和7年県民意識調査の結果に、5段階の選択肢に応じて5点（幸福だと感じている）から1点（幸福だと感じていない）を配点したところ、県全体の実感平均値は3.50点となり、基準年（3.49点）に比べ、主観的幸福感は一横ばい（図1）
- 一方、計画開始年（3.43点）に比べ、主観的幸福感は一上昇
- 「幸福だと感じている」又は「やや幸福だと感じている」と回答した人の割合は、県全体で57.0%となり、基準年より0.1ポイントの上昇、計画開始年より4.7ポイントの上昇（図2）
- また、「幸福だと感じていない」又は「あまり幸福だと感じていない」と回答した人は17.6%となり、基準年より0.5ポイント上昇、計画開始年より1.7ポイントの低下
- 幸福を判断するに当たって重視した事項は、平成28年以降継続して、1位が「健康状況」、2位が「家族関係」。
- 属性別では、基準年に比べ、広域振興圏：「沿岸」で主観的幸福感が上昇し、年代別：「40歳代」で主観的幸福感が低下
- また、以下の属性で計画開始年に比べ、主観的幸福感が一上昇。
 - ・性別：「男性」
 - ・職業：「自営業主」「常用雇用者」
 - ・世帯構成別：「夫婦のみ世帯」
 - ・子どもの数別：「子どもはいない」
 - ・居住年数別：「20年以上」
 - ・広域振興圏別：「県南広域振興圏」

図1 主観的幸福感の平均値（県計）の推移〔点数〕

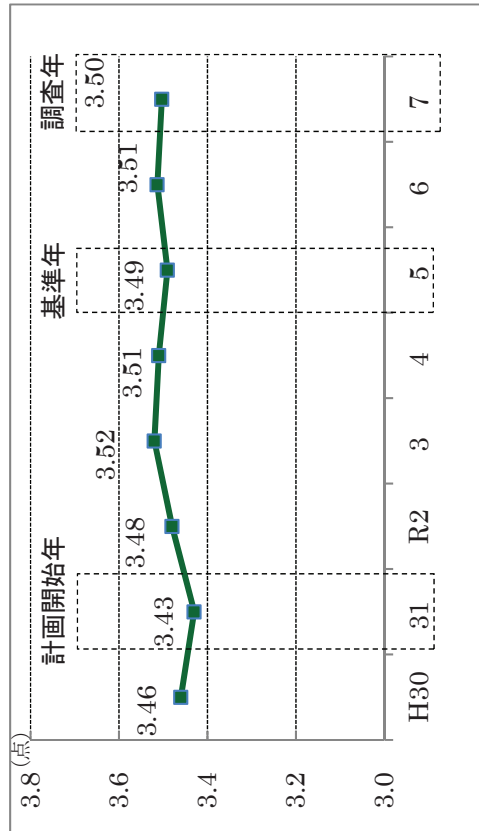
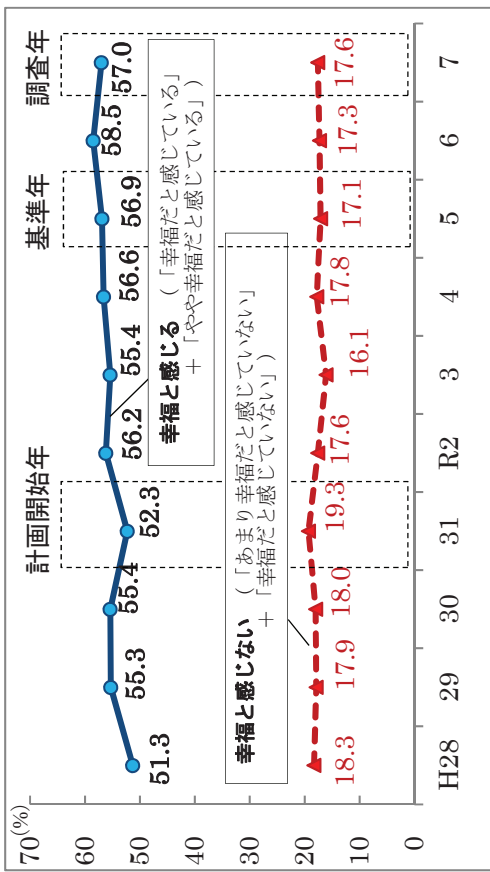


図2 主観的幸福感（県計）の推移〔割合〕



(2) 主観的幸福感に関連する12の分野別実感の分析結果

① 基準年と比較した分野別実感の変動状況

令和7年県民意識調査結果から得られた分野別実感の平均値を、基準年である令和5年と比較したところ、以下のとおり、上昇が1分野、横ばいが10分野、低下が1分野となった。

上 昇（1分野）：余暇の充実
横 ば い（10分野）：心身の健康、家族関係、子育て、子どもの教育、住まいの快適さ、地域社会とのつながり、仕事のやりがい、必要な収入や所得、歴史・文化への誇り、自然のゆたかさ
低 下（1分野）：地域の安全

なお、分野別実感の平均値の推移は図3（4ページ）のとおり。

② 基準年と比較した分野別実感の変動要因

基準年と比較して分野別実感が増した要因は、令和7年補足調査において実感が上昇した人の上位3位までの回答理由及び実感が低下した人の回答理由との比較などから、表2のとおり推測された。

表2 基準年と比較して分野別実感が上昇した要因分析結果

上昇した分野別実感	基準年（R5）と令和7年 の実感平均値の差 ^注	推測される要因等
余暇の充実	0.07 (3.00)	ア 自由な時間を十分に確保できたこと イ 家族との交流が増えたこと ウ 知人・友人との交流が増えたこと エ 自然（山・海など）と触れ合う場所や機会があったこと オ 趣味・娯楽活動の場所・機会が増えたこと

（注）（ ）は、令和7年県民意識調査における実感平均値。

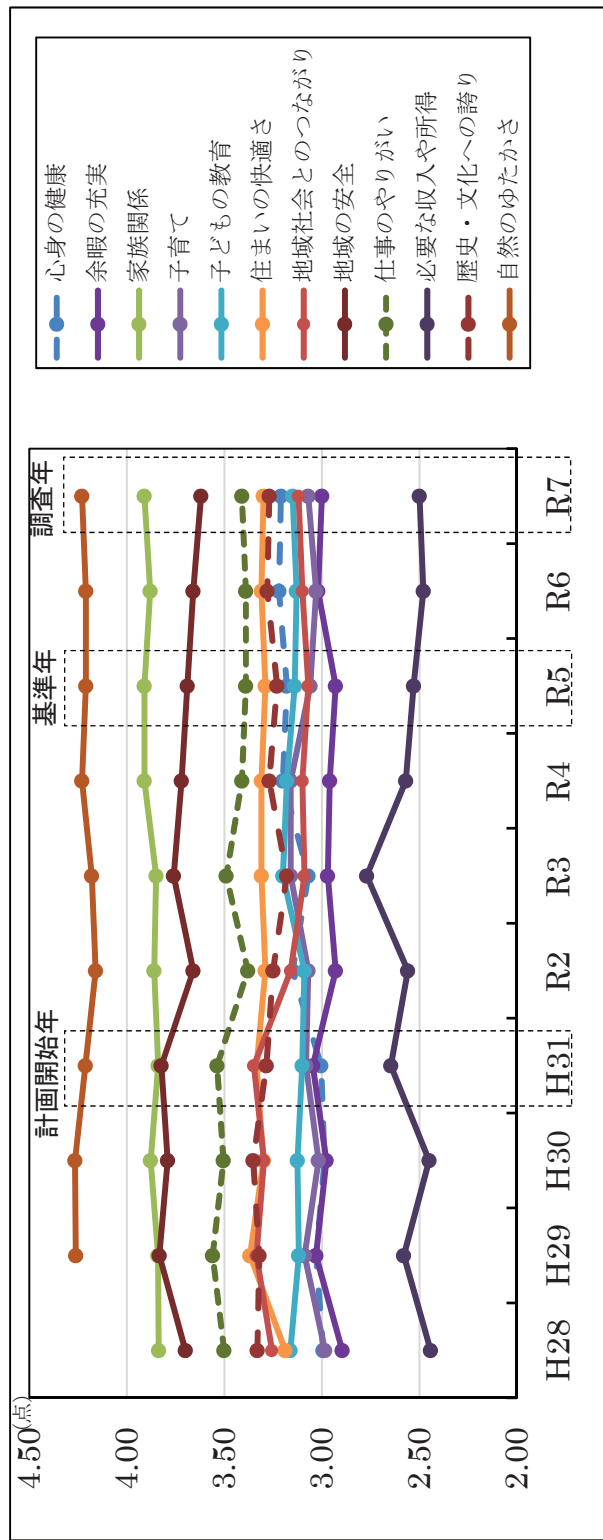
基準年と比較して分野別実感が低下した要因は、令和7年補足調査において実感が低下した人の上位3位までの回答理由及び実感が低下した人の回答理由との比較などから、表3のとおり推測された。

表3 基準年と比較して分野別実感が低下した要因分析結果

低下した分野別実感	基準年（R5）と令和7年 の実感平均値の差 ^注	推測される要因等
地域の安全	△0.07 (3.62)	ア 野生鳥獣の出没や被害の発生が多いこと イ 犯罪の発生状況に不安があること ウ 自然災害の発生が多く、被害も大きくなっていること

（注）（ ）は、令和7年県民意識調査における実感平均値。

図 3 分野別実感の平均値の推移（県計）



⑤ 分野別実感が一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

幸福感について調査を始めた平成 28 年から令和 7 年までの間、県民意識調査で得られた分野別実感が、一貫して高値（4 点以上）で推移している属性について、令和 7 年補足調査の各分野別実感において「感じる・やや感じる」と回答した人の上位 3 位までの回答理由及びこれまでの分析結果から、表 4 のとおり推測された。

表 4 分野別実感が一貫して高値で推移している属性の要因分析結果

分野別実感	属性		実感平均値	推測される要因	
	世帯構成	夫婦のみ		ア	イ
家族関係	世帯構成	夫婦のみ	4.00～4.15	会話が頻度が多いこと	
				同居がうまくいっていること	
				困った時に助け合っていること	
自然のゆたかさ	全ての属性	全ての属性	4.02～4.59	家族がよい精神的影響（貢献）を自分にもたらしていること	
				緑の量が豊かであること	
				空気の状態が綺麗であること	
				水（河川、池、地下水など）の状態が綺麗であること	

同様に、一貫して低値（3点未満）で推移している属性について、令和7年補足調査の各分野別実感において「感じない・あまり感じない」と回答した人の上位3位までの回答理由及びこれまでの分析結果から、表5のとおり推測された。

表5 分野別実感が一貫して低値で推移している属性の要因分析結果

分野別実感	属性		実感平均値	推測される要因
余暇の充実	年代	40歳代	2.78～2.88	ア 自由な時間が十分に確保できなかったこと イ 趣味・娯楽活動の場所・機会が少ないこと ウ 知人・友人との交流が少ないこと
		50歳代	2.68～2.92	
	職業	常用雇用者	2.82～2.95	
		世帯構成	2.80～2.99	
子育て	子どもの数	子どもはいない	2.60～2.87	ア 子どもの教育にかかる費用が高いこと イ 子育てにかかる費用が高いこと ウ 自分の就業状況（労働時間、休業・休暇など）に不満があること エ 子育てサービス支援の内容が十分とは言えないこと
子どもの教育	子どもの数	子どもはいない	2.80～2.99	ア 人間性、社会性を育むための教育内容が十分とは言えないこと イ 学力を育む教育内容が十分とは言えないこと ウ 学校の選択の幅（高校、大学など）が狭いこと エ 不登校やいじめなどの対応が十分とは言えないこと
必要な収入や所得	会社役員・団体役員、居住年数10～20年未満を除く全ての属性		2.20～2.94	ア 自分の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと イ 家族の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと ウ 自分の収入に比べて支出額が多いこと、あるいは十分な支出ができないこと エ 自分の金融資産の額が十分とは言えないこと

【追加分析】主観的幸福感と生活満足度との関係、生活時間（行動時間）、生活時間（行動時間）と主観的幸福感・生活満足度との関係について

県民意識調査と補足調査結果を基に、主観的幸福感と生活満足度との関係、生活時間（行動時間）、それぞれの関係について分析を行った。

【分析結果のまとめ】

- 1 主観的幸福感と生活満足度については、強く関係しているとは言えない。
- 2 家事労働において、男性に比べ女性の従事時間が非常に長く、大きなジェンダーギャップが生じている（図5）。推測される要因は以下のとおり。

- ・ 男性、女性ともに無意識のうちに、「家事は女性の仕事」と考えてしまう、いわゆる「アンコンシヤスバイアス」により、家事労働の役割分担の固定化がされていること。

- ・ 男性の長時間労働により、男性が家事労働時間にかける時間が少なくなっていること。

- 3 「睡眠」、「余暇」も、男性に比べ女性の時間が少ない（図5）。女性は、それらの時間を削って家事労働に従事している可能性も考えられる。

- 4 「家事労働」時間の減少と「睡眠」・「食事」時間の増加が、主観的幸福感・生活満足度の向上に寄与すると推定される（表6）。

以上から、

- ・ 女性に偏っている家事労働の負担を見直すこと。
- ・ 男性の長時間労働を是正すること。
- ・ 男女間でお互いの家事労働に理解を深め、アンコンシヤスバイアスを解消していくこと。

などが、ジェンダーギャップの解消につながり、主観的幸福感・生活満足度の向上にもつながっていく可能性が示唆された。

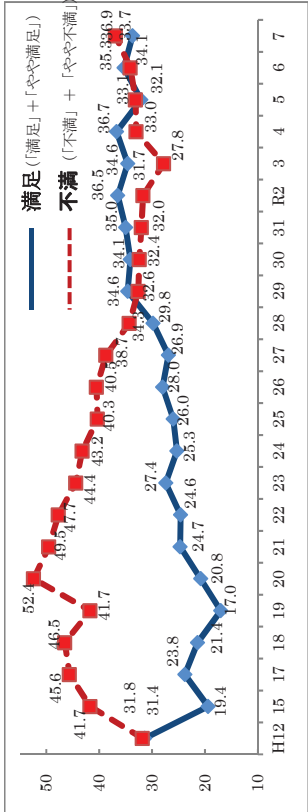


図4 生活満足度の経年変化

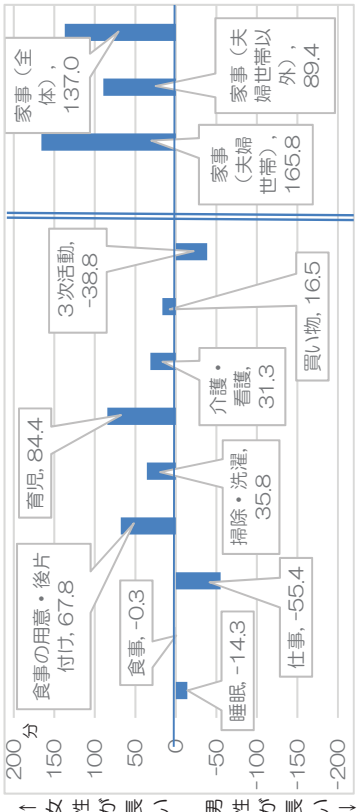


図5 全年齢層の男女の平均値の差（分）

表6 主観的幸福感のネガティブ・ポジティブ間平均値の差

有意な差が認められた属性	1次活動		2次活動		3次活動		4次活動		5次活動		6次活動		7次活動		8次活動		9次活動		10次活動		11次活動		12次活動		13次活動		14次活動		15次活動		16次活動		17次活動		18次活動		19次活動		20次活動		21次活動		22次活動		23次活動		24次活動		25次活動		26次活動		27次活動		28次活動		29次活動		30次活動		31次活動		32次活動		33次活動		34次活動		35次活動		36次活動		37次活動		38次活動		39次活動		40次活動		41次活動		42次活動		43次活動		44次活動		45次活動		46次活動		47次活動		48次活動		49次活動		50次活動		51次活動		52次活動		53次活動		54次活動		55次活動		56次活動		57次活動		58次活動		59次活動		60次活動		61次活動		62次活動		63次活動		64次活動		65次活動		66次活動		67次活動		68次活動		69次活動		70次活動		71次活動		72次活動		73次活動		74次活動		75次活動		76次活動		77次活動		78次活動		79次活動		80次活動		81次活動		82次活動		83次活動		84次活動		85次活動		86次活動		87次活動		88次活動		89次活動		90次活動		91次活動		92次活動		93次活動		94次活動		95次活動		96次活動		97次活動		98次活動		99次活動		100次活動		101次活動		102次活動		103次活動		104次活動		105次活動		106次活動		107次活動		108次活動		109次活動		110次活動		111次活動		112次活動		113次活動		114次活動		115次活動		116次活動		117次活動		118次活動		119次活動		120次活動		121次活動		122次活動		123次活動		124次活動		125次活動		126次活動		127次活動		128次活動		129次活動		130次活動		131次活動		132次活動		133次活動		134次活動		135次活動		136次活動		137次活動		138次活動		139次活動		140次活動		141次活動		142次活動		143次活動		144次活動		145次活動		146次活動		147次活動		148次活動		149次活動		150次活動		151次活動		152次活動		153次活動		154次活動		155次活動		156次活動		157次活動		158次活動		159次活動		160次活動		161次活動		162次活動		163次活動		164次活動		165次活動		166次活動		167次活動		168次活動		169次活動		170次活動		171次活動		172次活動		173次活動		174次活動		175次活動		176次活動		177次活動		178次活動		179次活動		180次活動		181次活動		182次活動		183次活動		184次活動		185次活動		186次活動		187次活動		188次活動		189次活動		190次活動		191次活動		192次活動		193次活動		194次活動		195次活動		196次活動		197次活動		198次活動		199次活動		200次活動		201次活動		202次活動		203次活動		204次活動		205次活動		206次活動		207次活動		208次活動		209次活動		210次活動		211次活動		212次活動		213次活動		214次活動		215次活動		216次活動		217次活動		218次活動		219次活動		220次活動		221次活動		222次活動		223次活動		224次活動		225次活動		226次活動		227次活動		228次活動		229次活動		230次活動		231次活動		232次活動		233次活動		234次活動		235次活動		236次活動		237次活動		238次活動		239次活動		240次活動		241次活動		242次活動		243次活動		244次活動		245次活動		246次活動		247次活動		248次活動		249次活動		250次活動		251次活動		252次活動		253次活動		254次活動		255次活動		256次活動		257次活動		258次活動		259次活動		260次活動		261次活動		262次活動		263次活動		264次活動		265次活動		266次活動		267次活動		268次活動		269次活動		270次活動		271次活動		272次活動		273次活動		274次活動		275次活動		276次活動		277次活動		278次活動		279次活動		280次活動		281次活動		282次活動		283次活動		284次活動		285次活動		286次活動		287次活動		288次活動		289次活動		290次活動		291次活動		292次活動		293次活動		294次活動		295次活動		296次活動		297次活動		298次活動		299次活動		300次活動		301次活動		302次活動		303次活動		304次活動		305次活動		306次活動		307次活動		308次活動		309次活動		310次活動		311次活動		312次活動		313次活動		314次活動		315次活動		316次活動		317次活動		318次活動		319次活動		320次活動		321次活動		322次活動		323次活動		324次活動		325次活動		326次活動		327次活動		328次活動		329次活動		330次活動		331次活動		332次活動		333次活動		334次活動		335次活動		336次活動		337次活動		338次活動		339次活動		340次活動		341次活動		342次活動		343次活動		344次活動		345次活動		346次活動		347次活動		348次活動		349次活動		350次活動		351次活動		352次活動		353次活動		354次活動		355次活動		356次活動		357次活動		358次活動		359次活動		360次活動		361次活動		362次活動		363次活動		364次活動		365次活動		366次活動		367次活動		368次活動		369次活動		370次活動		371次活動		372次活動		373次活動		374次活動		375次活動		376次活動		377次活動		378次活動		379次活動		380次活動		381次活動		382次活動		383次活動		384次活動		385次活動		386次活動		387次活動		388次活動		389次活動		390次活動		391次活動		392次活動		393次活動		394次活動		395次活動		396次活動		397次活動		398次活動		399次活動		400次活動		401次活動		402次活動		403次活動		404次活動		405次活動		406次活動		407次活動		408次活動		409次活動		410次活動		411次活動		412次活動		413次活動		414次活動		415次活動		416次活動		417次活動		418次活動		419次活動		420次活動		421次活動		422次活動		423次活動		424次活動		425次活動		426次活動		427次活動		428次活動		429次活動		430次活動		431次活動		432次活動		433次活動		434次活動		435次活動		436次活動		437次活動		438次活動		439次活動		440次活動		441次活動		442次活動		443次活動		444次活動		445次活動		446次活動		447次活動		448次活動		449次活動		450次活動		451次活動		452次活動		453次活動		454次活動		455次活動		456次活動		457次活動		458次活動		459次活動		460次活動		461次活動		462次活動		463次活動		464次活動		465次活動		466次活動		467次活動		468次活動		469次活動		470次活動		471次活動		472次活動		473次活動		474次活動		475次活動		476次活動		477次活動		478次活動		479次活動		480次活動		481次活動		482次活動		483次活動		484次活動		485次活動		486次活動		487次活動		488次活動		489次活動		490次活動		491次活動		492次活動		493次活動		494次活動		495次活動		496次活動		497次活動		498次活動		499次活動		500次活動		501次活動		502次活動		503次活動		504次活動		505次活動		506次活動		507次活動		508次活動		509次活動		510次活動		511次活動		512次活動		513次活動		514次活動		515次活動		516次活動		517次活動		518次活動		519次活動		520次活動		521次活動		522次活動		523次活動		524次活動		525次活動		526次活動		527次活動		528次活動		529次活動		530次活動		531次活動		532次活動		533次活動		534次活動		535次活動		536次活動		537次活動		538次活動		539次活動		540次活動		541次活動		542次活動		543次活動		544次活動		545次活動		546次活動		547次活動		548次活動		549次活動		550次活動		551次活動		552次活動		553次活動		554次活動		555次活動		556次活動		557次活動		558次活動		559次活動		560次活動		561次活動		562次活動		563次活動		564次活動		565次活動		566次活動		567次活動		568次活動		569次活動		570次活動		571次活動		572次活動		573次活動		574次活動		575次活動		576次活動		577次活動		578次活動		579次活動		580次活動		581次活動		582次活動		583次活動		584次活動		585次活動		586次活動		587次活動		588次活動		589次活動		590次活動		591次活動		592次活動		593次活動		594次活動		595次活動		596次活動		597次活動		598次活動		599次活動		600次活動		601次活動		602次活動		603次活動		604次活動		605次活動		606次活動		607次活動		608次活動		609次活動		610次活動		611次活動		612次活動		613次活動		614次活動		615次活動		616次活動		617次活動		618次活動		619次活動		620次活動		621次活動		622次活動		623次活動		624次活動		625次活動		626次活動		627次活動		628次活動		629次活動		630次活動		631次活動		632次活動		633次活動		634次活動		635次活動		636次活動		637次活動		638次活動		639次活動		640次活動		641次活動		642次活動		643次活動		644次活動		645次活動		646次活動		647次活動		648次活動		649次活動		650次活動		651次活動		652次活動		653次活動		654次活動		655次活動		656次活動		657次活動		658次活動		659次活動		660次活動		661次活動		662次活動		663次活動		664次活動		665次活動		666次活動		667次活動		668次活動		669次活動		670次活動		671次活動		672次活動		673次活動		674次活動		675次活動		676次活動		677次活動		678次活動		679次活動		680次活動		681次活動		682次活動		683次活動		684次活動		685次活動		686次活動		687次活動		688次活動		689次活動		690次活動		691次活動		692次活動		693次活動		694次活動		695次活動		696次活動		697次活動		698次活動		699次活動		700次活動		701次活動		702次活動		703次活動		704次活動		705次活動		706次活動		707次活動		708次活動		709次活動		710次活動		711次活動		712次活動		713次活動		714次活動		715次活動		716次活動		717次活動		718次活動		719次活動		720次活動		721次活動		722次活動		723次活動		724次活動		725次活動		726次活動		727次活動		728次活動		729次活動		730次活動		731次活動		732次活動		733次活動		734次活動		735次活動		736次活動		737次活動		738次活動		739次活動		740次活動		741次活動		742次活動		743次活動		744次活動		745次活動		746次活動		747次活動		748次活動		749次活動		750次活動		751次活動		752次活動		753次活動		754次活動		755次活動		756次活動		757次活動		758次活動		759次活動		760次活動		761次活動		762次活動		763次活動		764次活動		765次活動		766次活動		767次活動		768次活動		769次活動		770次活動		771次活動		772次活動		773次活動		774次活動		775次活動		776次活動		777次活動		778次活動		779次活動		780次活動		781次活動		782次活動		783次活動		784次活動		785次活動		786次活動		787次活動		788次活動		789次活動		790次活動		791次活動		792次活動		793次活動		794次活動		795次活動		796次活動		797次活動		798次活動		799次活動		800次活動		801次活動		802次活動		803次活動		804次活動		805次活動		806次活動		807次活動		808次活動		809次活動		810次活動		811次活動		812次活動		813次活動		814次活動		815次活動		816次活動		817次活動		818次活動		819次活動		820次活動		821次活動		822次活動		823次活動		824次活動		825次活動		826次活動		827次活動		828次活動		829次活動		830次活動		831次活動		832次活動		833次活動		834次活動		835次活動		836次活動		837次活動		838次活動		839次活動		840次活動		841次活動		842次活動		843次活動		844次活動		845次活動		846次活動		847次活動		848次活動		849次活動		850次活動		851次活動		852次活動		853次活動		854次活動		855次活動		856次活動		857次活動		858次活動		859次活動		860次活動		861次活動		862次活動		863次活動		864次活動		865次活動		866次活動		867次活動		868次活動		869次活動		870次活動		871次活動		872次活動		873次活動		874次活動		875次活動		876次活動		877次活動		878次活動		879次活動		880次活動		881次活動		882次活動		883次活動		884次活動		885次活動		886次活動		887次活動		888次活動		889次活動		890次活動		891次活動		892次活動		893次活動		894次活動		895次活動		896次活動		897次活動		898次活動		899次活動		900次活動		901次活動		902次活動		903次活動		904次活動		905次活動		906次活動		907次活動		908次活動		909次活動		910次活動		911次活動		912次活動		913次活動		914次活動		915次活動		916次活動		917次活動		918次活動		919次活動		920次活動		921次活動		922次活動		923次活動		924次活動		925次活動		926次活動		927次活動		928次活動		929次活動		930次活動		931次活動		932次活動		933次活動		934次活動		935次活動		936次活動		937次活動		938次活動		939次活動		940次活動		941次活動		942次活動		943次活動		944次活動		945次活動		946次活動		947次活動		948次活動		949次活動		950次活動		951次活動		952次活動		953次活動		954次活動		955次活動		956次活動		957次活動		958次活動		959次活動		9	
--------------	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--	---	--

【補足資料 1】計画開始年と比較した分野別実感の変動状況

令和7年県民意識調査結果から得られた分野別実感の平均値を、計画開始年である平成31年と比較したところ、以下のとおり、**上昇が2分野**、**横ばいが6分野**、**低下が4分野**となった。

上 昇（2分野）：心身の健康、家族関係

横ばい（6分野）：余暇の充実、子育て、子どもの教育、住まいの快適さ、歴史・文化への誇り、自然のゆたかさ

低 下（4分野）：地域社会とのつながり、地域の安全、仕事のやりがい、必要な収入や所得

○計画開始年と比較した分野別実感の変動要因

計画開始年と比較して分野別実感が増した要因は、令和7年補足調査において実感が上昇した人の上位3位までの回答理由及び実感が低下した人の回答理由との比較などから、表7のとおり推測された。

表7 計画開始年と比較して分野別実感が増した要因分析結果

上昇した 分野別実感	計画開始年（H31）と令和 7年の実感平均値の差 ^注	推測される要因等
心身の健康	0.20 (3.21)	【からだ】 ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）が良かったこと イ 健康診断の結果が良かったこと ウ ころの健康状態が良かったこと エ 食事の制限がないこと 【こころ】 ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）が良かったこと イ 仕事・学業におけるストレスが無かったこと ウ 充実した余暇があったこと エ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスが無かったこと オ 相談相手がいいたこと
家族関係	0.07 (3.91)	ア 同居がうまくいっていること イ 困ったときに助け合えていること ウ 会話の頻度が多いこと エ 家事分担のバランス

計画開始年と比較して分野別実感が低下した要因は、令和7年補足調査において実感が低下した人の上位3位までの回答理由及び実感が上昇した人の回答理由との比較などから、表8のとおり推測された。

表8 計画開始年と比較して分野別実感が低下した要因分析結果

低下した 分野別実感	基準年 (H31) と令和 7年の実感平均値の差 ^注	推測される要因等
地域社会との つながり	△0.23 (3.12)	ア 自治会・町内会活動（環境美化、防犯・防災活動など）が減ったこと イ 隣近所との面識・交流が減ったこと ウ 地域の行事への参加（お祭り、スポーツ大会など）が減ったこと
地域の安全	△0.20 (3.62)	ア 野生鳥獣の出没や被害の発生が多いこと イ 自然災害の発生が多く、被害も大きくなっていること ウ 犯罪の発生状況に不安があること エ 社会インフラ（橋、下水道など）が老朽化していること
仕事の やりがい	△0.12 (3.41)	ア 現在の収入・給料の額が十分とは言えないこと イ 現在の職種・業務の内容に不満があること ウ 将来の収入・給料の額の見込みに不安があること エ 現在は仕事をしていないこと
必要な 収入や所得	△0.15 (2.50)	ア 自分の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと イ 自分の支出額が多い、又は十分な支出ができないこと ウ 家族の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと

(注) () は、令和7年県民意識調査における実感平均値。

【補足資料 2】広域振興圏別の分野別実感の推移

各広域振興圏における施策等を推進する上で参考となるよう、平成 28 年以降の広域振興圏別の分野別実感の平均値の推移をまとめた（図 6）。

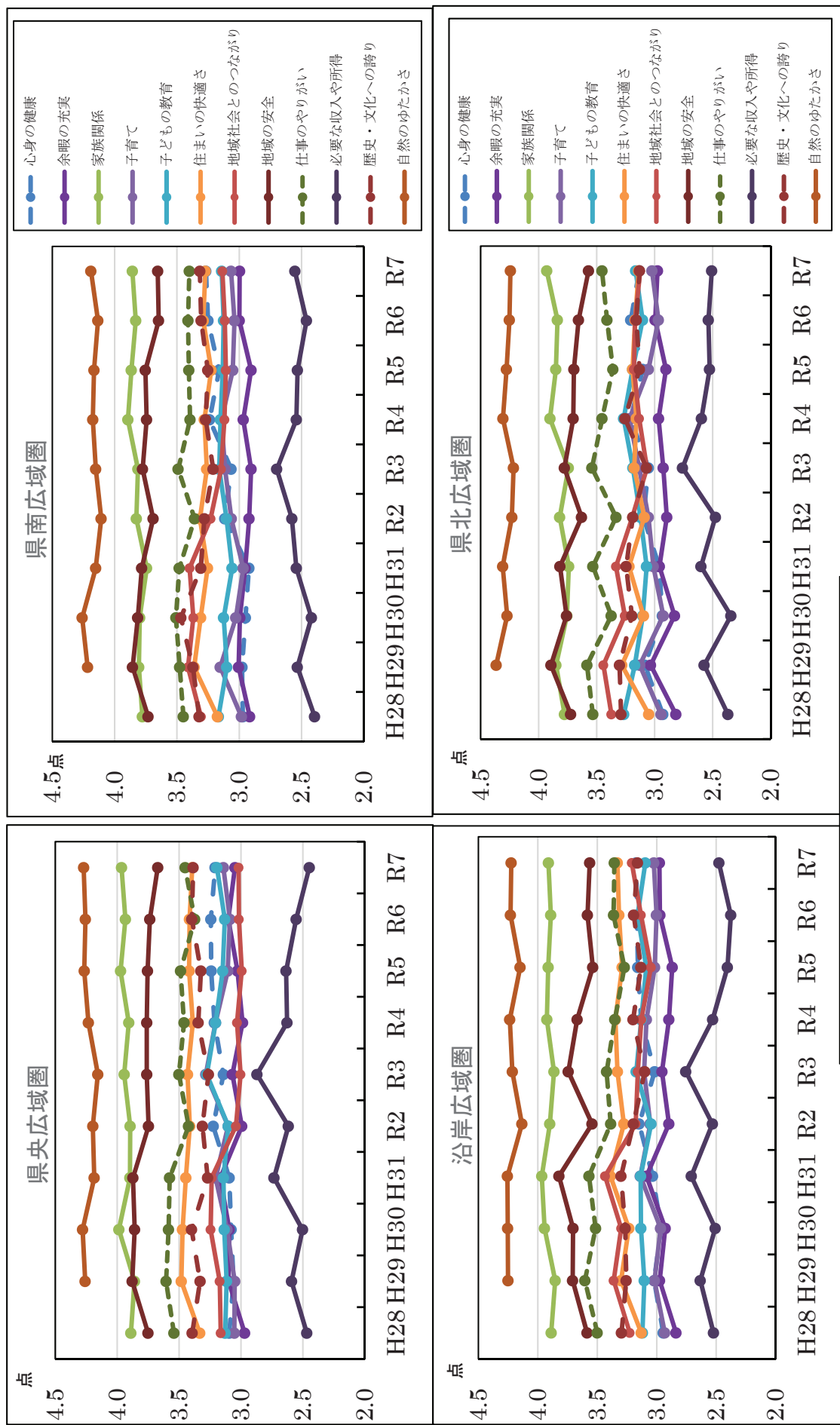


図 6 分野別実感の平均値の推移（広域振興圏別）

【補足資料3】「子育て」に関する分野別実感の推移

分析部会では、令和5年度の年次レポートにおける追加分析として、「子育て」に関する分野別実感の平均値の属性差を検証したが、令和6年度に引き続き、令和7年県民意識調査の結果から属性別の分野別実感の平均値を更新し、その推移を確認した。

【分析結果のまとめ】

- 令和7年県民意識調査における「子育て」の分野別実感値は、3.07点であり、前年から0.04点上昇した（図7）。
- 男女別では、引き続き「女性」が「男性」を上回っている（図8）。
- 年代別では、「30～39歳」及び「40～49歳」において、実感が上昇したが、20～29歳が低下した（図9）。
- 子どもの数別では、子どもがいる（「1人」、「2人」、「3人」、「4人以上」）に比べ、「子どもはいない」が、引き続き低い値で推移しているが令和6年に比べ0.1点上昇した（図10）。

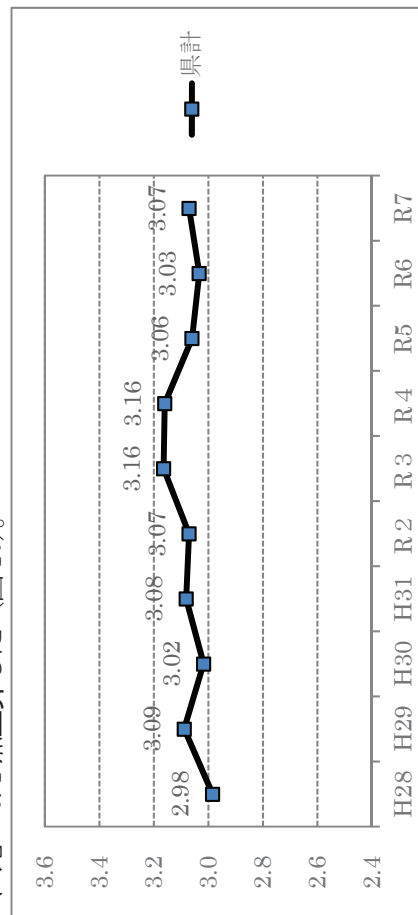


図7 「子育て」分野の実感平均値（県計）の推移

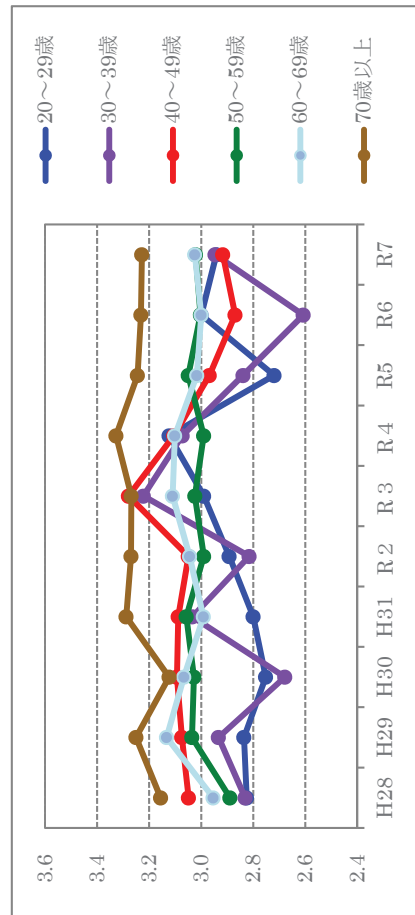


図9 「子育て」分野の実感平均値（年代別）の推移

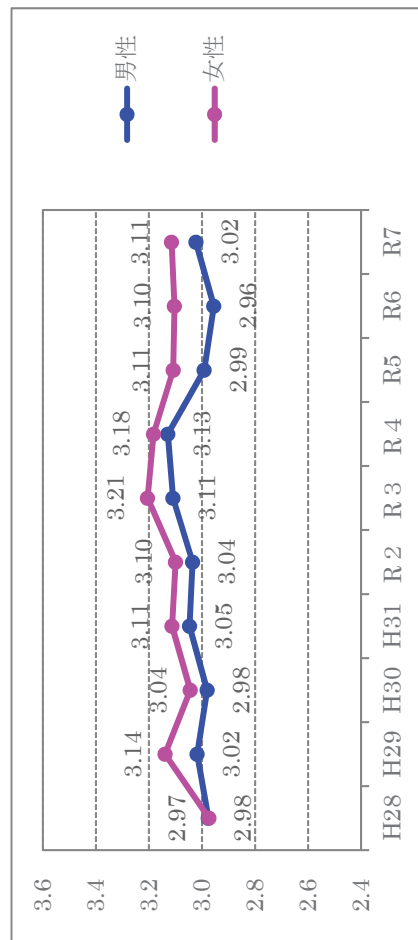


図8 「子育て」分野の実感平均値（性別）の推移

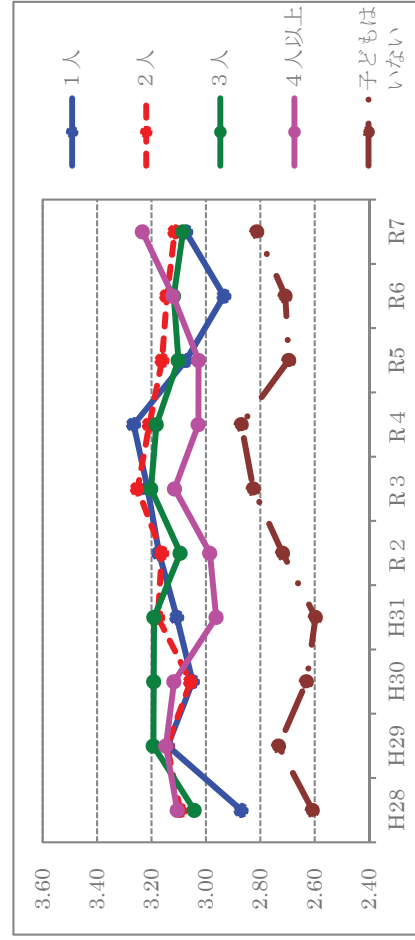


図10 「子育て」分野の実感平均値（子どもの数別）の推移

1 県民の幸福感に関する分析部会委員等名簿

氏 名	現所属等	備 考
吉野 英岐	岩手県立大学総合政策学部 教授	部長
和川 央	岩手県立大学宮古短期大学部 准教授	副部長
蛸崎 奈津子	岩手医科大学看護学部 教授	
竹村 祥子	浦和大学社会学部 教授	
谷藤 邦基	岩手県立大学地域政策研究センター 客員教授	
Tee Kian Heng	岩手県立大学総合政策学部 教授	
渡部 あさみ	岩手大学人文社会科学部 准教授	
広井 良典	京都大学 名誉教授	オブザーバー

(敬称略)

2 令和7年度における部会開催状況等

月 日	検討内容等
5月22日(木)	第1回部会開催 (1) 県民の幸福感に関する分析部会について (審議内容等) (2) 分析方針について (3) 分野別実感の分析について
5月26日(月)	第2回部会開催 (1) 分野別実感の分析について
6月2日(月)	第3回部会開催 (1) 分野別実感の分析について
6月19日(月)	第4回部会開催 (1) 分野別実感の分析について
8月6日(水)	第5回部会開催 (1) 令和7年度「幸福について考えるワークショップ」における意見等について (2) 「県民の幸福感に関する分析部会」令和7年度年次レポート(素案)について
9月9日(火)	第6回部会開催 (1) 「県民の幸福感に関する分析部会」令和7年度年次レポート(案)について (2) 令和7年度県民意識調査(補足調査)について
11月(予定)	総合計画審議会での分析結果を報告(予定)